

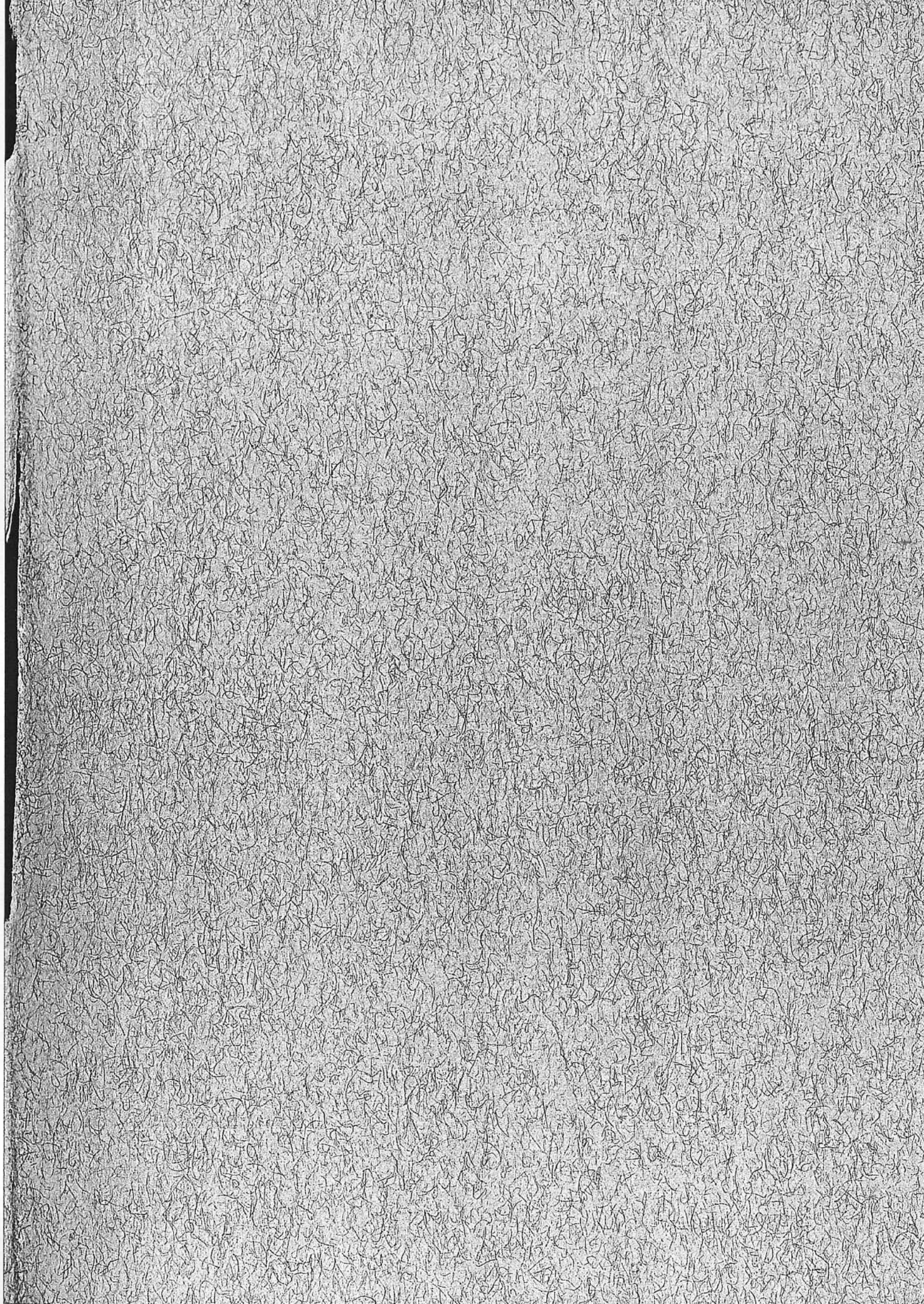
現代漢方治療の指針

増補版



漢方とよしくおもしろい人々 

小太郎漢方製薬株式会社



増
補
版

現代漢方治療の指針

 * 目 次 *

このテキストの利用法	1
漢方カード	4
病名別処方を選び方	5
症候別処方を選び方	26
処方解説	43
処方解説・増補	75
配合薬の成分と作用	102
漢方薬と民間薬	116
反鼻(まむし末)の薬効について	117

このテキストの利用法

このテキストは漢方医学的な診断によることなく、現代医学的病名と患者の病状の訴え（愁訴）とにより、漢方処方に応用できるように記述したものであります。

テキストの見方

「漢方処方を選び方」は病名別処方の選び方と症候別処方の選び方とにわけて記載してありますから、病名が判明したものについては前者を、病名が判明しないものについては後者をご覧ください。ここに掲げている処方のおのについての適用範囲あるいはその応用法、および処方構成などは処方解説に詳述してあります。また処方を構成する生薬個々の説明は配合薬の成分と作用に記述してあります。

処方の選び方

(一) 患者の訴え（愁訴）を主症状と副症状（随伴症状）

とにわけてはつきり聞き観察すること。この主症状とは特に劇しい症状あるいはもつとも苦痛とする症状（即ちこの除去を患者が先ず希望するもの）のことであります。勿論二つ以上あっても構わないもので

す。副症状はその他の苦痛と感ずる如何を問わず患者が訴える症状および外見上観察出来るものを意味します。

(二) 病名が判明すれば病名別処方の選び方により、主症状を目標に副症状を参考にして処方を決定して下さい

(三) 病名がはつきりしないときは主症状に従って症候別処方の選び方により、もつとも適切な処方を決定します。もし主症状が二つ以上ある場合は、二通り以上の方法で選んでも差支えないわけで、それらが一致すればその選択法は正確であるということが申せます。併し一致しなければ間違っているかと言うと必ずしもそうではなくて、二つあるいはそれ以上の処方を併用または合方する必要があることを意味している場合もあります。

例えば「食欲不振」という愁訴から小柴胡湯を、「頭痛」から桂枝茯苓丸が引出せたとしますと、この患者には小柴胡湯、桂枝茯苓丸の合方を投与してもよいのであります。

同じような方法を病名がはつきりしている患者にも応用すれば、より効果のある治療法を講ずることができます。即ち病名別処方の選び方による処方と、症候別処方の選び方による処方とが異っておればそれらを

合方して与えることも考えて下さい。

(四) 最後に以上の要領で決定した処方が投与時期を誤っていないか、あるいは体質上不適でないかなどを処方解説で確かめておくことも必要であります。

患者は往々自分の症状を正確に訴えることができません、重要な点がぼやけたり、省略したりすることが多く、また代人が来て聞き正すことが出来ないこともありますから、別掲の「漢方カード」を利用されると主症状や体質が把握できて、処方を選定を誤ることはありません。

漢方カードの使い方

漢方医学は所謂症状を治療する医学でありますから、現代医学では看過されがちな些細な症状が処方選定に重要な極め手になることがしばしばあります。従って本テキストを利用される前に要領よくしかも素速く患者の症状を知るために、このような漢方カードをメモ代わりにお使いになると甚だ便利であります。

気、血、水について

漢方では病氣の原因を気、血、水の三つに分けます。

1 気

気とは精神、又は神経を言い無形物であり形なくし

て働があり血や水を動かす力があります。気は病氣の時には上衝したり鬱滞する傾向があり、気の上衝とはのぼせて気分がいらいらしたり、或は胸苦しくなることであり、気が鬱滞すれば血や水の運行も渋滞します。

2 血（血毒又は瘀血）

俗に古血と言ひ、静脈に停滞する非生理的血液の意味であり、血行障害による症状を指します。瘀血のあるものは一般に顔色は赤黒いか又は青黒くてさえない、皮膚粘膜の紫斑点や青筋などが見られ、舌の辺に暗紫色が現われ唇が蒼くなったりします。大便が黒くて出血の傾向ある場合も、瘀血であることが多いのです。

3 水（水毒）

水分の新陳代謝障害、すなわち代謝異常亢進又は代謝の阻害されたものを言います。

胃部の振水音、腹中雷鳴、下痢又は便秘、嘔吐、尿量減少或は多尿、浮腫、動悸、めまい、耳鳴、頭痛、咯痰や唾液の分泌過多、関節痛、咳、口渴、多汗或は無汗等は水毒によることが多いのです。

以上是我々の祖先の考えた素朴な病因論であります。が、これ等の概念は現代のセリエ、レーリ、ラボリ

博士等による病氣の内因論に相当するものであります。即ち自律神経系、体液系、内分泌系の三つの要因にあたるものであると考えてよい訳であります。これ等の三つの系のバランスがくずれた状態を病氣と名付けるのですから、漢方の処方はいく等この調和をはかるように構成されていきます。

証について

証は漢方の特有の表現法ですが、病人の症状を総合的に判断して決定するものであります。人体は病原菌その他の疾病誘発因子に対する抵抗性の減弱した状態—これを医学的に素因といいます—において初めて病氣にかかるとは、その抵抗性減弱の程度も人によって大きな違いがあります。それは何故かと申しますと、各人の遺伝および環境による体質が異っており、さらに年齢、性別、人種、臓器および組織によっても大きく左右されるからであります。

漢方では病氣に対する抵抗力が低下している状態を虚または虚証といい、反対に抵抗力の充実している状態を実または実証と名付けます。これらはいずれも病氣に対する抵抗力の程度を示すものですが、実際上の判定は容易ではありません。

年齢、性、人種、臓器等が同一条件であれば大きっぱいって同じような体質の人は同じような病氣にかかり易いものです。従って厳密には前述の証によって処方を決定いたしますが便宜的に体質を目安として処方を定めることも出来ます。ただ体質の遺伝によるものはほとんど変らないとしても、環境によるものは変る可能性がありますからご注意ください。

漢方薬の科学的研究

實際上驚異的な効果を示す漢方薬も科学的研究が遅れているために、一部に疑を持たれたり、ひどい時はてんで信用されなかったりしますが、戦後欧米諸国および我國の研究陣により数種の漢方薬について、実験的裏付けをもつて、その作用の本質がほぼ解明されるに至りました。勿論その数は未だ極めて少ないのですが、学問の進歩は日進月歩でありますので今後続々新事実が明らかにされること期待されます。従って当研究所と致しましてはこれらのニュースおよび当研究所で確認した作用をこのテキストの改訂つどにお知らせすることに致します。くわしくは配合薬の成分と作用を参照して下さい。

(おところ)		(おなまえ)	男	女
(既往症及び今までの治療薬)		(病名)		
主				
訴				
体 格	筋骨質、中肉、ヤセ型、水肥り、脂肪肥り			
体 質	普通、腺病質、疲れ易い、冷え症、多汗症			
顔 色	健康色、赤い、赤黒い、青白い、青黒い			
血 圧	高い、低い、普通、(最高 最低)			
大 便	硬便、軟便、普通、下痢便、血便			
便 通	日 回 スッキリ出る、残る感じがする、多い、少い			
小 便	赤味がかかる、糖尿、蛋白尿、血尿、普通			
排 尿	一日 回夜間排尿 回 出にくい、排尿痛、残尿感			
頭	痛い、重い、のぼせ、めまい、頭汗			
目	充血、黄色い、視力減退、涙が出易い、マブタが重い			
耳、鼻	耳鳴り、耳ダレ、難聴、鼻つまり、鼻汁多い、膿汁			
口、舌	かわく、あれる、口苦い、舌白い、口臭			
のど	痛む、のどつまる、声ガレ			
咳、痰	咳(軽い、ひどい、空咳) 痰(多い、少ない、粘い、うすい、血痰)			
首、肩、背	首筋がこる、肩こり、背部痛、背部かたがるい			
胸、脇	胸や脇の圧迫感、胸苦しい、動悸、喘鳴、呼吸困難、息切れ			
胃	つかえる、重苦しい、痛む、胸やけ、悪心、食欲不振、嘔吐			
腹	腹鳴、膨満感、蠕動亢進、冷える、痛む			
手、足、腰	冷える、痛む、(部) はれる、マヒ感、運動障害			
婦人科	月経(遅れる、少ない、長引く) 月経困難(軽い、ひどい)、こしけ			
皮膚	分泌物(多い、少ない)、炎症、痛い、痒ゆい、じんま疹、化膿			
全身	微熱、疲労倦怠感、盗汗、不眠、衰弱、精神不安、身体動揺感			
備	発病 年 月			
考				

病名別処方を選び方

(註) 本文記載中ゴジックは選定上重要な極め手となる症状を表わす。また「尿量」とあるのは一回の尿量を指す。処方名中ゴジックのものは各病名別にもつとも繁用されるものである。

呼吸器疾患 (感冒)

薬方名

- 一 自然発汗がなく、発熱悪寒して項、肩、背などがこるもの。感冒の初期
葛根湯
- 二 右の症状で身体痛、関節痛があり、頭痛、鼻つまり、咳などがあるもの。流感に頓服的によく用いられ、乳児の鼻つまりにもよい。
麻黄湯
- 三 咳の発作時に稀薄な泡沫様の痰を喀出してせいぜいするもの。胸痛や利尿障害を伴なうこともある。
小青竜湯
- 四 自然発汗があつて、微熱悪寒するもの。感冒のこじれた場合にも好適。
柴胡桂枝湯
- 五 感冒がこじれて微熱がとれず、口が苦くて食欲不振で咳などを伴なうもの。
小柴胡湯
- 六 咽喉から胸元にかけてふさがる感じがするもの。声ガレ、から咳で困る人。
半夏厚朴湯
- 七 麻黄剤の使えない人で、頭痛がして気分がすぐれず、食欲不振を訴えるような虚弱な婦人や老人に好適。
香蘇散

(気管支炎、百日咳、気管支喘息、小児喘息、気管支拡張症)

八 胸痛があり、せいぜいして稀薄な喀痰が多いもの。気管支拡張症にもよい。

九 咳嗽甚だしく、発作時、頭部に発汗して咽喉がかわくもの。通常頓服的に用いる。小児喘息には特効があるが、虚弱な老人には禁忌。

- 小青龙湯
- 麻杏甘石湯

一〇 右の症状に似ているが自然発汗がないもの。通常頓服的に用いる。幼児には好適。

一一 こみ上げてくるような激しい咳、あるいは痰が粘稠で咯出困難なもの。

一二 咽喉がいらいらし、胸元にかけてふさがる感じがして、神経質で発作的呼吸困難を訴えるもの。

一三 気管支喘息一般に用い、九および一〇の症状で長期連用の必要があるとき。

一四 難治の気管支喘息で、アドレナリン、エフェドリン等が効果少なく永年苦しみ、胸や脇腹の重苦しいもの。長期連用が必要。

一五 右と同じような難治の気管支喘息で、みぞおち硬く便秘するもの。

一六 胸痛があり、痰は切れ難く胃部がつかえるもの。気管支拡張症にもよい。

(肺結核、肋膜炎)

一七 食欲不振で微熱、倦怠感あるいは肩こり、背痛がある初期症状または軽症のもの。

一八 右の症状より疲労倦怠感、食欲不振がやや著しいとき。回復期に化学療法剤の補助に用いることが多い。

一九 微熱、盗汗、胸痛または腹痛があるもの。

二〇 衰弱して神経症状が著明で、不眠、動悸、盗汗があつて口内がかわき軟便の傾向があるもの。

二一 こみ上げてくるような劇しい咳、あるいは粘稠な痰を咯出して、時にはのぼせ気味で血痰や咯血などを伴うもの。

麻黄湯

麦門冬湯

半夏厚朴湯

神秘湯

小柴胡湯

大柴胡湯
柴胡湯
柴厚朴湯
柴陷湯

小柴胡湯

補中益氣湯

柴胡桂枝湯

柴胡桂枝干姜湯

麦門冬湯

三 右の症状に胸水、胸痛があるもの。

三 胸水、胸痛があつて、喀痰は稀薄なもの。あるいは微熱を伴なうこともある。

三 衰弱とともに頑固な咳嗽や微熱が続くもの。

三 精神不安があり、のぼせて咯血するもの。化学療法剤耐性菌保持者に小柴胡湯と併用すれば効果がある。

三 右より咯血症状が著しく、貧血して月経不順などを伴なうもの。

三 咯血や代償月経があり、月経困難を伴なうもの。

三 パスなどの連用で胃腸障害を起し食欲不振のもの。

三 左右の症状で腹痛、軟便または下痢を伴なうとき。

消化器疾患（口内炎、胃炎、胃アトニー症、胃下垂、胃神経症、胃拡張症）

三 口内炎、口唇、口中に炎症があるもの。

三 冷え症、神経質で胃痛や胸やけのあるもの。

三 消化不良で胃部停滞感があるもの。食後下痢するものには特に好適。

三 悪心や嘔吐があつて、胃部がつかえ下痢しやすいもの。時には便秘するが軟便のものにも良い。

三 胃アトニー、胃下垂、胃神経症。神経質で咽喉から胸元にかけてふさがる感じがするもの。

三 食欲不振で疲労しやすく、肩こりや舌苔などがあるもの。

三 アトニー体質で疲労倦怠感が著しく、食欲不振のもの。

柴 陷 湯

小 青 竜 湯

人 参 養 榮 湯

黄 連 解 毒 湯

芎 帰 膠 艾 湯

桂 枝 茯 苓 丸

平 胃 散

半 夏 瀉 心 湯

黄 連 解 毒 湯

安 中 散

平 胃 散

半 夏 瀉 心 湯

半 夏 厚 朴 湯

小 柴 胡 湯

補 中 益 氣 湯

- ㊦ 胃痛強く、胃痙攣などがあって、悪心、胸やけなどがするもの。
- ㊧ みぞおち硬く便秘がひどいもの。
- ㊨ 胃部膨満感があつて、消化不良、心悸亢進などを伴なうもの。胃拡張に好適。
- ㊩ 内臓下垂し、腹中冷感があつて胃痛を伴なうもの。
- ㊪ 右より症状が比較的緩和なもの。小児の胃痛に好適。

(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)

- ㊫ 冷え症で、胸やけが著しく、悪心、胃痛などがあるもの。
- ㊬ 胃痛強く、嘔吐があつてみぞおち周辺部が緊張しているもの。
- ㊭ 胸や脇腹が重苦しく、食欲不振で舌に白苔があるもの。
- ㊮ 胃部がつかえ、軟便で下痢と便秘が交互に起つて、悪心、嘔吐があるもの。
- ㊯ 減酸症による胃痛があるもの。
- ㊰ みぞおち硬く便秘がひどいもの。
- ㊱ 肥満体質で便秘して胸やけするとき。
- ㊲ 嘔吐血、血便。のぼせ症で精神不安があり、軟便でやや便秘気味のもの。
- ㊳ 吐血、血便。右の症状に似ているが、大便硬く便秘するもの。

(腸カタル)

三	黄	防	大	小	半	小	柴	安		小	大	茯	大	柴
黄	連	風	柴	建	夏	柴	胡	中		建	建	苓	柴	胡
瀉	解	通	胡	中	瀉	胡	桂	中		中	中	芍	胡	桂
心	毒	聖	湯	湯	心	湯	枝	散		湯	湯	飲	湯	枝
湯	湯	散	湯	湯	湯	湯	湯			湯	湯	飲	湯	湯

症候別処方を選び方の下痢の項をご覧下さい。

(肝炎、肝硬変、黄疸、胆石症、胆嚢炎、膈炎)

三 肝臓疾患および膈炎で、みぞおち硬く便秘するもの。

三 肝臓疾患および膈炎で、胸や脇腹が重苦しく、食欲不振で疲労しやすいもの。

三 肝硬変で腹水があるもの。みぞおち硬く便秘すれば小柴胡湯より大柴胡湯の方がよい。また肝炎、胆石症、胆嚢炎、膈炎で悪心、嘔吐、食欲不振を伴うものにも好適。

三 黄疸を起して胃部がつかえ、微熱があり食欲不振のもの。

三 黄疸を起して、咽喉がかわき、胸苦しく便秘するもの。

三 胆石症、胆嚢炎で嘔吐があり疼痛の甚だしいもの。

三 胆石症、胆嚢炎で痛みは少ないが、嘔吐、心悸亢進などがあるもの。

三 肝炎、胆嚢炎、膈炎で慢性的経過をとって衰弱し、頭汗、盗汗、動悸などがあるもの。

(腹膜炎、虫垂炎、移動盲腸症)

三 腹膜炎。胸や脇腹が重苦しく食欲不振のもの。腹水があれば五苓散を合方する。

三 腹膜炎。右の症状より疲労倦怠感が著しいもの。

補 <small>ホ</small> 中 <small>チュウ</small> 益 <small>エキ</small> 氣 <small>キ</small> 湯 <small>トウ</small>	小 <small>ショウ</small> 柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 湯 <small>トウ</small>	柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 桂 <small>ケイ</small> 枝 <small>シ</small> 湯 <small>トウ</small>	柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 桂 <small>ケイ</small> 枝 <small>シ</small> 湯 <small>トウ</small>	茯 <small>フク</small> 苓 <small>レイ</small> 飲 <small>イン</small>	柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 桂 <small>ケイ</small> 枝 <small>シ</small> 干 <small>カン</small> 姜 <small>キョウ</small> 湯 <small>トウ</small>	五 <small>ゴ</small> 茵 <small>イン</small> 陳 <small>チン</small> 苓 <small>レイ</small> 湯 <small>トウ</small>	茵 <small>イン</small> 陳 <small>チン</small> 苓 <small>レイ</small> 湯 <small>トウ</small>	小 <small>ショウ</small> 柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 湯 <small>トウ</small>	小 <small>ショウ</small> 柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 湯 <small>トウ</small>	小 <small>ショウ</small> 柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 湯 <small>トウ</small>	大 <small>ダイ</small> 柴 <small>サイ</small> 胡 <small>コ</small> 湯 <small>トウ</small>
--	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	--

六 腹膜炎。衰弱して精神不安、不眠、動悸などがあるもの。

六 腹膜炎。腸管にガスが溜り腹痛があるもの。

六 腹膜炎。腹水のない虚弱体質のもの。

六 急性虫垂炎。腫瘍は右下腹部に局限し便秘するもの。本方を投与して腹痛を増し、不快感があれば直ちに中止すること。伯州散を併用してもよい。

六 虫垂炎または慢性の虫垂炎。腸管にガスが溜り、腹満感あるいは圧痛や蠕動亢進を自覚するもの。

六 虫垂炎の初期または移動盲腸症で、腹痛が限局的でないもの。

六 慢性虫垂炎または移動盲腸症で、疼痛は少ないが、圧痛がとれないもの。

循環器疾患（心疾患）

六 心内膜炎、心臓弁膜症、心臓性喘息。呼吸困難が甚だしく、咳嗽、喘鳴あるいは浮腫がある。咽喉がかわき胸苦しいもの。

六 心臓弁膜症、心臓性喘息。胸内苦悶、動悸、不眠、軟便があつて神経衰弱気味のもの。

六 心臓弁膜症。冷え症で貧血気味のもの。

六 心臓弁膜症。咽喉がかわき、排尿回数多く尿量減少し、浮腫があるもの。

六 心臓神経症。神経症状が著しく、発作的心悸亢進があるもの。

六 心不全は認められないが、動悸、めまいなどがあつて身体がふらつくもの。

六 狭心症、心臓神経症、心臓性喘息。心臓部疼痛、動悸、便秘があつてノイローゼ気味のもの。

柴胡桂枝干姜湯

大建中湯

小建中湯

大黃牡丹皮湯

大建中湯

柴胡桂枝湯

桂枝茯苓丸

加薏薏仁

木防己湯

柴胡桂枝干姜湯

当歸芍薬散

五苓散

半夏厚朴湯

苓桂朮甘湯

柴胡加龍骨牡蛎湯

壹 脂肪心。みぞおち硬く便秘がひどいもの。
貳 脂肪心。肥満体質で便秘するもの。

(高血圧症、動脈硬化症、半身不随)

- ㊦ 高血圧および動脈硬化。精神不安があつて、のぼせ症で胃部がつかえ便秘するもの。
- ㊧ 高血圧および動脈硬化。肩こり、耳鳴などがあつてみぞおち硬く便秘するもの。
- ㊨ 高血圧および動脈硬化。神経症状が著明で、動悸、不眠、便秘などがあつて胸苦しいもの。
- ㊩ 高血圧、動脈硬化、肥満体質で便秘するもの。
- ㊪ 高血圧および動脈硬化。足、腰が冷えて、頭痛、宿便があり、下腹部に圧痛があるもの。
- ㊫ 高血圧および動脈硬化。老人で腰痛があり、夜間排尿回数が多く、咽喉がかわくもの。
- ㊬ 高血圧。頭痛、めまい、立ちくらみ、動悸などがあつて、尿量減少するもの。
- ㊭ 高血圧。冷え症、貧血気味で、めまい、肩こりなどがあつて、排尿回数多く尿量減少し、蛋白尿などを認めるもの。
- ㊮ 脳出血後の半身不随で冷え症のもの。
- ㊯ 精神不安があつて、のぼせて胃がつかえ、三黄瀉心湯不適のもの。

(低血圧症)

㊰ 貧血気味で疲れやすく、食欲不振のもの。

大柴胡湯
防風通聖散

三黄瀉心湯
大柴胡湯

柴胡加龍骨牡蛎湯

防風通聖散

桃核承氣湯

八味丸

苓桂朮甘湯

当歸芍藥散

桂枝加朮附湯

黄連解毒湯

補中益氣湯

- 六 冷え症、貧血で、めまい、肩こりなどがあって排尿回数多く尿量減少するもの。
- 六 頭痛、のぼせ、めまい、立ちくらみ、心悸亢進などがあって尿量減少するもの。
- 六 頭が重く、神経衰弱気味のもの。

泌尿・生殖器疾患（腎炎、ネフローゼ症候群、萎縮腎、腎盂炎）

- 六 急性の腎炎、ネフローゼで浮腫が甚だしいもの。
- 六 急性の腎炎、ネフローゼ、腎盂炎で咽喉が著しくかわき、頭重、浮腫、嘔吐などがあり尿量減少するもの。
- 六 発熱性疾患後の腎炎、ネフローゼで、浮腫は少なく尿量減少するもの。
- 六 腎炎、ネフローゼで、咽喉がかわき、悪心、食欲不振で蛋白尿がとれにくいもの。腎盂炎で前記の症状に微熱や腰痛があるもの。
- 六 腎炎、ネフローゼ、腎盂炎で排尿回数多く、排尿痛、排尿困難があり、血尿などが出るもの。
- 六 冷え症の慢性腎炎、ネフローゼで排尿回数多く尿量減少するもの。疲れると蛋白尿が出るものには小柴胡湯を合方する。
- 六 老人の浮腫の少ない慢性腎炎、ネフローゼ、萎縮腎、腎盂炎で、腰痛、残尿感があつて、血圧高く夜間排尿回数が多いもの。
- 六 慢性腎炎、ネフローゼ、萎縮腎で、高血圧、便秘、臍部周辺に動悸を感じるもの。
- 六 慢性腎炎、ネフローゼ、萎縮腎で、頭痛、のぼせ、便秘、高血圧があるもの。
- 六 腎炎、ネフローゼで肝臓機能が悪く、咽喉がかわいて胸苦しく便秘するもの。

当帰芍薬散
苓桂朮甘湯
半夏厚朴湯

越婢加朮湯

五苓散

小青竜湯

小柴胡湯

猪苓湯

当归芍薬散

八味丸

柴胡加竜骨牡蛎湯

桃核承気湯

五茵陳蒿湯

二三 腎炎、ネフローゼ、腎盂炎で頭痛、微熱、悪心、食欲不振があるもの。

(腎臓結石、膀胱結石)

二三 排尿困難あるいは排尿痛があり、血尿や尿の色が赤いもの。

二三 咽喉がかわき、尿量減少して食欲不振や腰痛があるもの。

二四 腹痛が甚だしく、腹部が緊張して嘔吐があるもの。他薬を服用すると吐くような場合によ

二五 腰痛、排尿回数多く、排尿時に不快感のあるもの。

二六 下腹部に圧痛があつて便秘し、尿閉などがあるもの。

二七 肥満体質で便秘するもの。

(膀胱炎、尿道炎、前立腺肥大症)

二八 排尿困難あるいは排尿痛があり、血尿や尿の色が赤いもの。淋疾性尿道炎にもよい。

二九 排尿回数が多く、尿が混濁し、咽喉がかわくもの。

三〇 冷え症の老人や産後の婦人で、排尿後の不快感があるもの。前立腺肥大に好適。

三一 宿便があり、尿が溜って苦しいもの。淋疾性のもので及び前立腺肥大に好適。

柴胡桂枝湯

猪苓散

五苓散

小柴胡湯

八味丸

大黄牡丹皮湯

桃核承氣湯

加薏苡仁散

防風通聖散

猪苓湯

五苓散

八味丸

大黄牡丹皮湯

(遺精、陰萎、性的ノイローゼ)

- 二三 胸元が苦しく、動悸、不眠、便秘があつて神経症状が甚だしく、衰弱していないもの。
- 二三 右の症状でみぞおち硬く便秘し、肩こり、耳鳴などがあつて疲労するもの。
- 二四 肥満体質で便秘し、精力が減退したもの。
- 二五 男女更年期以降で、冷え症で咽喉がかわき、夜間排尿回数が多いもの。
- 二六 症状は二三に似ているが、便秘していないとき。
- 二七 虚弱体質で、疲労倦怠感が甚だしく、食欲不振、盗汗などがあるもの。

血液疾患 (貧血症、紫斑病)

- 二八 貧血。冷え症で排尿回数多く尿量減少するもの。
- 二九 慢性疾患による貧血。胃腸虚弱で、食欲不振、疲労倦怠感が甚だしく、盗汗などあるもの。
- 三〇 貧血。衰弱して精神不安、不眠、動悸などがあり、下痢しやすいもの。
- 三一 小児の貧血。食欲不振で微熱や倦怠感があるもの。
- 三二 出血過多による貧血。紫斑病。
- 三三 リウマチ性紫斑病。慢性のもの。発病の初期には越婢加朮湯などが良い。

代謝異常 (肥満症)

柴胡加竜骨牡蠣湯	大柴胡湯	防風通聖散	八味丸	桂枝加竜骨牡蠣湯	補中益氣湯	当归芍薬散	補中益氣湯	柴胡桂枝干姜湯	小柴胡湯	芎歸膠艾湯	柴胡桂枝湯
----------	------	-------	-----	----------	-------	-------	-------	---------	------	-------	-------

- 二三 便秘しがちな強壯体質の肥えすぎ一般に用いる。
- 二三 みぞおち硬く便秘し、肩こり、めまい、耳鳴がして高血圧などが伴なうもの。
- 二三 婦人で月経量が少ないか、または閉止して頭痛やのぼせがあつて胸元が苦しいもの。便秘がひどいときは大柴胡湯と桃核承気湯を合方する。
- 三七 水ぶとりで皮膚の色が白く、疲れやすくて浮腫または多汗のもの。

(糖尿病)

- 三六 排尿回数多く、尿量も増大して咽喉がかわき、疲労倦怠感、腰痛や腰の冷えがあり性欲減退するもの。腫物が出るものには好適。
- 三六 右の症状より甚だしく咽喉がかわいてむやみに水を欲しがり、腰痛や腰の冷えがないもの。
- 三三 排尿回数多く、尿量減少し、咽喉がかわいて、みぞおち硬く便秘するもの。
- 三三 体力が著しく衰え、咳嗽などを併ない、肺結核を併発するもの。

内分泌疾患 (青壯年期甲状腺腫、バセドウ病)

- 三三 婦人青壯年期甲状腺腫で、四肢の末端が冷え貧血するもの。
- 三三 バセドウ病。瘦せて心悸亢進、頭汗、不眠あるいは咽喉部に圧迫感、狭窄感があつて下痢しやすいもの。

柴胡桂枝干姜湯	柴胡芍薬散	加味門冬石膏	五加皮	柴胡湯	白虎加人参湯	八味丸	防己黄耆湯	桂枝茯苓丸	大柴胡湯	大柴胡湯	防風通聖散
柴胡桂枝干姜湯	柴胡芍薬散	加味門冬石膏	五加皮	柴胡湯	白虎加人参湯	八味丸	防己黄耆湯	桂枝茯苓丸	大柴胡湯	大柴胡湯	防風通聖散

一 痛の。バセドウ病の初期で、あまり衰弱せず、興奮しやすく、動悸、不眠を訴えて便秘するもの。

柴胡加竜骨牡蛎湯

運動器疾患（リウマチ、関節炎、五十肩、筋炎）

一 急性および慢性の関節・筋肉リウマチ。関節や筋肉に疼痛、浮腫があるもの。あるいは冷えると痛むもの。

麻杏薤甘湯

一 慢性関節・筋肉リウマチ、五十肩。冷え症で疼痛麻痺感があつて屈伸困難のもの。

桂枝加朮附湯

一 急性筋肉リウマチ、五十肩。項、肩、背などが硬くこつて痛むもの。

葛根湯

一 急性関節・筋肉リウマチ。疼痛が激しいとき頓服的に用いる。

麻黄湯

一 急性関節炎、関節リウマチ。浮腫が甚だしいもの。

越婢加朮湯

一 慢性関節炎、関節リウマチ。色白で水ぶとりの人で、屈伸困難であるが、主として下肢に浮腫があり疼痛は軽微なもの。

防己黄耆湯

一 外傷による関節炎。血腫があつて屈伸困難を訴えるもの。

桂枝茯苓丸

一 五十肩、関節炎。肥満体質で便秘するもの。

防風通聖散

一 多発性筋炎で、宿便があるもの。

加味大黃牡丹皮湯

神経疾患（神経痛、顔面神経麻痺）

一 神経痛、顔面神経麻痺。慢性で冷え症のもの。

桂枝加朮附湯

一四 神経痛、顔面神経麻痺、急性初期症状のもの。

一五 神経痛 慢性で便秘がちな肥満体質のもの。

一六 三又神経痛。咽喉がかわき、尿量減少するもの。葛根湯と合方することが多い。

一七 肋間神経痛。胸元が重苦しく便秘しないもの。小柴胡湯でもよい。便秘して硬便なら大柴胡湯、軟便なら柴陷湯を用いる。

一八 坐骨神経痛。頭痛、宿便を伴うもの。

一九 坐骨神経痛。四肢の末端が冷え、貧血の傾向があるもの。

二〇 坐骨神経痛。冷え症で糖尿病に併発するもの。

二一 外傷後の神経痛あるいは月経困難による坐骨神経痛に用いる。

(ノイローゼ、ヒステリー、不眠症)

二二 胸元が苦しく便秘し、興奮しやすく、動悸、不眠などがあるが、衰弱はしていないもの。

二三 のぼせ症で胃部がつかえ、眼の充血あるいは鼻出血などがあるもの。便秘が甚だしいときは三黄瀉心湯が良い。

二四 気鬱症、ヒステリーで発作性の心悸亢進などがあって、咽喉から胸元にかけてふさがる感じがするもの。

二五 右より更に気鬱が甚だしく、頭痛、不眠、食欲不振などがあるもの。

二六 神経衰弱、ヒステリーで衰弱し、不眠、動悸、息切れ、頭汗、盗汗などもあって軟便気味のもの。

二七 ヒステリー。訴えが多いが、取上げる程の症状が少なく、胃腸虚弱で食欲不振のもの。

葛根湯

防風通聖散

五苓散

柴胡桂枝湯

桃核承気湯

当归四逆加呉茱萸生姜湯

八味丸

桂枝茯苓丸

柴胡加竜骨牡蠣湯

黄連解毒湯

半夏厚朴湯

香蘇散

柴胡桂枝干姜湯

補中益氣湯

一五 頭痛、不眠、心悸亢進があつて尿量減少し、急に立てば身体がふらつくもの。
 一六 婦人の冷え症で頭が重く、俗に血の道といわれる不定症候群がある更年期性神経症のもの。

小児科疾患 (麻疹、おたふく風、水痘、クル病、夜尿症)
 夜驚症、虚弱体質

一七 麻疹、おたふく風の初期。頭痛、発熱(高熱)して悪寒するもの。

一八 虚弱体質で、右の症状がこじれて微熱があり、食欲不振のもの。おたくふ風、中耳炎、扁桃炎で前記症状を呈するものには桔梗・石膏を加える。

一九 虚弱体質の体質改善薬として、クル病、夜尿症、夜驚症などに用いる。

二〇 水痘。急性で皮膚に水泡を生じ、分泌物の多いもの。あるいは比較的強健な小児の夜尿症に用いる。

二一 夜驚症。稍々ノイローゼの傾向があり比較的強健なもので食欲は旺盛で便秘するもの。

二二 夜驚症、夜尿症。神経衰弱気味で比較的虚弱なもの。

外科疾患 (火傷、凍傷、癬、癰、肛門膿瘍、リンパ腺炎、
 るいれき、カリエス、ヘルニア)

二三 凍傷(第一度)。冷えのぼせて顔色が赤黒い傾向のもの。

二四 凍傷。右の症状で便秘するもの。

二五 凍傷。四肢の末端が冷えやすく、貧血の傾向があるもの。凍傷にかかりやすいものの予防にも用いる。

二六 凍傷(第三度)。右と同じ症状で永年輕快しないもの。

苓桂朮甘湯
 当归芍薬散

葛根湯

小柴胡湯

小建中湯

越婢加朮湯

柴胡加竜骨牡蛎湯

桂枝加竜骨牡蛎湯

桂枝茯苓丸

桃核承気湯

当归芍薬散

当归四逆加呉茱萸生薑湯

一七 癰、腫。初期で炎症発熱悪寒があるもの。化膿したものは桔梗・石膏を加える。

一八 癰、腫、リンパ腺炎、肛門膿瘍。経過の長引くもの。炎症や発熱が緩慢なものに発散または排膿の目的で用いることもある。小柴胡湯が適応する体質者に連用すれば体質を改善できさる。

一九 癰、腫、肛門膿瘍、るいれき、カリエス、その他化膿症。化膿を限局するために用いるが、初期あるいは亜急性で炎症が劇しいときには禁忌。

二〇 癰、腫。みぞおち硬く便秘がひどいもの。

二一 癰、腫。肥満体質で便秘し、続発するもの。

二二 癰、腫。宿便があつて下半身に発生するもの。

二三 リンパ腺炎、るいれき。微熱や悪寒があつて食欲不振のもの。

二四 カリエス。衰弱して疲労倦怠感があり、食欲不振のもの。

二五 ヘルニア。腹痛甚だしく、嘔吐などをよおすもの。

二六 ヘルニア。右より症状が緩和で、嘔吐がなく神経過敏の傾向あるもの。

二七 火傷、凍傷、癰、腫、肛門膿瘍。外用する。但し分泌物が比較的少ないもの。

肛門科疾患（痔核、脱肛、痔瘻）

二八 痔核、脱肛。便秘し、時々少量の出血があつて局所が痛むもの。あるいは掻痒感あるもの。

葛根湯

十味敗毒湯

伯州散

大柴胡湯

防風通聖散

大黃牡丹皮湯

加薏苡仁

小柴胡湯

加桔梗・石膏

補中益氣湯

伯州散

大建中湯

小建中湯

紫雲膏

乙字湯

一三 痔核、脱肛。冷え症で便秘するが、乙字湯を用いて下痢の甚だしいもの。

一四 痔核、脱肛。みぞおち硬く便秘して、肛門裂創のあるもの。出血がひどい時は黄連解毒湯を合方する。

一五 痔核。のぼせ症で出血するが貧血の傾向がないもの。

一六 痔核。暗赤色の出血が著しく、頑固な便秘を伴うもの。

一七 痔出血。出血過多のため貧血するもの。

一八 脱肛。衰弱して疲労恢復が遅く食欲不振のもの。

一九 痔瘻。稀薄な膿が永年止らないもの。または肉芽の発生が遅いもの。

二〇 痔核、痔瘻。外用する。(五十二を参照のこと)

産科疾患

(悪阻、^{ツワリ}習慣性流産、妊娠腎、微弱陣痛、過強後陣痛、弛緩性出血、乳房炎、産褥熱、産後脚気)

二一 つわり。神経症著しく、咽喉に異物感があるもの。

二二 つわり悪心がひどく、食欲不振で軟便の傾向があるもの。

二三 習慣性流産。妊娠腎、微弱陣痛、過強後陣痛などの予防に妊娠中常用して、産後の肥立をよくする。産褥熱で発熱、悪寒して食欲不振のもの。

二四 乳房炎。発熱悪寒して肩こりのあるもの。

二五 乳房炎。微熱、舌苔があつて、口唇部がかわき食欲不振のもの。

当帰芍薬散

大柴胡湯

桂枝茯苓丸

桃核承気湯

芎帰膠艾湯

補中益気湯

紫雲膏

伯州散

半夏厚朴湯

半夏瀉心湯

当归芍薬散

小柴胡湯

葛根湯

加桔梗石膏湯

小柴胡湯

加桔梗石膏湯

- 一六 乳房炎。化膿の疑いがあるもの。
- 一七 流産後の出血が止らないもの。
- 一八 妊娠中の出血、弛緩性出血。貧血するもの。
- 一九 産後脚気。咽喉がかわき、四肢の末端が冷え、麻痺感のあるもの。

婦人科疾患

（ 月経異常、月経困難症、代償月経、子宮發育不全、子宮後屈、子宮脱、子宮内膜炎、子宮筋腫、卵巣炎、卵管炎、不妊症、更年期障碍 ）

- 二〇 月経異常、子宮發育不全、子宮後屈、子宮脱、こしけ、不妊症、更年期障碍。下眼瞼が貧血し、冷え症で頭重、めまい、動悸、肩こり、腹痛などがあつて疲労しやすく、咽喉がかわいて排尿回数が多く尿量減少するもの。本方服用後に胃部が重苦しいもの。あるいは熱感があるものは、小紫胡湯を合方する。
- 二一 月経困難症、代償月経、こしけ、子宮筋腫、卵巣炎、卵管炎、不妊症、更年期障碍。下眼瞼が充血し、頭痛がして冷えのほせ、顔色はやや赤黒い傾向で、下腹部に圧痛があるもの。
- 二二 右とほぼ同じ適應症で、症状が劇しく、宿便があつて頭痛がして、四肢の末端が冷えるもの。
- 二三 右とほぼ同じ適應症で、宿便があつて右下腹部に圧痛があるが、頭痛や冷えないもの。
- 二四 月経過多あるいは月経が長引くもの。
- 二五 無月経、稀発月経。神経症からくる一時的なもの。
- 二六 神経性の無月経、稀発月経、更年期障碍。気分がすぐれず食欲不振のもの。
- 二七 月経異常、更年期障碍。目が充血し、頭痛、めまい、立ちくらみなどがあり、時には貧血するもの。二〇〇や二〇一の処方で効果のないとき試みると良い。
- 二八 月経過多、代償月経。やや便秘するが軟便のもの。

十味敗毒湯
桂枝茯苓丸
芎歸膠艾湯
八味丸

当归芍薬散

桂枝茯苓丸

桃核承気湯

大黃牡丹皮湯

芎歸膠艾湯

半夏厚朴湯

香蘇散

荅桂朮甘湯

黄連解毒湯

三〇 月経過多、代償月経。のぼせがひどく、頑固な便秘を伴なうもの。

皮膚疾患 (皮膚炎、湿疹、蕁麻疹、にきび、しみ、とびひ)
 (水虫、いんきん田虫、いぼ、酒查鼻、脱毛症)

三〇 かぶれ、湿疹、蕁麻疹、とびひ、いんきん田虫、水虫。分泌物があまり多くなり、慢性に経過するもの。

三二 湿疹、蕁麻疹。永年治癒しないもの。

三三 かぶれ、湿疹、蕁麻疹、とびひ。初期で発熱発赤してかゆみの劇しいもの。

三三 かぶれ、湿疹、とびひ、いんきん田虫。急性で水泡のあるもの、あるいは滲出液の多いもの。

三四 かぶれ、湿疹、蕁麻疹、にきび、いんきん田虫、水虫、しみ。冷えのぼせて、食欲不振あり、あまり便秘しないもの。

三五 局部が暗紫色を帯びた右と同じ適応症。冷えのぼせて頭痛、宿便があつて、下腹部に圧痛を認めるもの。

三六 右と同じ適応症。宿便はあるが、頭痛や冷えないもの。

三七 湿疹、蕁麻疹。尿に糖を検出する冷え症の老人や虚弱体質で咽喉がかわき、排尿異常があるもの。

三六 蕁麻疹。咽喉がかわいて胸苦しく、便秘するもの。慢性のものに五苓散を合方する。

三九 蕁麻疹。のぼせて微熱があり、かゆみの劇しいもの。

三〇 湿疹、蕁麻疹、にきび、脱毛症。みぞおち硬く便秘し、酒類または肉食を好み肝臓機能障碍の傾向があり、肩こり、耳鳴などを伴なうもの。

三〇 三黄瀉心湯

十味敗毒湯

消風散

葛根湯

越婢加朮湯

桂枝茯苓湯

小柴胡湯

桃核承氣湯

大黄牡丹皮湯

八味丸

茵陳蒿湯

大柴胡湯

- 三 濕疹、蕁麻疹、酒渣鼻、水虫、脱毛症。肥満体質（脂肪過多）で便秘するもの。
- 三 しみ、水虫、いんぎん田虫、いぼ。冷え症で貧血し、排尿回数多く尿量減少するもの。肌あれに薏苡仁を加える。
- 三 脱毛症。筋骨体質で、臍部周辺に動悸を自覚し、精神不安があつて便秘するもの
- 三 脱毛症。疲労しやすい神経質で、性的ノイローゼの傾向があつてあまり便秘しないもの。
- 三 水虫、いぼ。患部が乾燥しているもの。頑固ないぼには薏苡仁を加える。
- 三 しば。尋常性いぼ。青年性いぼ。一、二ヶ月の連用を必要とする。
- 三 化膿性皮膚疾患に右の各処方と併用する。急性、亜急性で発熱、発赤が著しく、痛みの劇しいときは禁忌。
- 三 にかび、とびひ、水虫に外用する。

眼科疾患

（ものもらい、ただれめ、結膜炎、角膜炎、トラコーマ）
フリクテン、虹彩炎、涙囊炎、白内障、緑内障、夜盲
症、眼底出血

- 三 初期で充血、流涙、眼やになどがあり、頭痛、肩こりがあるもの。
- 三 急性または亜急性症状で、充血があつて流涙の多いもの。
- 三 急性症状で眼瞼がはれて流涙の多いもの。
- 三 慢性的経過をたどり、充血、流涙があつて、めまいや立ちくらみがあるもの。
- 三 流涙多く、咽喉がかわいて疲労感のあるもの。
- 三 食欲不振、疲労感のあるもの。
- 三 婦人冷え症、貧血で月経不順があるもの。あるいは産後発病したもの。

葛根湯	小青龙湯	越婢加朮湯	苓桂朮甘湯	五苓散	小柴胡湯	当归芍药散
葛根湯	小青龙湯	越婢加朮湯	苓桂朮甘湯	五苓散	小柴胡湯	当归芍药散
葛根湯	小青龙湯	越婢加朮湯	苓桂朮甘湯	五苓散	小柴胡湯	当归芍药散

二五 婦人で冷えのぼせて充血がとれず、経過の長引くもの。眼底出血に苓桂朮甘湯を合方する。

二六 右の症状に頑固な便秘を伴うもの。

二七 肥満体質で便秘するもの。

二八 神経症状が甚だしく、動悸、不眠、便秘などがあるもの。

二九 化膿するもの。

三〇 排膿後経過の長引くもの。

三一 虚弱体質でたびたび再発するもの。

三二 糖尿病に併発するもの。栄養失調によるものあるいは老人性のもの。

三三 のぼせ症で充血し、胃部がつかえ便秘するもの。

三四 右の症状で三黄瀉心湯では下痢するもの。尿量減少するものは苓桂朮甘湯を合方する。

耳鼻咽喉科疾患（外耳炎、中耳炎、蓄膿症、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎）

一 初期で疼痛があり、発熱悪寒して、頭痛、肩こり、鼻づまりなどがあるもの。また肩こりを伴う慢性蓄膿症にも用いる。前記症状で排膿があれば、桔梗・石膏を加える。

二 経過が長引き、食欲不振があるもの。排膿があれば桔梗・石膏を加える。

三 経過が長引き、便秘して耳鳴、肩こりなどがあるもの。

四 肥満体質で便秘するもの。

五 化膿性の外耳炎、中耳炎および濃汁を分泌する鼻炎に用いる。

六 鼻炎。薄い分泌物の多いもの。

小	十	防	大	小	葛	黄	三	八	小	伯	十	柴	桃	桂
青	味	風	柴	柴	根	連	黄	味	建	州	味	胡	核	枝
竜	敗	通	胡	胡		解	瀉		中		敗	加	承	茯
湯	毒	聖	湯	湯	湯	毒	心	丸	湯	散	毒	龍	氣	苓
	湯	散	湯	湯		湯	湯				湯	骨	湯	朮
												牡	散	甘
												蛻		湯
												湯		丸

二三 慢性鼻炎、蓄膿症。めまいがして鼻がつまるもの。

二五 扁桃炎、咽喉炎、喉頭炎。声がれまたは声の出ないもの。感冒の後遺症状があれば、小柴胡湯を合方する。

二六 扁桃肥大。小児の虚弱体質でたびたび再発して体質の改善を要するもの。

二七 中耳炎、蓄膿症。慢性的経過をたどり、排膿が止らないもの。通常他の処方と併用する。

歯科疾患（むしば、歯根膜炎、歯槽膿漏）

二八 歯根膜炎、歯槽膿漏。初期で発熱、頭痛、肩こりなどがあって、疼痛が劇しいもの。排膿があれば桔梗・石膏を加える。

二九 歯根膜炎、歯槽膿漏。冷えのぼせて便秘し、歯ぐきが紫色にはれて痛み、慢性に経過するもの。

三〇 歯槽膿漏。みぞおち硬く便秘するもの。肥満体質には防風通聖散を用いる。

三一 歯槽膿漏。歯ぐきより出血するもの。

三二 歯槽膿漏。衰弱して食欲不振で貧血気味で治療力が乏しいもの。

三三 歯槽膿漏。糖尿病に続発するもの。

三四 歯槽膿漏。経過が長引いて化学療法剤が適応せず膿汁の止らないもの。

苓桂朮甘湯

半夏厚朴湯

小建中湯

伯州散

葛根湯

桃核承氣湯

大柴胡湯

黄連解毒湯

補中益氣湯

八味丸

伯州散

症候別処方を選び方

(註) 本文記載中ゴジックは測定上重要な極め手となる症状を表わす。また「尿量」とあるのは一回の尿量を指す。処方名中ゴジックのものは各症候別にもっとも繁用されるものである。

熱(高熱、微熱、熱感)

薬方名

三三 急性で発熱(高熱)悪寒、頭痛、関節痛、筋肉痛があり、自然発汗がないもの。

麻黄湯

三六 右の症状で特に項、肩、背などがこり、身体痛がひどくないもの。

葛根湯

三五 右の症状で呼吸困難や咳嗽がひどく、咽喉のかわみや胸痛、背部痛があつて多量の痰を咯出するもの。食欲不振のものは小柴胡湯を合方する。

小青竜湯

三六 胸や脇腹が重苦しく、あるいは圧迫感があつて微熱がとれず、舌に白苔があつて食欲不振のもの。

小柴胡湯

三七 右と同じ症状があつて胃部がつかえて硬く、舌に黄苔若しくは白苔があつて、便秘がひどいもの。

大柴胡湯

三六 微熱、盗汗、頭痛、胸痛があつて食欲不振のもの。

柴胡桂枝湯

三六 衰弱して微熱があり、咽喉がかわいて、盗汗、頭重、食欲不振、下痢または軟便あるいは胸や腹部で動悸を自覚するもの。

柴胡桂枝干姜湯

三六 精神不安や不眠などの神経症状があつて、臍部周辺で動悸を自覚し、便秘して微熱があるもの。

柴胡加竜骨牡蠣湯

三六 微熱、胸痛、胸水、背部痛、咳嗽などがあつて痰が切れ難いもの。

柴陷湯

三三 衰弱とともに頑固な咳や、微熱または稀に高熱を発して頭重、倦怠、食欲不振のもの。

人参養栄湯

三三 病後若しくはアトニー休質で、疲労倦怠感が著しく、微熱、食欲不振、貧血などの症状があるもの。

補中益気湯

三四 虚弱体質あるいは神経質で、発汗しやすく心悸亢進があり、下腹部で動悸を自覚するもの。時に微熱がある。

三五 虚弱体質で気力乏しく、疲労、動悸、咽喉のかわき、あるいは腹痛や微熱があるもの。

三六 神経質で虚弱なものの頭痛、頭重、微熱、食欲不振などの症状があり、内科的所見の少ないもの。

三七 熱感があつてむやみに水を欲しがり、排尿回数や尿量が多く、尿中に糖を検出するもの。

三八 微熱、あるいは熱感があつて、咽喉がかわき尿量減少して下痢するもの。

三九 咽喉がかわいて排尿回数や尿量が多く、腰痛あるいは足や腰に熱感があるもの。

四〇 こみあげてくるような劇しい咳をして、咽喉痛やのぼせがあり、咽喉から胸にかけて熱感があつて咽喉がかわくもの。

頭痛とのぼせ

六一 発熱して頭痛、関節痛、筋肉痛があるもの（急性）。

六二 発熱して前頭部が痛み、あるいは偏頭痛がして肩がこるもの（急性）。

六三 粘稠な鼻汁が出て鼻つまり、耳だれ、頭痛、肩こりなどがあるもの。

六四 便秘がひどく、のぼせて精神不安や不眠があり、胃部がつかえるもの。

六五 便秘がひどくてみぞおちが硬く、不眠、頭痛があるもの。

六六 頭痛、のぼせ、鼻血などがあり、足腰が冷えて腰痛、腹痛あるいは腹部の圧痛、月経困難があるもの。

六七 右の症状がひどく、便秘をして口唇部や爪の色が暗赤色のもの。

六八 貧血の傾向があり、頭痛、めまい、動悸立ちくらみなどがあるもの。

桂枝加龍骨牡蛎湯

小建中湯

香蘇散

白虎加人参湯

五苓散

八味丸

麦門冬湯

麻黄湯

葛根湯

葛根湯加桔梗石膏

三黄瀉心湯

大柴胡湯

桂枝茯苓丸

桃核承氣湯

苓桂朮甘湯

二九 微熱があり、疲労倦怠感、食欲不振、軽い頭痛を訴えるもの。

三〇 微熱、盗汗、頭痛、頭重、胸痛または腹痛などがあるもの。

三一 虚弱な婦人や老人で、神経症状が著明で、頭痛、食欲不振があるもの。

三二 下半身が極度に冷えてのぼせやすく、言語障害や四肢の麻痺があるもの。

頭重とめまい

三三 貧血の傾向があり、頭重、めまい、動悸、立ちくらみなどがあるもの。

三四 貧血して足腰が冷え、尿量減少して排尿回数が多く、頭重や、めまいがするもの。本方服用後胃がつかえるものには平胃散、食欲不振には小柴胡湯を合方する。

三五 出血過多で、貧血して、頭重、めまいがするもの。

三六 微熱があり、咽喉がかわいて疲れやすく、頭重、尿量減少するもの。

三七 四肢が極度に冷えて胃腸が弱く、動悸、めまい、下痢や軟便があるもの。

三八 神経質で胸あるいは咽喉に異物感があつて、食欲不振で疲れやすく、頭重感があるもの。

三九 胃部膨満感があつて動悸を自覚し、食欲不振で時にめまいがするもの。

四〇 衰弱して微熱があり盗汗、頭重、食欲不振などを訴えるもの。

四一 衰弱とともに頑固な咳や熱が続き、頭重、食欲不振があるもの。

四二 微熱、盗汗、頭重、胸痛または腹痛などがあるもの。

柴胡桂枝湯	人参養榮湯	柴胡桂枝干姜湯	茯苓飲	小柴胡湯	半夏厚朴湯	真武湯	五苓散	小柴胡湯	芎歸膠艾湯	当歸芍藥散	苓桂朮甘湯	桂枝加朮附湯	香蘇散	柴胡桂枝湯	小柴胡湯
-------	-------	---------	-----	------	-------	-----	-----	------	-------	-------	-------	--------	-----	-------	------

動悸または心悸亢進

三〇三 精神不安や不眠があつて便秘し、臍部周辺で動悸を自覚するもの。

三〇四 衰弱して食欲不振で、心悸亢進や臍部周辺で動悸を自覚し、口内または口唇部がかわきやすいもの。

三〇五 神経質な虚弱体質で、心悸亢進または下腹部で動悸を自覚し、発汗しやすいもの。

三〇六 貧血して足腰が冷え、腹痛、めまい、動悸、肩こりなどがあるもの。

三〇七 貧血の傾向があり、頭重、めまい、動悸、立ちくらみがあるもの。

三〇八 胃部膨満感があつて動悸を自覚し、悪心や食欲不振があるもの。

三〇九 虚弱体質で気力乏しく、疲労、腹痛、動悸などがあるもの。

三〇〇 胃部がつかえて動悸がして息苦しく、軽い咳、咽喉のかわき、浮腫などがあるもの。

三〇一 四肢が極度に冷えて、頭重、動悸、尿量減少、下痢があるもの。

咽喉がかわくと口内がかわく

三〇二 むやみに水を欲しがり、排尿回数や尿量が多いもの。

三〇三 むやみに水を欲しがり、尿量が減少して腹痛や浮腫があり、下痢するもの。

三〇四 咽喉がかわいて水を欲しがり、排尿回数、尿量ともに多いもの。
 三〇五 咽喉がかわいて、足腰の冷えや腰痛があり、排尿回数が多くて残尿感があるもの。

柴胡加竜骨牡蠣湯

柴胡桂枝干姜湯

半夏厚朴湯

桂枝加竜骨牡蠣湯

当归芍薬散

苓桂朮甘湯

茯苓飲

小建中湯

木防己湯

真武湯

白虎加人参湯

五苓散

八味丸

三五 咽喉がかわいて尿量減少し、着色尿で便秘して胸苦しいもの。

三六 排尿困難で残尿感があり、咽喉がかわいて排尿回数が多いもの。下半身が冷えるものには当帰芍薬散を合方する。

三七 浮腫がひどく、尿量減少して呼吸困難や関節痛があり、急性のもの。

三八 強い咳や呼吸困難があり、咽喉がかわいて発汗しやすいもの。

三九 口が苦くて舌に白苔があり、食欲不振、疲労、咽喉のかわきなどがあるもの。

四〇 頭痛、頭重、めまい、動悸がして食欲不振で尿量減少し、時に口内がかわくもの。

四一 衰弱して微熱があり、食欲不振で盗汗、息切れなどがあり、口内がかわき軟便の傾向があるもの。

四二 衰弱して、のぼせる傾向や熱感があり、咽喉がかわいて強い咳があり、咽喉痛があるもの。

四三 虚弱体質で気力乏しく、疲労、動悸、腹痛、咽喉のかわきなどがあるもの。

四四 呼吸困難が甚だしく、咳、浮腫、自然発汗があり咽喉がかわくもの。

四五 極度に冷えて咽喉のかわきがあっても、水は欲しくなく、永年下痢や軟便が止らないもの。

口（または口唇部）があれ

三六 胃がつかえて排便量が少なく、口内があれ、のぼせや出血の傾向があるもの。

茵陳蒿湯
五苓散

猪苓湯
苓散

越婢加朮湯
麻杏甘石湯

小柴胡湯
五苓散

小柴胡湯
小柴胡湯

柴胡桂枝湯
柴胡桂枝湯

柴胡桂枝湯
柴胡桂枝湯

柴胡桂枝湯
柴胡桂枝湯

麦門冬湯
小建中湯

小建中湯
木防己湯

木防己湯
真武湯

真武湯
黄連解毒湯

黄連解毒湯

三三 咽喉や口唇部があれ、便秘して胸苦しく尿量減少するもの。

三六 胃部がつかえあるいは重苦しく、腹鳴とともに僅かに腹痛があり、口内があれて下痢または軟便のもの。

三九 衰弱して微熱があり、頭部に汗が出やすく、あるいは盗汗があり、口唇部がかわいてあれるもの。

肩 (または項) のこり

三〇 発熱、悪寒して項、肩、背などがこるもの、あるいは関節痛があるもの。

三一 疲れやすく食欲不振で口臭があり、項や肩がこるもの。この症状が著明で便秘がひどいものは大柴胡湯を用いる。

三二 頭痛、のぼせ、耳鳴りがあって肩がこり、足や腰が冷えるもの。この症状が著明で便秘がひどいときは桃核承気湯を用いる。

三三 肥満体質で頭痛、肩こり、胸やけ、便秘などがあるもの。

三四 貧血、冷え症で頭重、肩こり、腹痛、腰痛があるもの。

三五 虚弱な婦人や老人で、神経症状が著しく、頭痛や肩こりを訴えるもの。

胸痛と背部痛

三六 胃痛や胸痛が強く、悪心があるもの。

三七 胸痛があり、痰が切れ難く、胃部のつかえや背部痛があるもの。

茵陳蒿湯

半夏瀉心湯

柴胡桂枝干姜湯

葛根湯

小柴胡湯

桂枝茯苓丸

防風通聖散

当归芍薬散

香蘇散

柴胡桂枝湯

柴陷湯

- 三六 みぞおちがつかえて硬く、胸痛や胸あるいは脇腹に圧迫感があつて、便秘がひどいもの。
尿量減少して、咽喉がかわくものは五苓散を合方する。
- 三九 胸痛があり、呼吸困難や咳嗽とともに泡沫様の痰を咯出するもの。
- 四〇 胸や脇腹が重苦しく、あるいは圧迫感があつて肩こりや、背部痛があるもの。
- 四一 精神不安や不眠があつて便秘し、臍部周辺で動悸を自覚し、軽い胸痛があるもの。
- 四二 こみあげてくるような劇しい咳をして、胸痛を自覚し、粘稠な痰を咯出するもの。
- 四三 虚弱体質で疲れやすく、背部がだるくて軽度に痛むもの。

悪心と嘔吐

- 四四 神経質で、咽喉や胸に塞がる感じがあり、悪心、嘔吐があるもの。疲れやすく食欲不振があるときは小柴胡湯を合方する。
- 四五 悪心や嘔吐があつて胃部がつかえ、下痢や軟便の傾向があるもの。
- 四六 胸痛や胃痛が強くと、悪心や嘔吐が劇しいもの。
- 四七 胸や脇腹が重苦しく、みぞおちが硬くて、悪心、嘔吐があつて便秘がひどいもの。
- 四八 胸や脇腹が重苦しく、悪心や嘔吐があつて食欲不振のもの。
- 四九 咽喉がかわいて尿量減少し、悪心、嘔吐、腹痛などがあるもの。
- 五〇 胃部膨満感があつて、悪心または嘔吐、食欲不振、時に下痢するもの。
- 五一 神経質で、胃痛、胸やけ、悪心があり、冷え症のもの。
- 五二 腹中冷感があつて、便秘し、腹部膨満感、腹痛あるいは悪心があり、冷え症のもの。

大柴胡湯	小柴胡湯	五苓散	茯苓飲	安中散	大建中湯	半夏厚朴湯	半夏瀉心湯	柴胡桂枝湯	大柴胡湯	小柴胡湯	小建中湯	柴胡加竜骨牡蛎湯	麦門冬湯	小建中湯	大柴胡湯	小青竜湯	小柴胡湯
------	------	-----	-----	-----	------	-------	-------	-------	------	------	------	----------	------	------	------	------	------

三三 四肢が極度に冷えて、動悸、めまい、あるいは下痢しやすく、僅かに悪心があるもの。
 三三 呼吸困難が甚しく、咳、喘鳴、あるいは浮腫、悪心などがあるもの。

冷 え 症（全身、手足腰、局部）

三三 下半身が極度に冷えて、四肢の麻痺感や言語障害があつて、尿量減少して、発汗あるいはのぼせやすいもの。

三三 咽喉がかわいて、足腰の冷えや腰痛があり、排尿回数が多く、残尿感があるもの。特に初老以降の人に多い。

三三 腹中冷感があつて、腹部膨満感、腹痛あるいは悪心などがあり、大便が快通しないもの。

三三 貧血して足腰が冷え、尿量減少して、排尿回数が多く、頭重、肩こり、めまい、動悸、腰痛などがあるもの。中年以降の婦人に多い。

三三 右の症状があつて手、足、腰が冷え、腹部膨満感があつて、腰から足にかけてひきつるような自覚があるもの。あるいは末梢血管循環障害があつて、凍傷にかかりやすいもの。

三三 出血過多で貧血して、頭重、めまい、腹痛、腰痛があつて、全身的に冷えを自覚するもの。

三三 色白、水肥りのタイプで疲れやすく、汗かきで、下肢に浮腫があつて冷えるもの。

三三 胃部がつかえて、呼吸困難、動悸、咳嗽、あるいは喘鳴があつて冷えるもの。

三三 虚弱体質で気力乏しく、疲労、動悸、咽喉のかわき、腹痛あるいは腹満などがあつて冷えを自覚するもの。

三三 衰弱して微熱があり、盗汗、口内や口唇部がかわき、食欲不振、軟便あるいは下痢して全身に冷感があるもの。

真武湯
木防己湯

桂枝加朮附湯
八味丸

大建中湯

当归芍薬散

当归四逆加呉茱萸生姜湯

芎藭帰膠艾湯

防己黄耆湯

木防己湯

小建中湯

柴胡桂枝干姜湯

三五 アトニー體質あるいは病後で貧血して、疲労倦怠感が著しく、食欲不振で軟便があり冷えるもの。

三六 衰弱とともに頑固な咳や熱が続き、頭重、食欲不振があつて、悪寒や冷感を自覚するもの。

三七 頭痛、のぼせ、肩こり、足腰の冷え、腰痛、腹部の圧痛、月経不順、便秘などの症状がひどいもの。

三八 右の病状があるが、比較的緩和で便秘しないもの。特に青壮年や未婚婦人に多い。

腹痛 (該当の症状がある時は腹痛の部位に関係なく応用できる)

(全体)

三九 虚弱體質で疲れやすく、腹痛があつて下腹部で動悸を自覚するもの。

四〇 腹中冷感があつて、腹痛、腹部膨満感、便秘あるいは下痢するもの。

四一 四肢が極度に冷えて、頭重、腹鳴、尿量減少、下痢、腹痛などがあるもの。

(上腹部)

四二 みぞおちが硬く、胸や脇腹の圧迫感があつて便秘がひどく、悪心、嘔吐があつて、上腹部に痛みを自覚するもの。

四三 胃部から腹部周辺にかけて劇しく痛み、腹部が緊張して微熱や悪心があるもの。

四四 胸や脇腹が重苦しく、舌に白苔があつて、食欲不振で悪心や痛みがあり、疲れやすいもの。

四五 神経質で、胸やけ、悪心、腹部に鈍痛があつて冷え症のもの。

補中益氣湯

人参養榮湯

桃核承氣湯

桂枝茯苓丸

小建中湯

大建中湯

真武湯

大柴胡湯

柴胡桂枝湯

小柴胡湯

安中散

三六 胃部停滞膨満感があつて、食後下痢すると爽快感があり、排便前に腹痛があるもの。
 三七 衰弱して微熱があり、口内や口唇部がかわいて食欲不振、下痢または軟便あるいは腹痛があるもの。

平胃散
 柴胡桂枝干姜湯

(下腹部)

三六 宿便があつて排便困難で、右下腹部に圧痛や自覚痛があるもの。
 三七 のぼせ症で頭痛、肩こりがあり、下半身が冷え、宿便があつて腰痛や腹痛があるもの。
 三〇 右の症状が緩和なもので、便秘しないもの。

大黃牡丹皮湯
 桃核承氣湯
 桂枝茯苓丸

三一 発熱、悪寒して、項、肩、背などがこり、腹痛、下痢、血便などがあるもの。但し急性症状で高熱の時に用いる。
 三二 のぼせはないが頭重があり、冷え症で特に足腰に冷感があつて、排尿回数が多く、尿量減少して腹痛があるもの。

葛根湯

三三 右の症状があり、手、足、腰が冷え、腹部膨満感があつて、腰痛や腰から足にかけてひきつるような自覚があるもの。あるいは凍傷にかかりやすいもの。

当归芍薬散
 当帰四逆加

三四 子宮出血、痔出血がひどく、冷感や腹痛を伴なうもの。
 三五 胃部がつかえ、悪心や嘔吐があつて、食欲不振、下痢、腹痛があるもの。
 三六 下腹部が緊張して動悸を自覚し、腹満感やあるいは腹痛があるもの。

芎藭帰膠艾湯
 半夏瀉心湯
 桂枝加竜骨牡蛎湯

下痢と軟便

三七 急性で発熱、悪寒して下痢し、排便回数が多くて残った感じがするとき。この症状が著しいときは大黃または三黄瀉心湯を、やや緩和なものは黄連解毒湯を合方する。

葛根湯

三八 咽喉がかわいて尿量減少し、腹痛は少ないが水瀉性便を排出する（急性）もの。

三九 胃部停滞感があって、食後に下痢すると爽快感があるもの。咽喉がかわいて下痢がひどいものは五苓散を合方する。

四〇 強健な体質で、みぞおちが硬くて便秘し、あるいは下痢をするもの。

四一 胃部がつかえ、悪心、嘔吐や腹鳴があり、軟便、下痢、便秘が交互に起るもの。

四二 腰痛や腹痛があり、下腹部が緊張して、下痢便または粘液便を少量排出するもの。

四三 のぼせ症で胃部がつかえ、排便量が少なく、稀に軟便または下痢をするもの。

四四 衰弱して微熱があり、食欲不振で、盗汗、口内または口唇部のかわき、軟便などがあるもの。

四五 衰弱とともに頑固な咳や、微熱が続き、食欲不振で軟便のもの。

四六 病後あるいはアトニー体質で、疲労倦怠感が著しく、食欲不振で軟便のもの。

四七 胃部停滞膨満感があって、尿量減少し、食欲不振で時々下痢をするもの。

四八 冷え症で、特に足腰が冷え、排尿回数が多くて尿量減少し、下痢または軟便のもの。

四九 虚弱体質で、疲れやすく、排尿回数が多くて腹痛があり、下痢するもの。

五〇 腹中冷感があつて、腹痛、腹部膨満感あるいは蠕動亢進を自覚し下痢するもの。

五一 足腰が極度に冷えて尿量減少し、腹鳴があつて下痢または軟便がながびくもの。

便秘（大黄剤不適な便秘を含む）

四二 下腹部に圧痛があつて、便秘（宿便）し、口唇部や爪が暗赤色を呈するもの。

五苓散

平胃散

大柴胡湯

半夏瀉心湯

柴胡桂枝湯

黄連解毒湯

柴胡桂枝干姜湯

人参養榮湯

補中益氣湯

茯苓飲

当归芍薬散

小建中湯

大建中湯

真武湯

大黄牡丹皮湯

四三 頭痛、肩こり、耳なりなどがあって、下半身が冷え、右の症状があるもの。

四四 みぞおちが硬く、圧迫感があつて、便秘がひどいもの。

四五 のぼせ症で精神不安があつて、胃部がつかえ便秘（硬便）するもの。効果が少ない時は適宜大黃を加える。

四六 胸苦しく咽喉がかわき、便秘して尿が着色しているもの。

四七 神経症状がひどく、不眠、胸内苦悶などがあつて便秘するもの。

四八 肥満体質で便秘するもの。肩こりや胸やけを伴なうことがある。

四九 のぼせ症で、頭痛、肩こりなどがあつて月経困難を伴ない、便秘するもの。

五〇 のぼせ症で項や肩がこり、胃部がつかえて排便（軟便）量少ないが、大黃劑不適のもの。

五一 神経質、冷え症で、胃痛、胸やけ、便秘などがあるもの。

五二 疲れやすく、平素から食欲が少なく、胃部がつかえて重苦しく、時には悪心や腹痛があり便秘して、肩こりや背部倦怠感があるもの。排便量が少ない時は黄連解毒湯を加える。

五三 胃部が重苦しく、悪心、嘔吐や腹鳴があつて便秘（軟便）するもの。

五四 冷え症で、貧血して、頭痛、肩こり、腰痛などがあり、便秘するもの。便秘がひどいものは適宜大黃を加える。

桃核承気湯

大柴胡湯

三黄瀉心湯

茵陳蒿湯

五苓散

柴胡加竜骨牡蛎湯

防風通聖散

桂枝茯苓丸

加大大黄湯

また三黄瀉心湯

黄連解毒湯

安中散

加大大黄湯

小柴胡湯

半夏瀉心湯

当归芍薬散

四三 虚弱な老人や乳幼児で腹痛があつて便秘し、大黃劑で腹痛を起すもの。特に虚弱な小児の便秘に好適。

四六 腹中寒冷を自覚し、腸管にガスが溜り腹満感あるいは蠕動不安を自覚して便秘するもの。

四七 腰痛や腰部の冷えがあり、排尿回数や尿量が正常でなく、便秘するもの。

四八 足腰が極度に冷え、下痢や軟便が続く、時には便秘（軟便）するもの。

精神不安と不眠

四九 神経症が著しく、驚きやすくて臍部周辺で動悸を自覚し、便秘して不眠があるもの。

四〇 頭痛、のぼせ、精神不安、足腰の冷え、腰痛、便秘などがあるもの。

四二 便秘がひどくみてみぞおちが硬く、精神不安があり、精力が減退して疲れやすいもの。

四三 のぼせ症で便秘がひどく、胃部のつかえ、精神不安、不眠などがあるもの。

四三 のぼせ症で、頭痛、腰痛、下腹部の圧痛、月経困難、足腰の冷え、あるいは神経症状があるもの。排便（軟便）量が少なく、神経症状が劇しいものは黄連解毒湯を加える。

四四 のぼせ症で精神不安があり、諸出血の傾向があつて、排便量（普通便）が少ないもの。

四五 疲れやすく食欲不振で、物事が気になり、あるいは怒りっぽいもの。

四六 神経質で、咽喉や胸に絶えず異物感があつて、精神不安、不眠、悪心、嘔吐、食欲不振、疲労感などがあるもの。

四七 下腹部が緊張して、動悸を自覚し、発汗しやすく、疲労あるいは神経症状があるもの。

四八 咽喉がひどくかわいて、発熱あるいは熱感があつて神経症状を伴うもの。

小建中湯

大建中湯

八味丸

真武湯

柴胡加竜骨牡蠣湯

桃核承気湯

大柴胡湯

三黄瀉心湯

桂枝茯苓丸

黄連解毒湯

小柴胡湯

半夏厚朴湯

桂枝加竜骨牡蠣湯

白虎加人参湯

四元 衰弱して氣力が乏しく、神經衰弱氣味で、盜汗、動悸、口唇部のかわきなどがあって、疲勞倦怠感があるもの。

四〇 虚弱な老人や婦人で、神經症状が著明で、頭痛、不眠があるもの。

四一 神經質な虚弱體質で、発作的に呼吸困難や咳、あるいは喘鳴があつて、精神不安、不眠などを伴なうもの。

四二 出血過多のため、あるいは出血が長びいて止まらず、精神不安があるもの。

浮腫と水腫（全身または局部）

四三 急性で、全身的に浮腫がひどく、咽喉がかわいて尿量減少し、呼吸困難を伴なうもの。あるいは発汗しやすいもの。

四四 右の症状があり、亜急性のもので咳の発作とともに稀薄な多量の痰を咯出するもの。

四五 咽喉がかわいて尿量が著しく減少し、全身的に浮腫（急性）があるもの。

四六 筋肉痛や関節痛があり、亜急性または慢性に経過したもので、時に疼痛する部位に局部的浮腫や熱感があるもの。浮腫の程度が軽微で肌あれの傾向があるものは薏苡仁を加える。

四七 排尿困難で排尿回数が多く、残尿感があつて咽喉がかわき、あるいは熱感を伴ない、下半身に浮腫があるもの。頭痛、肩こり、便秘、下半身の冷え、こしけなどがあるものは桃核承氣湯を、足腰が冷え、頭重、肩こりがあつて、貧血の傾向があれば当帰芍薬散を合方する。

四八 頭痛、肩こり、下半身の冷え、腰痛、腹部の圧痛、月経不順、便秘などがあつて、顔あるいは足に浮腫を来たし、口唇部や爪が暗紫色のもの。

四九 肥満（脂肪過多）體質で、便秘、尿量減少、浮腫などがあるもの。

五〇 頭痛、めまい、身体動揺感、動悸があつて尿量減少し、顔や足に浮腫があるもの。

五一 心臓が弱く、動悸、呼吸困難があり、胃部がつかえ尿量減少して、咳、咽喉のかわき、浮腫などの症状が著明なもの。

柴胡桂枝干姜湯

香蘇散

神秘湯

芎歸膠艾湯

越婢加朮湯

小青竜湯

五苓散

麻杏薏甘湯

猪苓湯

桃核承氣湯

防風通聖散

苓桂朮甘湯

木防己湯

㊦ 水肥り、色白のタイプで、発汗が多くて疲れやすく、浮腫は下肢や膝関節に多いもの。

㊧ 衰弱して微熱があり、口内がかわいて、盗汗、動悸、食欲不振、尿量減少、軟便、浮腫などがあるもの。浮腫がひどく咽喉がかわくものは五苓散を合方する。

㊨ 咽喉がかわいて排尿回数が多く、尿量増大あるいは減少して、残尿感があり、腰痛、足腰の冷え、あるいは四肢に熱感があつて浮腫を伴わない、胃腸障碍が少ないもの。

㊩ 足腰が極度に冷えて、下痢しやすく、動悸、めまい、尿量減少、浮腫などがあるもの。

㊪ 胃腸が弱く胃部停滞膨満感があつて、尿量減少して脛や足に軽度の浮腫があるもの。

㊫ 冷え症で、頭重、めまい、動悸、腰痛、腹痛などがあつて、排尿回数が多くて尿量減少し脛や顔、あるいは、足に浮腫があるもの。熱感があつて疲れやすく、食欲不振のものには小柴胡湯を合方する。

㊬ 神経症状が著しく、咽喉や胸がふさがれる感じがして、あるいは動悸し、尿量減少して僅かに浮腫があるもの。食欲不振、咳嗽、微熱などがあれば小柴胡湯を合方する。

疲 勞

㊭ 衰弱して食欲不振、口内のかわき、盗汗、動悸、微熱などがあり、疲労倦怠感が著しいもの。

㊮ 衰弱とともに頑固な咳や熱が続いて、頭重、食欲不振、疲労倦怠感があるもの。

㊯ アトニー体質あるいは病後で、疲労倦怠感が著しく、食欲不振、微熱、貧血などがあるもの。

㊰ 虚弱体質でカゼをひきやすく、貧血の傾向があつて、食欲不振、腹痛、冷感、疲労などがあるもの。

㊱ 胃腸が弱く、腹中冷感、腹部膨満感があり、下痢や便秘しやすく疲労するもの。

防己黄耆湯

柴胡桂枝干姜湯

八味丸

真武湯

茯苓飲

当归芍薬散

半夏厚朴湯

柴胡桂枝干姜湯

人参養栄湯

補中益气湯

小建中湯

大建中湯

虚弱な老人や婦人で、神経症状が著しく、頭痛、肩こり、不眠、疲労などを訴えるもの。

足腰の冷えや、あるいは熱感があつて、尿量が増大または減少し、咽喉のかわき、視力や精力の減退、疲労などがある初老あるいは老人。

神経質で虚弱な体質、内科的疾患はないが、咽喉がつまる感じや、空咳、悪心、嘔吐、疲労などを訴えるもの。

貧血、冷え症で排尿回数が多く、足腰の冷え、頭重、肩こり、めまい、腰痛などがあつて疲れやすいもの。食欲不振があれば小柴胡湯、神経症状があれば半夏厚朴湯、身体動揺感があれば苓桂朮甘湯を合方する。

腺病質で疲れやすく、胃部がつかえ、あるいは重苦しく、食欲不振で胸や脇腹に圧迫感があり、あるいはカゼをひき易く、微熱がとれないもの。

精神不安、不眠、動悸などがあり、ノイローゼ気味で疲れやすく便秘するもの。

強健な体質で便秘がひどく、脇腹や胃部がつかえ、精力減退、疲労などがあるもの。

食欲不振

胸痛、胃痛、腹痛、悪心、嘔吐などの症状が劇しく、頭重、微熱、食欲不振、盗汗があるもの。

胸苦しくて咽喉がかわき、頭部に汗が出やすく、便秘して小便が赤く食欲不振のもの。亜急性や慢性には五苓散を合方する。

強健な体質で、胃部がつかえて便秘がひどく、肩こり、不眠、疲労があつて食欲が減退するもの。

腺病質で疲れ易く、胸や脇腹の圧迫感、微熱、悪心、嘔吐、胃部のつかえなどあつて食欲不振のもの。

香蘇散

八味丸

半夏厚朴湯

当归芍薬散

小柴胡湯

柴胡加竜骨牡蛎湯

大柴胡湯

柴胡桂枝湯

茵陳蒿湯

大柴胡湯

小柴胡湯

㊦ 衰弱して微熱があり、口内がかわき、食欲不振で盗汗、動悸、息切れがあつて下痢または軟便のもの。

㊦ 衰弱とともに頑固な咳や熱が続いて、頭重、食欲不振、盗汗があるもの。

㊦ 胃部停滞感があつて、食欲不振で消化が悪く、食後に下痢すると爽快感があるもの。

㊦ 胃部がつかえ、悪心、嘔吐、食欲不振があり、腹中雷鳴して軟便のもの。

㊦ 神経質で、胃痛、胸やけ、悪心があり、食欲不振で冷え症のもの。便秘するものに大黃または三黄瀉心湯を合方する。

㊦ 神経質で、咽喉や胸に塞がる感があり、悪心、嘔吐、から咳、食欲不振を訴えるもの。

㊦ 虚弱な婦人や老人で、神経症状が著しく、頭痛、肩こり、不眠、食欲不振などあるもの。

㊦ 胃部停滞膨満感あるいは悪心があつて、食欲不振で時にめまいや下腹部で動悸を自覚するもの。

㊦ のぼせ易くて項や肩こり、胃部がつかえ食欲不振で排便量少ないもの。

㊦ 虚弱体質で、貧血の傾向があつて疲れ易く、腹満感、腹痛、動悸、食欲不振があるもの。

㊦ アトニー体質あるいは病後で、疲労倦怠感、食欲不振、盗汗、微熱、貧血などがあるもの。

㊦ 足腰が極度に冷え、尿量減少して頭重、食欲不振、めまい、動悸などがあるもの。

柴胡桂枝干姜湯

人参養榮湯

平胃散

半夏瀉心湯

安中散

半夏厚朴湯

香蘇散

茯苓飲

黄連解毒湯

小建中湯

補中益氣湯

真武湯

処方解説の見方

処方解説

(アイウエオ順)

適応症

現代医学的な病名を記載しているが、漢方は元
来病名による投薬を行わず所謂証。(症状群を
総合判定するもの) によって処方を決定するか
ら、たとえ本欄に当該病名があっても、目標、

安中散 (和剤局方)

適応症

胃炎、胃酸過多症、胃下垂、胃アトニー症、胃
潰瘍、十二指腸潰瘍

目標

冷え症、神経質で胃痛や胸やけのあるもの。

構成

桂枝、延胡索、牡蛎、茴香、縮砂、甘草、良姜

備考欄を参照して取捨選択する必要がある。反
対に本欄に記載のない病名に対しても、症状が
目標、備考欄記載の事項とよく一致すれば適用
できる。

目標

処方決定に最も重要なキメ手になる症状が記載
されているが、必ずしも全部の症状が患者に揃
っていないともよい。

備考

最も繁用される適応症、禁忌、合方(併用)、
副作用、および誤治の場合の処置、類似処方
の鑑別などを記載する。

(註) 方名の下の一内は出典を現わす。

本方は主に神経過敏に起因する胸やけやこれに
伴なう胃痛、悪心などの症状に繁用されるが、
通常虚弱体質の人に応用し、筋骨實で平素強健
な人に多い暴飲暴食によると思われる疾患には
あまり効果はなく、このような場合は大柴胡湯
などを考慮すべきである。胃潰瘍、十二指腸潰
瘍の対症療法としては有効であるが、根本的治
療を志すときは小柴胡湯などと併用した方がよ
い。

平胃散とは類似の薬効であるが、本方は虚弱体
質の胃酸過多に、他はあまり虚弱でないもの
消化不良を伴なう胃腸疾患に適する。

茵陳蒿湯 (傷寒論)

適應症 肝炎、腎炎、ネフローゼ、蕁麻疹、口内炎

目標 咽喉がかわき胸苦しく便秘するもの。黄疸を併

発したものは特に好適。

構成 茵陳蒿、山梔子、大黃

備考 本方は発黄を治す聖薬ともいわれる。また目標

欄記載の症状を伴なつた肝臓障害による蕁麻疹に繁用される。肝炎、腎炎に応用する場合は通常五苓散と合方して用いるが、更に便秘がひどく、みぞおちが硬く張っているときは大柴胡湯と併用すればよい。

本方は肝硬変、肝臓痛による黄疸には無効である。軟便で便秘がひどくない人や特に虚弱な人には本方は不適で、このような人の黄疸には小柴胡湯、黄連解毒湯合方を、蕁麻疹には小柴胡湯、桂枝茯苓丸合方などを考慮すべきである。

越婢加朮湯 (金匱要略)

適應症 腎炎、ネフローゼ、脚気、関節炎、関節リウ

マチ、皮膚炎、湿疹、涙囊炎、結膜炎、フリク

テン、角膜炎、緑内障、夜尿症

目標 咽喉がかわき、浮腫または水疱の甚だしいもの。あるいは分泌物の多いもの。

構成 麻黄、石膏、生姜、大棗、甘草、朮

備考 本方は、通常浮腫の著しい急性腎炎、ネフロー

ゼ、あるいは分泌物の多い湿疹に繁用される。

平常強健な人で、未だ体力の衰えない時期に限り、慢性症状にも適用できるが、虚弱体質や衰弱した患者には使用してはならない。

浮腫がそれ程でもなく、咽喉のかわきが甚だしくてむやみに水を欲しがる場合には本方より五

苓散の方が適し、感冒後などで、浮腫も口渴も少なく、蛋白尿が出る場合には小青竜湯がよい。

また心不全などによる呼吸困難を伴う浮腫には木防己湯などを考慮すべきである。急性

関節炎ではれて痛む時にはよいが、慢性なら麻杏薏甘湯が適する。夜尿症に応用する場合は、

健康な小児でぐっすり熟睡して夜尿するものを使用し、反対に虚弱児の夜尿には小建中湯を連

用させるべきである。

本方を服用して心悸亢進を起すときは、桂枝加竜骨牡蛎湯あるいは五苓散で、衰弱するときは小柴胡湯あるいは補中益気湯で治療すればよ

い。

黄連解毒湯 (外台秘要方)

適應症 肺結核、口内炎、胃炎、吐血、腸出血、子宮出

血、痔出血、便秘、肝炎、高血圧、ノイローゼ

不眠症、過多月経、蕁麻疹、眼底出血

目標 のぼせて胃部がつかえるもの。あるいは軟便で

便秘したり、目が充血するもの。

構成 黄連、黄芩、黄柏、山梔子

備考 本方は充血を去り、精神不安を除くから、咯

血、吐血には止血と同時に神経症状も消散させ

る。また本方に配合されている黄連、黄柏は結

核菌の化学療法による耐性菌にも有効であるか

ら、本方と小柴胡湯を併用すれば食欲増進作用

もあつて、肺結核で療養中の者にしばしば著効

がえられる。

平素あまり強健でない人で二、三日便通がな

く、しかも排便すれば軟便であるような場合に

適するが、硬便で便秘するものには三黄瀉心湯

のほうがよい。本方でも下痢するものには半夏

瀉心湯が無難である。

本方が高血圧に適應するものには目標欄記載の

症状で特に項(うなじ)がこるものによいが、
血圧降下作用は一過性であるから、高血圧症の
根本治療には柴胡剤と合方すべきである。

乙字湯 (医事小言)

適應症 痔核、脱肛、女子前陰部癢痒症

目標 便秘して時々少量の出血があり、局処の痛みの

甚だしいもの。

構成 大黄、柴胡、升麻、甘草、黄芩、当归

備考 本方は痔核、脱肛には先ず試みるべき処方であ

る。本方でお便通の悪いものは桃核承気湯に

転方するか、あるいは両者を合方すればよい。

反対に本方で下痢の甚しいものは当归芍薬散に

転方すべきである。痔出血が著しくて便秘する

ものに三黄瀉心湯が適し、貧血する場合には芎

芎膠艾湯を使用する。

なお本方は女子前陰部癢痒症には奇効を得る場

合があるから、一度試みるとよい。

葛根湯 (傷寒論)

適應症 感冒、中耳炎、鼻炎、蓄膿症、扁桃炎、麦粒

腫、結膜炎、トラコーマ、フリクテン、虹彩

炎、涙囊炎、白内障、皮膚炎、蕁麻疹、乳房炎、齒根膜炎、齒槽膿漏、麻疹、三叉神経痛、筋炎、筋肉リウマチ、腸炎、偏頭痛

目標 頭痛、発熱悪寒して自然発汗がなく、項、肩、背などがこるもの。

慢性の歯痛、鼻つまり、蓄膿症、肩こり、神経痛などには発熱、悪寒がなくても用いる。

構成 葛根、麻黄、桂枝、生姜、大棗、甘草、芍薬

備考 本方は急性の感冒薬としてよく用いられ、アスピリンの如き解熱作用を有するが、胃腸障害はほとんどなく、また各種急性疾患（例えば急性大腸カタル、赤痢など）初期で、発熱悪寒症状を現わす時、身体の疾病防衛力を強めるのでしばしば利用される一方、葛根、芍薬の働きを利用して、慢性の肩こりなどにも常用される。なお感冒の頓服用には就寝前一・五ないし二・〇グラムを温湯〇・一リットルで服用させると、発汗して解熱する。また五苓散と併用すれば発汗作用は一層増強される。炎症疾患で化膿している場合は、桔梗・石膏一回〇・三グラムを加えること。

本方は盗汗を含む自然発汗がある症状には使用

してはならない。このような症状の感冒には柴胡桂枝湯、柴胡桂枝干姜湯などを考慮すべきである。感冒の場合、高熱を伴って身体痛や関節痛が劇しい時は本方より麻黄湯の方が適當である。

本方服用後極端な食欲不振、胃痛、のぼせ、不眠などを訴える場合は不適であるから、柴胡桂枝湯、小柴胡湯、補中益気湯、香蘇散などで治療すればよい。

なお慢性疾患に使用する場合、虚弱体質には不適であるが、短期間なれば本方と小柴胡湯と合方すれば投与出来る。

芎歸膠艾湯 (金匱要略)

適応症 咯血、子宮出血、腸出血、痔出血、妊娠中の出血、産後弛緩性出血、月経過多、紫斑病

目標 冷え症で出血過多により貧血するもの。

構成 当歸、川芎、芍薬、地黄、阿膠、甘草、艾葉

備考 本方は、その増血作用により各種出血による貧血を治すものである。従って一次性の貧血症には無効であるから、その場合は柴胡桂枝干姜湯、補中益気湯などを考慮すべきである。

本方を服用後更に出血がひどくなる時は、黄連解毒湯二グラムを冷水で服用させると止血できる。また本方で胃腸障害を起し、悪心または下痢をもよおす場合も不適で、このような場合は半夏瀉心湯などで治療すればよい。充血による出血には三黄瀉心湯あるいは黄連解毒湯が適する。

桂枝加朮附湯 (吉益東洞)

適應症 神経痛、リウマチ、五十肩、半身不随

目標 冷えて痛み、麻痺感があるもの。あるいは屈伸困難のもの。

構成 桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草、朮、附子
備考 本方は、神経痛、リウマチで患部がしびれているもの、あるいは四肢の運動が不能または極めて困難な症状に適するが、通常尿量減少し、排尿回数が多くなり、四肢の冷感を伴う。

もし麻痺感がなく、あるいは日常の行動に左程不自由を感じない時は麻杏薤甘湯が適当である。また本方適應症状に似て、咽喉がかわき、夜間排尿回数が多いものには八味丸を用いる場合が多い。

本方は急性症状には適せず、また筋骨体質で体力旺盛な時期には投与してはならない。本方を服用後、運動麻痺あるいは浮腫、口渴などの症状が現われた場合は直ちに中止し苓桂朮甘湯または五苓散で治療すればよい。

桂枝加竜骨牡蛎湯 (金匱要略)

適應症 陰萎、遺精、性的ノイローゼ、神経衰弱、夜尿症、夜驚症、脱毛症

目標 神経症状があり、頭痛、のぼせ、耳鳴などを伴って疲労しやすく、臍部周辺に動悸を自覚し、排尿回数多く尿量増大するもの。

構成 桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草、竜骨、牡蛎
備考 本方は平素あまり強健でない人の一時的性欲亢進がもたらす衰弱と異常興奮によく用いられる。咽喉がかわき、神経症状の著しくない陰萎には八味丸がよく、胸や脇腹が重苦しく、尿量減少し、やや軟便気味で下腹部に動悸を感じる

ときは柴胡桂枝干姜湯の方が適当である。筋骨質で便秘がちな人には本方は無効で、柴胡加竜骨牡蛎湯などを考慮すべきである。なお本方を長期(三ヶ月以上)連用すれば、虚

弱體質の円形脱毛症に奇効を得ることがある。

本方を服用後、悪心または下痢する場合は半夏瀉心湯で治療できるし、また柴胡桂枝干姜湯あるいは補中益氣湯に転方すればよい。

桂枝茯苓丸^{ケイシンプク}（金匱要略）

適応症 月経困難症、子宮内膜炎、子宮筋腫、卵巣炎、

卵管炎、婦人更年期障害、不妊症、睪丸炎、虫垂炎、移動盲腸炎、肝炎、関節炎、坐骨神経痛、凍傷、痔核、皮膚炎、湿疹、蕁麻疹、にきび、しみ、麦粒腫、フリクテン、紅彩炎

目標 のぼせ症で下眼瞼が充血し、血色はよく、頭痛肩こり、めまいなどがあって冷えを伴ない、下腹部に圧痛を認めるもの。

構成 桂枝、茯苓、芍薬、桃仁、牡丹皮

備考 本方は当帰芍薬散と共に婦人科疾患に広範に応用される。当帰芍薬散適応症との鑑別は、本方適応症状が下眼瞼充血し、血色もよく、頭痛を訴え、月経困難即ち月経痛あるいは無月経、月経周期の不定などを伴なうに對し、他は下眼瞼が貧血し、顔色もすぐれず、頭重、利尿障害を

強く訴え、月経不順即ち月経前の鈍痛、あるいは月経周期はかなり正確であるにも拘わらず、月経量が少ないこと、または月経終了後も不快感が残るなどの症状に適する。また前者は子宮および付属臓器における充血による炎症に適するが、後者はそれらの臓器における貧血による機能障害症候群に効果がある。但し両者の鑑別が困難な症状には、両者を合方して与えてもよい。

本方を連用すれば、所謂古血のある婦人の不妊症を治したり、あるいは肌を美しくする効果がある。本方が奏効すれば時には血塊下り、出血や下痢をすることもある。

本方適応症状で便秘する場合は大黄一回〇・三乃至〇・五グラム加えるが、主にこれは初期症状に適し、慢性に経過し、しかも頭痛、のぼせがあって頑固な便秘を伴ない、四肢の末端や腰がひどく冷える時は桃核承氣湯が適当である。

本方適応症状であるにも拘わらず、しばしば見られる副作用は胃腸障害であるが、小柴胡湯と合方すればこれをかなり予防できる。またこの

二方の併用は便秘のひどくない人の蕁麻疹に卓効を示す場合が多い。

本方を服用後、めまいや著しい口渴を訴えるものは五苓散で治療出来るし、当帰芍薬散への転方も考慮すべきであり、更に目の充血や頭痛がとれない場合は苓桂朮甘湯や黄連解毒湯を試みるとよい。

香蘇散 (和剤局方)

適応症

感冒、頭痛、扁頭痛、魚肉による蕁麻疹、神経衰弱、ヒステリー、婦人更年期障害、月経困難症

目標

神経質で、頭痛がして気分がすぐれず食欲不振を訴えるもの。

構成

香附子、紫蘇葉、陳皮、生姜、甘草

備考

本方は発熱症状はないが頭痛のひどい感冒で、しかも麻黄剤の使えない虚弱な老人や婦人に好適である。また紫蘇葉が配合されているのでアレルゲンにもとずく蕁麻疹に卓効を示す。神経質な婦人の一時的な無月経あるいは稀発月経を伴なった更年期障害で、桂枝茯苓丸あるいは当帰芍薬散の無効な症状にしばしば適用され

る。

咽喉の異物感、心悸亢進、悪心などを伴なう神経衰弱、ヒステリーには本方より半夏厚朴湯が適する。

五苓散 (傷寒論)

適応症

水瀉性下痢、急性胃腸カタル、嘔吐、二日酔、

日射病(暑気当り)、肝炎、肝硬変、黄疸、胆

石症、胆嚢炎、脾炎、腹膜炎、心臓弁膜症、腎

炎、ネフローゼ、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎、糖

尿病、三叉神経痛、涙嚢炎、夜盲症

目標

むやみに咽喉がかわいて水を飲むにも拘わらず尿量減少するもの。頭重、頭汗、悪心、嘔吐あるいは著しい浮腫を伴なうこともある。

構成

沢瀉、茯苓、猪苓、朮、桂枝

備考

本方は腎臓疾患に対する代表薬であるが、また消化器官中の過剰停滞水分を腎臓へ導入し利尿をはかるから、急性の水当り、食当り、暑気当り、寝冷えによる水瀉性下痢あるいは小児の疫痢には劇的な効果を現わす。この場合は一・五ないし二・〇グラムを頓服的に用いる。本方を黄疸に用いる場合は通常茵陳蒿湯と合方

する。本方と平胃散との合方を胃苓湯と言ひ、水瀉性下痢や浮腫に繁用される。また小柴胡湯との合方を柴苓湯と名づけ、肝臓、胆嚢、腎臓疾患、腹水の溜った腹膜炎など、その応用範囲は極めて広く、しばしば難治な症状に奏効するものである。

膀胱、尿道疾患で排尿痛または血尿を伴なう症状には本方より猪苓湯が適する。八味丸との鑑別は八味丸の項を参照のこと。

感冒の場合本方と葛根湯を合方すれば発汗作用を強めて治療を促進するし、またこの二方の合方は五十肩、神経痛に應用すると利尿と共に著しく苦痛を軽減させる。

本方はまた新薬による副作用や、漢方治療における誤治の場合の応急処置用としてよく用いられる。

柴^{サイ} 陷^{カシ} 湯^{トク} (本朝經驗)

適應症 気管支炎、気管支拡張症、肋膜炎、肋間神経痛

目 標 胸痛や背痛あるいは胸水があつて、胸元もしくは胃部がつかえるもの。咳嗽を伴なうこともあ

り、咯痰は通常ねばく切れ難い。

構 成 柴胡、黄芩、生姜、大棗、人參、甘草、半夏、瓜呂仁、黄連

備 考 本方は小柴胡湯と小陷胸湯との合方で、肋膜炎にもつともよく用いられる処方であるが、特に胸水があるときには利尿または発汗することにより速やかに胸水を除去する。

気管支拡張症で稀薄な咯痰が多い時は本方より小青竜湯が、頭痛、悪寒を伴なつた胸痛で胸水のない場合は柴胡桂枝湯が適する。

柴^{サイ} 胡^コ 加^カ 竜^{リウ} 骨^{コウ} 牡^ボ 蠣^{レイ} 湯^{トク} (傷寒論)

適應症

心臓神経症、心臓弁膜症、心臓性喘息、狭心症
心筋梗塞症、動脈硬化症、高血圧症、腎炎、
ネフローゼ、萎縮腎、陰萎、性的ノイローゼ、
バセドウ病、ノイローゼ、不眠症、夜驚症、更年期障碍、脱毛症、緑内障

目 標 精神不安があつて驚きやすく、心悸亢進、胸内苦悶、めまい、のぼせ、不眠などを伴ない、あるいは臍部周辺に動悸を自覚し、みぞおちがつかえて便秘し、尿量減少するもの。

構 成 柴胡、半夏、黄芩、生姜、大棗、人參、桂枝、

備考

茯苓、牡蛎、竜骨、大黃

本方は動脈硬化、高血圧に起因するノイローゼおよび小児の神経症に繁用されるが、通常あまり衰弱しておらず、比較的体力のある状態において目標欄記載の症状に使用されるものである。衰弱して軟便あるいは下痢気味の虚弱者の神経衰弱には本方は不適で、この場合は柴胡桂枝干姜湯あるいは桂枝加竜骨牡蛎湯を考慮すべきである。

また本方は平常強健な人の脱毛症にしばしば奇効を発揮する。青年、中年以降の精力減退もしくはノイローゼには大柴胡湯と共によく用いられるが、この両者の鑑別は本方適応症状は神経症状が著明で胸部または腹部における動悸を自覚するのに比べて、大柴胡湯適応症状は前者よりみぞおち周辺が硬く張って、便秘症状も一層甚だしいものである。

本方を服用後下痢の著しい場合は柴胡桂枝湯と合方して、本方の一回の服用量を減すか、あるいは大黃を配合しない他の適当な処方に転方すべきである。

柴胡桂枝干姜湯 (傷寒論)

適応症

感冒、肺結核、肋膜炎、肺炎、不整脈、心臓神経症、心内膜炎、心臓弁膜症、心臓性喘息、肝炎、胆嚢炎、痔炎、腹膜炎、腎炎、ネフローゼ貧血、バセドウ病、神経衰弱、不眠症、ヒステリー、更年期障害、アレルギー疾患

目標

衰弱して血色悪く、微熱、頭汗、盗汗、胸内苦悶、疲労倦怠感、食欲不振などがあり、胸部あるいは腹部(臍部周辺)に動悸を自覚し、神経衰弱気味で不眠、軟便の傾向があつて尿量減少し、口内がかわいて、から咳などがあるもの。

構成備考

柴胡、桂枝、乾姜、瓜呂根、黄芩、牡蛎、甘草
本方は小柴胡湯を用いる症状より更に衰弱した症状に用いられる。従つて強健な人とか硬便で便秘する場合には無効である(柴胡加竜骨牡蛎湯の項参照)。

婦人の自律神経不安定症状あるいは更年期障害で咽喉に異物感があつて、から咳する場合は半夏厚朴湯を、冷え症で尿意頻繁の場合は当帰芍薬散を、頭痛、のぼせと共に立ちくらみする場合は苓桂朮甘湯を考慮すべきである。心臓疾患

で喘鳴を伴なった呼吸困難と共に浮腫は著しいが、本方適応症状より衰弱していない時は木防己湯がよい。胸内圧迫感が少なく、頭痛、のぼせ、耳鳴などを伴なう時は桂枝加竜骨牡蛎湯を一時使用するか、あるいはこれを併用するとい。

本方を服用してもなお食欲不振、疲労倦怠感あるいは盗汗がとれない場合は補中益気湯を試みるとよい。また軟便あるいは下痢の続く場合は五苓散あるいは半夏瀉心湯との合方を考慮すべきである。

柴胡桂枝湯 (傷寒論)

適応症 感冒、肋膜炎、胃痙攣、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胆石症、胆嚢炎、虫垂炎、移動盲腸症、腎炎、ネフローゼ、腎盂炎、紫斑病、肋間神経痛

目標 自然発汗があつて、微熱、悪寒し、みぞおちがつかえ、頭痛、関節痛があるもの。あるいは胃痛悪心、腹痛が劇しく食欲不振などを伴なうもの。

構成 桂枝、芍薬、柴胡、黄芩、半夏、人參、生姜、

備考

大棗、甘草

本方は桂枝湯と小柴胡湯との合方であり、感冒がこじれて微熱が続き食欲もない場合、即ちもはや葛根湯もしくは桂枝湯は使えないが、頭痛、関節痛、盗汗などの症状が残つて小柴胡湯も不適であるという段階によく奏効する。

柴胡桂枝干姜湯との鑑別は、柴胡桂枝干姜湯適応症は頭痛よりむしろのぼせを伴つた頭重であり、口内のかわき、頭汗、腹部の動悸などを目標とすればよい。

本方はまた胸やけあるいは悪心、嘔吐を伴つた胃腸の劇痛によく用いられ、本方と安中散との合方は胃・十二指腸潰瘍にしばしば著効を示す。肋間神経痛には柴陷湯と共によく利用されるが、両者の鑑別は柴陷湯の項を参照のこと。

三黄瀉心湯 (金匱要略)

適応症 吐血、痔出血、常習便秘、高血圧症、動脈硬化症、代償月経、月経過多、結膜炎、白内障、眼底出血

目標 のぼせて精神不安があり、胃部がつかえて便秘

がひどいもの。充血、出血の傾向を伴なうこともあるが、この場合血液の色は鮮紅色である。

構成 黄連、黄芩、大黄

備考 本方は常習便秘には特に繁用され、服用後八乃至一〇時間で快便を得る。但し人により効果の差異があるから適宜用量を加減するとよい。本

方でもなお便通がない時は更に大黄を加える。しかしみぞおちが硬く張っている場合はむしろ

大柴胡湯を用いるべきである。

本方を服用後腹痛もしくは下痢の甚だしい場合は桂枝茯苓丸、当归芍薬散、黄連解毒湯、半夏瀉心湯、小建中湯、柴胡桂枝湯、小柴胡湯などに転方するとよい。

本方はまた動脈硬化症、高血圧にしばしば用いられ神経の興奮状態を鎮静して安眠と共に血圧を降下させるが、その作用は一過性であるから大柴胡湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、防風通聖散などと併用した方がよい。

紫雲膏（華岡青洲）

適応症 火傷、凍傷、癩、癰、肛門膿瘍、痔核、痔瘻、

にきび、とびひ、水虫
皮膚疾患の防癢、肉芽発生促進の目的に外用されるが、局部が極度に湿潤している場合は禁忌である。

構成 当帰、紫根、胡麻油、黄蠟、豚脂

備考 本方は外用薬であるから、痔疾患、皮膚化膿疾患には夫々適当な処方を入服させた方が更に効果が大となる。

なお目標欄記載の通り患部が湿潤している場合に本方を塗付すると更に悪化させることもあるから注意すべきである。

十味敗毒湯（華岡青洲）

適応症 癩、癰、リンパ腺炎、肛門膿瘍、皮膚炎、湿

疹、蕁麻疹、とびひ、いんきん田虫、水虫、面疔、乳房炎、麦粒腫、眼瞼炎、外耳炎、中耳炎、鼻炎

目標 分泌物があまり多くなく、慢性に経過するもの。

構成 柴胡、桜皮、桔梗、生姜、川芎、茯苓、独活、

防風、荊芥、甘草

備考

本方は疲労し易く小柴胡湯がよく適応する体質で、分泌物があまり多くなく患部が乾燥している皮膚疾患によく用いられる。

患部が湿潤して慢性に経過する場合には消風散が適し、急性で分泌物の多い小水疱期の皮膚病には越婢加朮湯が適する。初期で発熱悪寒し、かゆみあるいは炎症の劇しい紅斑期の症状には葛根湯がよい。

化膿疾患には伯州散と併用する 경우가多いが、この合方は炎症の劇しい時期には投与してはならない。便秘がひどい時は大黄を加え、癰、癤、肛門膿瘍、とびひ、水虫などには紫雲膏などの外用薬を併用すれば治癒を早める。本方単独では所謂瘀血に起因する症状には無効で、この場合は桂枝茯苓丸、桃核承氣湯、大黄牡丹皮湯などを用いるべきである。但し本方と桂枝茯苓丸との合方はしばしば瘀血に起因する汚臭がひどくない湿疹、蕁麻疹に奏効する。

小建中湯 (傷寒論)

適応症 胃下垂症、胃アトニー、減酸症、小兒下痢、腹膜炎、小兒便秘、クル病、夜尿症、夜驚症、カ

目標

リエス、ヘルニア、フリクテン、角膜炎、虹彩炎、扁桃炎

虚弱体質で疲労し易く、のぼせ、腹痛や動悸があり、冷え症で手足がはてり、排尿回数、尿量共に多いもの。

構成

桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草、水飴

備考

本方は桂枝加芍薬湯に飴を加えたもので、腹直筋が異常に緊張した場合の腹痛に著効を示す。

本方は小兒を対象とする場合が多く、特に虚弱児の体質改善薬としてよく用いられ、扁桃肥大しばしば再発するものによい。虚弱児の夜尿症には適するが、強健な小兒には無効である(越婢加朮湯の項参照)。虚弱体質の人や老人、乳児の便秘で大黄剤で腹痛あるいは下痢の甚だしい場合には本方を試みるべきである。

本方と大建中湯とは用途が類似するが、大建中湯適応症は腹中に強く冷感を覚え、且つ腸の蠕動亢進を自覚し、腹痛、腹部膨満感、嘔吐を伴うような症状に適するに對し、本方の適応症状は前記症状より緩和で、また悪心、嘔吐が劇しい場合は本方は禁忌である。小柴胡湯との鑑

別は小柴胡湯適応症に胸や脇腹に重苦しさがあ
るに對し、本方適応症は腹痛や腹部の動悸など
を訴え、前者に比べて更に虚弱な體質の人に適
する。

本方は高熱を伴なつた急性症状には無効であ
る。

小柴胡湯（傷寒論）

適応症

感冒、気管支炎、百日咳、気管支喘息、小兒喘
息、肺結核、肋膜炎、胃炎、胃潰瘍、十二指腸
潰瘍、肝炎、肝硬変、胆石症、胆嚢炎、睪炎、
腹膜炎、腎炎、ネフローゼ、腎盂炎、腎臓結
石、膀胱結石、貧血症、扁桃炎、中耳炎、耳下
腺炎、麻疹、産褥熱、乳房炎、フリクテン、角
膜炎、虹彩炎、鼻炎、蓄膿症

目標

胸や脇腹が重苦しく、微熱があつたり、熱感と
悪寒が交互にあつたりして、食欲不振で口にな
く、時に舌には白苔があり、悪心、嘔吐、咳嗽
を伴なうなどの症状があるもの。

構成

柴胡、黄芩、半夏、人参、生姜、大棗、甘草

備考

本方は大柴胡湯と共に漢方処方中の代表的処方
であり、本方の適する體質、即ちあまり虚弱で

はないが、結核にかかり易い傾向があるものに
万能薬的に用いられる。本方と大柴胡湯との鑑
別は、大柴胡湯適応症はみぞおち周辺部が硬く
張っており、便秘がひどく且つ排泄された便は
硬いが、本方適応症はみぞおちよりむしろ胸や
脇腹がつかえたり、あるいは重苦しく感ずるも
のである。本方が適する體質では二、三日便秘
することがあつても排泄された便は軟いのが普
通で、このような便秘は本方を服用することによ
つて快便を得ることができるといふ。

本方は疲労を回復し、食欲を増進させる作用が
強いので、肺結核に化学療法剤と併用すること
が多い。また自律神経不安定症で栄養不良に対
してもビタミン剤その他の栄養剤と併用すれば
体力増強作用が著しい。また肝臓疾患や睪炎に
よる食欲不振には劇的な効果がある。

慢性の気管支喘息で他の治療法が全然効果がな
い時、本方と半夏厚朴湯あるいは小青竜湯と合
方して著効を得ることがある。本方と半夏厚朴
湯との合方は感冒がこじれた場合によく用いら
れる。本方を化膿性疾患に応用する時は通常桔
梗・石膏を加える。

本方を服用してもなお倦怠感が加わり、更に食欲が不振となれば柴胡桂枝干姜湯に転方すべきである。また便秘して不快感を増す場合は黄連解毒湯あるいは大柴胡湯を投与するとよい。衰弱がひどく盗汗や動悸が著しい症状には本方より柴胡桂枝干姜湯、小建中湯、補中益氣湯などが適し、頭痛や劇しい胃痛、腹痛あるいは関節痛などを伴なった食欲不振には柴胡桂枝湯の方がよい。衰弱とともに微熱と食欲不振が続き、咳嗽がとれない場合には人参養榮湯が適する。

小青竜湯（傷寒論）

適應症 気管支炎、鼻炎、気管支喘息、百日咳、気管支拡張症、肋膜炎、腎炎、ネフローゼ、関節炎、結膜炎、フリクテン、角膜炎、涙囊炎

目標

急性発熱症状後尿量減少し、胸内苦悶、胃部に水分停滞感があり、喘鳴を伴なう泡のような稀薄な喀痰の多い咳嗽があるもの。あるいは鼻汁の多い鼻炎や流涙の多い眼病の如く分泌液過多のもの。慢性期には熱の有無に関係なく応用できらる。

構成 麻黄、桂枝、五味子、芍薬、細辛、乾姜、甘

備考

草、半夏

本方は急性発熱症状後の亜急性症状に應用される場合が多く、通常自然発汗（盗汗）がある場合には用いてはならないが、強い咳の発作時に発汗するような場合、短期間用いてよいことがある。

本方適應症は通常口渴の訴えは少なく、従って口渴の著しい咳嗽、気管支喘息には本方より麻杏甘石湯を、また下からこみ上げてくるような劇しい咳で喀痰は少量でねばく咯出困難な場合は麦門冬湯がよい。腎炎、ネフローゼ、関節炎、眼科疾患に應用する場合、越婢加朮湯、五苓散も用いるが、その鑑別は越婢加朮湯の項を参照すること。

本方を服用後、食欲不振、頭痛、不眠など訴える場合は小柴胡湯あるいは柴胡桂枝湯で治療すればよい。また浮腫を生じた場合は五苓散に転方すること。

なお本方は衰弱の甚だしい患者には投与してはならない。虚弱体質に長期にわたって服用させる必要のある場合は小柴胡湯と合方することが望ましい。

消風散 (外科正宗)

適應症 蕁麻疹、湿疹

目標 長年癒えない頑固な皮膚疾患で、患部が乾燥あるいは稀薄な分泌液があり、夏期もしくは温暖時に特に悪化しやすいもの。

構成 当帰、地黄、石膏、防風、朮、木通、牛蒡子、知母、胡麻、蟬退、苦參、荊芥、甘草

備考 本方は十年、二十年も治癒しない皮膚病で十味敗毒湯などで効果がない場合に長期間服用させるとよい。特に夏期に患部が湿潤して稀薄な滲出液が止らない湿疹に特効があるが、急性症状には無効でこの場合は越婢加朮湯が適する。

神秘湯 (外台秘要方)

適應症 気管支喘息

目標 やや慢性的に経過し、喀痰少なく、喘息発作と共に呼吸困難を訴えるもの。

構成 麻黄、杏仁、甘草、紫蘇葉、厚朴、柴胡、陳皮

備考 本方は麻杏甘石湯、半夏厚朴湯合方に柴胡、陳皮を加えたような処方、麻杏甘石湯、麻黄

真武湯 (傷寒論)

湯、小青竜湯で難治な神経症状や呼吸困難のひどい気管支喘息とか、あるいは以上の麻黄剤の適應する気管支喘息で長期連用の目的で用いられるものである。やや慢性に経過した症状に適し、喘息発作が著しい時期には無効で、この場合は他の適当な処方を考慮すべきである。

適應症 慢性下痢、胃下垂症、腹膜炎、虫垂炎、低血圧症、動脈硬化症、高血圧症

目標 四肢の末端が極度に冷えて元氣なく、尿量減少して下痢し易く、動悸やめまいがあるもの。

構成 芍薬、生姜、茯苓、朮、附子

備考 本方は玄武湯ともいわれ極度の冷え症で、疲労倦怠感が著しく、腹部はガスのため膨満するような慢性下痢によく用いられる。しかし本方適

応症状は嘔吐や腹痛も軽微で、且つ手足は冷えても腹中冷感や腸の蠕動亢進を自覚するようなことはないから大建中湯とは鑑別できる。半夏瀉心湯適應症状との差異は、半夏瀉心湯適應症は胃部のつかえ、水分停滞感、悪心、嘔吐が主な訴えであるのに対し、本方適應症は以上の諸

症は認められず、前者より更に疲労倦怠感が著しく、手足も更に冷え易く尿量も減少するものである。

口渇、嘔吐を伴なう水瀉性下痢には本方は不適で、この場合は五苓散を、発熱悪寒を伴った下痢には葛根湯がよい。

本方は筋骨体質で体力旺盛な時期には投与してはならない。

大^{ダイ}黄^{オウ}牡^ゴ丹^{タン}皮^ヒ湯^{トウ}（金匱要略）

適応症

虫垂炎、常習便秘、動脈硬化症、腎臓、膀胱結石、膀胱炎、尿道炎、前立腺肥大症、多発性筋炎、月経不順、子宮内膜炎、卵巣炎、卵管炎、睪丸炎、更年期障碍、皮膚炎、湿疹、蕁麻疹、にきび、いんきん田虫、とびひ、麦粒腫、虹彩炎

目標

上行結腸部に圧痛や宿便があり、大便是硬く、皮膚は紫赤色あるいは暗赤色を呈し、鬱血または出血の傾向があるもの。

構成

大^{ダイ}黄^{オウ}、芒^{マウ}硝^{シウ}、桃^{トウ}仁^{ニン}、牡^ゴ丹^{タン}皮^ヒ、冬^{トウ}瓜^カ子^シ

備考

本方は漢方で切らずに治す盲腸薬として知られ、腫瘍が限局的で元気が未だ衰えず、一般症

状が良好な場合に用いられるが、本方を服用後腹痛や不快感を増す時は禁忌で、柴胡桂枝湯、大建中湯、真武湯などに転方すべきである。また本方を以上の目的に用いる時は薏苡仁を加えるとよい。

桃核承気湯とは用途が類似するが両者の鑑別は本方適応症が上行結腸部即ち右下腹部に圧痛や宿便があるに對し、桃核承気湯適応症は下行結腸部即ち左下腹部に圧迫や宿便を認め、頭痛のぼせを伴ない、下肢や腰が冷え易いものである。しかし多くの場合両者の鑑別は困難で、従って両者を合方して用いることが多い。

本方を服用後頭痛やのぼせを訴える場合は桂枝茯苓丸と合方するか、あるいは桃核承気湯に転方しなければならぬ。また腹痛や下痢が甚だしくなる場合は直ちに服用を中止し、柴胡桂枝湯、平胃散、半夏瀉心湯などで治療するとよい。

大^{ダイ}建^{ケン}中^{チュウ}湯^{トウ}（金匱要略）

適応症

内臓下垂症、胃アトニー症、弛緩性下痢・便秘、腹膜炎、虫垂炎、腸狭窄、腎臓・膀胱結

石、ヘルニア

目 標

内臓が下垂して腹中に冷感を覚え、嘔吐、腹部膨満感があり、腸の蠕動亢進と共に腹痛の甚だしいもの。

構 成

山椒、乾姜、人參、水飴

備 考

本方は腹中が強く冷えて腸管の蠕動が外部から見えるような症状に用いられ、この場合腹痛は下からこみ上げてくるような症状を訴えるものである。本方が適応する下痢は弛緩性であり、逆に便秘の場合は腹圧が減退して兎の糞のようなコロコロした便を排泄する。

本方と小建中湯、真武湯との鑑別は夫々の処方の項を参照のこと。半夏瀉心湯適応症には胃部のつかえ、水分停滞感があり、腹鳴があっても腸の蠕動亢進を自覚することはないのに対し、本方適応症は腹中冷感と腸の蠕動不安を訴えるものである。

本方を服用後、から咳を増したり、浮腫を生ずる場合は用量を減するか、あるいは半夏厚朴湯、五苓散、真武湯などに転方すべきである。なお本方は直腸癌に対しては一時的に症状を軽減させることがあっても結果的には無効であ

る。

大柴胡湯 (傷寒論)

適応症

気管支喘息、胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性下痢、常習便秘、肝炎、胆石症、胆嚢炎、膵炎、高血圧症、動脈硬化症、不眠症、遺精、陰萎、性的ノイローゼ、肥満症、糖尿病、助間神経痛、癩、癰、痔核、脱肛、湿疹、蕁麻疹、にきび、脱毛症、角膜炎、虹彩炎、耳鳴、中耳炎、蓄膿症、扁桃炎、齒槽膿漏

目 標

みぞおちが硬く張っており、胸や脇腹にも痛みや圧迫感があり便秘がひどいもの。耳鳴、肩こり、食欲不振などを伴なうこともあるもの。

構 成

柴胡、黄芩、半夏、芍薬、生姜、大枣、枳実、大黄

備 考

本方は小柴胡湯と並ぶ代表的処方であり、総体的に充実体質に多く現われる目標欄記載の症状には病名の如何を問わずよく用いられる。小柴胡湯との鑑別は小柴胡湯の項参照のこと。本方は所謂マネージャー病で四、五十才の壮年初老で、外見上体格もよく骨格も太いが、胃腸および肝臓機能が衰え、高血圧、ノイローゼ、不眠、疲

労感、視力あるいは精力が減退するなどを用いてよく奏効する。

また高血圧、動脈硬化の予防として服用すると体質を改善するが、高血圧、動脈硬化のばせ、不眠が甚だしい時は三黄丸を合方し、精神不安動悸が著しい場合は柴胡加竜骨牡蛎湯に転方するとよい。また脂肪ぶとりでみぞおち周辺部が硬く張っていない人には防風通聖散が適する。気管支喘息で慢性に経過し、他の治療法で効果がない時、本方と半夏厚朴湯とを合方して長期間服用させるとよい。

本方は通常便秘のひどい症状に応用するが、充実体質で悪心、嘔吐、腹痛を伴った慢性下痢で、時には便秘することもあるような場合に用いると排便状態を調節する。但し下痢が甚だしい時は五苓散を合方する。

本方を服用後腹痛あるいは下痢が著しくなれば柴胡桂枝湯あるいは小柴胡湯に転方すべきである。なお腹痛が止らない場合は平胃散を試みるとよい。

猪 苓 湯 (傷寒論)

適応症 腎盂炎、腎臓・膀胱結石、膀胱炎、尿道炎、淋病

目標

咽喉がかわき、排尿痛あるいは排尿困難があり尿の色は赤いかまたは血尿が出るもの。

構成

沢瀉、茯苓、猪苓、滑石、阿膠

備考

本方は抗生物質を用い淋菌は消失したが、なお排尿時に不快な残尿感があつて尿が出渋る場合によく奏効する。また尿意頻繁であるのに拘わらず尿量が極端に減少し、しかも排尿時に疼痛を覺えたりあるいは血尿が出るような症状にも適する。

五苓散との鑑別は五苓散適応症状には悪心、嘔吐、頭重、発汗、全身的な浮腫が認められるに對し、本方適応症は頭重、発汗などの症状はなく、浮腫も下半身に局限され、排尿痛や血尿なども認められ、排尿困難も前者に比べて著しい。八味丸との鑑別は八味丸適応症状には疲労倦怠感、陰萎、四肢末端の冷えなどが強く現われる。

本方適応症状であるにも拘わらず、しばしば見られる副作用は胃腸障害であるが、小柴胡湯あるいは柴胡桂枝湯と合方すればこれをかなり予

防できる。

本方を服用後胃痛のある場合は平胃散で治療できし、頭痛、悪心、嘔吐あるいは浮腫が著しくなれば五苓散に転方すべきである。

桃核承気湯 (傷寒論)

適応症 常習便秘、高血圧症、動脈硬化症、腎炎、ネフ

ローゼ、萎縮腎、膀胱炎、前立腺肥大症、肥満症、坐骨神経痛、凍傷、痔核、月経不順、子宮内膜炎、子宮筋腫、卵巣炎、卵管炎、更年期障礙、皮膚炎、湿疹、蕁麻疹、にきび、いんきん田虫、水虫、しみ、麦粒腫、眼瞼炎、結膜炎、フリクテン、虹彩炎、緑内障、眼底出血、歯根膜炎、歯槽膿漏

目標 口唇部や歯ぐきが紫色あるいは暗赤色で、頭痛

またはのぼせる傾向があり、下行結腸部に圧痛や宿便を認め、下肢や腰が冷えて尿量減少するもの。

構成 大黄、芒硝、桃仁、甘草、桂枝

備考 本方は大黄牡丹皮湯、桂枝茯苓丸などと共に所謂瘀血剤の代表的処方であるが、本方とこの両者との鑑別は夫々の処方の項を参照のこと。

しかしこの三者を合方して使用することも多い。本方を連用すれば所謂古血のある婦人の不妊症を治すこともある。本方が奏効すれば一時出血したりあるいは血塊を下すこともある。

本方は通常虚弱体質には投与してはならない。本方を服用後下痢の甚だしい場合は桂枝茯苓丸

あるいは当帰芍薬散に転方すべきである。また腹痛をおこした時は柴胡桂枝湯、平胃散などで治療すればよい。

本方適応症状に浮腫を伴なうこともあるが、この浮腫は下半身および四肢に局限されており、もし本方を服用後も浮腫がとれず、あるいは逆に全身に浮腫を生ずる場合は五苓散を考慮すべきである。排尿痛、血尿を伴った下半身の浮腫には猪苓湯が適する。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯 (傷寒論)

適応症 坐骨神経痛、凍傷、婦人下腹痛

目標 四肢の末端の冷えが甚だしく貧血の傾向がある

もの。あるいは冷え症で腰痛または下腹痛のあるもの。

構成 当帰、桂枝、芍薬、甘草、細辛、木通、大棗、

備考

呉茱萸、生姜

本方は慢性に経過し長年苦しむ凍傷で、当帰芍薬散では仲々軽快しない患部が強く冷えてつめたいものに用いられるが、患部がほてつて赤くなっているような凍傷には無効で、この場合は桂枝茯苓丸もしくは便秘がひどい時は桃核承気湯がよい。

本方を秋から初冬にかけて約一カ月位連用しておけば凍傷を予防し、もし罹患しても軽いと云われている。

本方はまた冷えると起る坐骨神経痛で八味丸の効果がないものに奏効することがある。逆に本方は糖尿病に起因する腰痛には無効である。

婦人病に基ずく冷え症の人の下腹痛にも使用されるが、当帰芍薬散適応症との差異は、本方適応症には頭痛、嘔吐、四肢、腰痛などを伴なうに對し、当帰芍薬散適応症は以上の症状よりも、排尿回数多く尿量減少して利尿障碍が強く現われる。

トウキ シヤクヤクサン
当帰芍薬散 (金匱要略)

適応症 不整脈、心臓神経症、心臓弁膜症、低血圧症

目標

高血圧症、腎炎、ネフローゼ、貧血症、甲状腺肥大、凍傷、痔核、脱肛、悪阻、習慣性流産、妊娠腎、陣痛微弱、過強後陣痛、産褥熱、月經不順、子宮後屈、子宮内膜炎、子宮發育不全、不妊症、子宮脱、婦人更年期障碍、ヒステリーにきび、しみ、水虫、いんきん田虫、フリクテン、虹彩炎、涙囊炎、白内障

貧血冷え症で下眼瞼が貧血して眼の周辺に薄黒いクマドリが出て、頭重、めまい、肩こり、動悸などがあって、排尿回数多く尿量減少し咽喉がかわくもの。あるいは冷えて下腹部に圧痛を認めるかまたは痛みがあるもの。

構成

当帰、川芎、芍薬、沢瀉、茯苓、朮

備考

本方は桂枝茯苓丸と共に婦人科疾患に對する代表処方であるが、両者の鑑別は桂枝茯苓丸の項を参照のこと。

本方は男女を問わず筋肉骨格共に軟弱で血行障碍に起因する貧血冷え症の人の體質改善薬であり、長期間連用することにより身体を温め血色を良くし肌を美しくするので、内服美容薬としても有名である。にきび、しみ取りには本方に薏苡仁を加える。

また長期服用により往々不妊症を治すこともあるが、本方と小柴胡湯との合方を妊娠中常用すれば流産、早産、妊娠腎を予防し、特に出産予定前約三カ月にわたりこの合方を服用するとお産を軽くし、産後の肥立ちもよくし、健康な新生児が得られる。またこの合方にどくだみを併用しておけば通常胎毒といわれる新生児の湿疹を防止出来る。

本方は虚弱な婦人に多い自律神経不安定症にもよく用いられるが、胸内苦悶があつて胸部または腹部の動悸が著しくのぼせる場合は柴胡桂枝干姜湯が、咽喉に異物感があつて、から咳をして神経衰弱が甚だしい場合は半夏厚朴湯が適する。

また婦人や卒中体質でないもの的高血圧症であり血圧は高くなく、めまいや立ちくらみがひどく、尿意頻繁な症状には本方と苓桂朮甘湯との合方を用いることが多い。本方適応症状で便秘する場合は大黄一回〇・三乃至〇・五グラム加えるとよい。

本方服用後のぼせて便秘する時三黄丸を投与するかあるいは桂枝茯苓丸に転方すべきである。

本方適応症状であるにも拘わらず、しばしば見られる副作用は胃腸障碍であるから、胃腸の虚弱な人に投与する際には小柴胡湯と合方するか、補中益気湯あるいは柴胡桂枝干姜湯の応用を考慮すること。

本方を服用後悪心、嘔吐、胃痛、下痢などをもよおす場合は安中散、五苓散、小柴胡湯、半夏厚朴湯、半夏瀉心湯のうち適当な処方では治療すればよい。

人參養榮湯 (和剂局方)

適應症 肺結核、肋膜炎、遺精、陰萎、病後・産後衰弱、便秘

目標 やせて血色悪く、微熱、悪寒、咳嗽がとれずに

倦怠感が著しく、食欲不振で精神不安、不眠、盗汗などもあり、便秘気味のもの。

構成 人參、黃耆、朮、茯苓、當歸、熟地黄、桂枝、芍藥、陳皮、遠志、五味子、生姜、大棗、甘草

備考 本方は黄耆建中湯（小建中湯に黄耆を加えたもの）の変方と見なされる処方、病後で衰弱した場合によく用いられ、特に肺結核に應用されることが多い。

即ち小柴胡湯や補中益氣湯を用いても微熱、悪寒咳嗽がとれず、更に食欲が減退するものに奏効する。また頑固な咳嗽が続き、衰弱のため麻黄剤は使えないが麦門冬湯、半夏厚朴湯、柴胡剤などでも効果がない場合本方を試みるとよい。

目標 亜急性または慢性に経過して化膿したもの。
構成 反鼻、鹿角、津蟹を別々に黒焼とし、等量配合する。

本方適応症状には便秘の傾向が認められるが、排泄される便は軟いのが普通である。従って衰弱したものや虚弱な老人の便秘にも応用される。

備考

本方は日本古来の民間薬で一名「外科倒し」ともいわれる化膿性疾患の内服薬であるが、炎症症状が劇しく発熱悪寒する時期に用いると却つて腫脹疼痛を増すことがあるから注意しなければならぬ。従つて初期で発熱悪寒する化膿疾患には葛根湯加桔梗・石膏を用いるべきである。化膿性疾患で小柴胡湯加桔梗・石膏や十味敗毒湯で効果のない場合は本方を併用してみるとよい。

本方と柴胡桂枝干姜湯との鑑別は、柴胡桂枝干姜湯適応症は神経症状が更に強く、胸内苦悶、胸部あるいは腹部に動悸を訴え、下痢の傾向があるから区別出来る。

従つて本方服用後頭痛、のぼせを訴えるときは柴胡桂枝干姜湯を、胃痛、腹痛を訴えるときは小建中湯を考慮すべきである。

伯州散 (本朝経験)

適応症

カリエス、癩、癰、肛門膿瘍、痔瘻、化膿性皮膚疾患、乳房炎、麦粒腫、涙囊炎、中耳炎、蓄膿症、齒槽膿漏

麦門冬湯 (金匱要略)

適応症

気管支炎、百日咳、気管支喘息、小児喘息、咽喉炎、肺炎、肺結核、糖尿病

目標

こみ上げてくるような強い咳をして顔が赤くなるもの。通常咯痰は少量でねばく且つ咯出困難である。あるいはのぼせて咽喉がかわき、咽喉に異物感があるもの。

構成

麦門冬、半夏、人參、大棗、甘草、粳米

備考

本方は劇しく咳込んで顔が真赤になるような症状によく用いられるが、この場合、から咳か咯痰はあつても少量、咯出困難で、時には血痰を伴なうこともあるから、咯痰の多い小青竜湯適應症との区別は明らかである。またのぼせ、咽喉の異物感が認められるから、これらの症状がなく発作時に頭汗のある麻杏甘石湯適應症とも鑑別出来る。半夏厚朴湯との鑑別はやや困難であるが、半夏厚朴湯適應症は神経症状が著明な一方、のぼせ、咽喉のかわきなどの症状は認められない。

難治の百日咳は本方に桔梗・石膏を加えて著効を得ることがある。身体の衰弱が甚だしく、本方を与えて劇しい発作はおさまったが、なお咳嗽が続く時は人參養榮湯を試みるとよい。本方適應症で食欲不振があれば小柴胡湯を合方する。

八味丸（金匱要略）

適應症

本方を服用後食欲減退や胃痛、下痢する場合は不適で安中散、小柴胡湯、柴胡桂枝干姜湯、半夏瀉心湯などで治療し、小柴胡湯、半夏厚朴湯合方などへの転方を考慮すべきである。また浮腫を生ずる場合は、五苓散で治療するとよい。

咯血に本方と黃連解毒湯を合方して与えると、止血の効果がある。糖尿病でのぼせて咽喉がかわくものに、八味丸を用いる前に応用することがあるが、この場合は咳嗽はなくともよい。

目標

高血圧症、動脈硬化症、腎炎、ネフローゼ、萎縮腎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺肥大症、遺精、陰萎、性的ノイローゼ、糖尿病、坐骨神経痛、産後脚氣、更年期障礙、湿疹、蕁麻疹、視力減退、白内障、緑内障、齒槽膿漏

疲労倦怠感が著しく、四肢は冷え易いのに拘わらず時にはほてることもあり、腰痛があつて咽喉がかわき、排尿回数多く、尿量減少して残尿感がある場合と逆に尿量が増大する場合があり、特に夜間多尿のもの。

構成 地黄、山藥、山茱萸、牡丹皮、沢瀉、茯苓、

桂枝、附子

備考

本方は八味地黄丸、(八味)腎氣丸とも言われ、男女更年期や虚弱な老人に万能薬的に用いられ、特に陰萎、糖尿病に著効が認められる。

本方適応症は疲労倦怠感があっても通常胃腸障碍はないから、柴胡剤との鑑別の目安とされる。本方は筋骨質で平素強健な人の一時的な陰萎には禁忌であり、虚弱な人で頭痛、のぼせ、動悸などがあつて神経症状が甚だしい時は桂枝加竜骨牡蛎湯が適する。

糖尿病に應用する場合白虎加人参湯との鑑別は白虎加人参湯の項を参照のこと。

五苓散との鑑別は本方適応症状は疲労倦怠感が強く、また手足が冷え易く、尿量が減少する時は排尿困難があり、逆に尿量増加、特に夜間多尿が認められるに対し、五苓散適応症は通常排尿困難はたいしたことはなく、尿量が増大することもなく、手足の冷え、疲労倦怠感も著しくない一方、八味丸適応症には認められない悪心、嘔吐、下痢などの症状を伴なうことがある。

る。なお猪苓湯との鑑別は猪苓湯の項参照のこと。むしろ本方と鑑別困難なものは当帰芍薬散であり腹痛、下腹部の圧痛や著しい排尿困難がある場合は区別は容易であるが、そうでない時は極めて難しく、胃腸症状がなく疲労倦怠感、手足の冷えの程度が甚だしい場合に本方が適する。なお当帰芍薬散適応症には残尿感や尿量増加は認められない。

本方は卒中体質で赤ら顔の人や筋骨体質で体力旺盛な時期に投与してはならない。

本方を服用後悪心、嘔吐、浮腫、下痢などの症状を起す場合は不適であるから直ちに投与を中止し、五苓散で治療するとよい。また食欲が減退する時も不適で、安中散、小柴胡湯、柴胡桂枝干姜湯、半夏瀉心湯などで治療し、他の処方に転方すべきである。

半夏厚朴湯 (金匱要略)

適応症

気管支炎、扁桃炎、咽喉炎、喉頭炎、百日咳、気管支喘息、肺結核、食道狭窄、胃神経症、胃アトニー症、胃下垂症、不整脈、心臓神経症、心臓性喘息、低血圧症、バセドウ病、ノイ

ローゼ（神経症）、神経衰弱、恐怖症、不眠症、悪阻、婦人更年期神経症、血の道、無月経

目標 精神不安があり、咽喉から胸元にかけてふさがりような感じがして、胃部に停滞膨満感のあるもの。通常消化機能悪く、悪心や嘔吐を伴うことがある。

構成 半夏、茯苓、生姜、厚朴、紫蘇葉

備考 本方は咽喉にヒステリー球様のものがあつてふさがる感じがするとか、あるいは咽喉から胸部にかけて異物感やつまるような感じを伴つた諸症状に応用されるが、自覚症状をくどくど訴えても、内科的な所見が著明でなく、「神経のせい」だと言われるような症状には劇的な効果を發揮することが多い。なお以上の症状に倦怠感や食欲不振を伴う場合は小柴胡湯を合方する。

また自律神経不安定症状あるいは更年期障害で、胸内苦悶があつて疲労倦怠感が著しく、頭汗、盗汗などがある時は柴胡桂枝干姜湯が、冷え症で尿意頻繁な時は当帰芍薬散が、頭痛、立ちくらみがある時は苓桂朮甘湯が適する。本方

適応症に似て頭痛がひどい場合は香蘇散がよい。

半夏瀉心湯、茯苓飲との鑑別は、これら二方の適応症状には咽喉の異物感はなく、他方本方適応症状には前記二方のそれに見られる胃部のつかえが認められない。

本方服用後口渇を増し浮腫を生ずる時は五苓散で、食欲減退や胃部重圧感を訴えるときは安中散、香蘇散、柴胡桂枝干姜湯、小柴胡湯、半夏瀉心湯、平胃散、補中益氣湯などで治療するとよい。

気管支喘息の強い発作時に本方を投与すると喫に苦痛を増すことがあるから、このようなきは麻黄剤を投与しておき、発作が鎮まったら本方を与えるるとよい。

半夏瀉心湯（傷寒論）

適応症 口内炎、胃炎、胃下垂症、胃アトニー症、慢性

下痢・胃・十二指腸潰瘍、悪阻、便秘

目標 胃部がつかえ、悪心や嘔吐があり、食欲不振

で胃部に水分停滞感があり、腹鳴を伴つて下痢するもの。あるいは、軟便や粘液便を排出する

もの。

構成
備考

黄連、黄芩、半夏、人參、乾姜、大棗、甘草
本方は下腹部で腹鳴がある冷え症の胃腸機能を
高め、消化を助け、栄養の吸収をよくし便通を
整え血色をよくするので、漢方処方中胃腸薬と
して最も多く用いられる。安中散も冷え症に用
いられるが、安中散適応症状には水分停滞感あ
るいは腹鳴はない。

本方はあまり腹痛のひどくない慢性の下痢に奏
効し、急性の水瀉性下痢あるいは発熱悪寒を伴
なう下痢には無効で、この場合は五苓散、また
は葛根湯が適する。腹痛の劇しい下痢には柴胡
桂枝湯、平胃散、小建中湯、大建中湯などを考
慮すべきである。

また虚弱者で下痢と便秘が交互にくるものにも
よいが、同じ症状で充実体質には大柴胡湯が適
応する。本方はまた黄連解毒湯でも強すぎる虚
弱者の便秘によい。真武湯、半夏厚朴湯、茯苓
飲との鑑別はそれぞれの処方項を参照のこと
本方を服用後なお疲労倦怠感、食欲不振がとれ
ない場合には小柴胡湯あるいは補中益気湯に転
方すべきである。

白虎加人參湯 (傷寒論)

適応症 糖尿病、肺炎、麻疹、日射病、感冒

目標 むやみに咽喉がかわいて、水を欲しがらるもの。

あるいは熱感の劇しいもの。

構成
備考

知母、石膏、粳米、甘草、人參

本方は体内水分が著しく不足するため、むやみに咽喉がかわき、しかも冷水を欲しがらる症状。
例えば糖尿病の初期で未だ利尿障が著しくな
い時期に用いられる。

八味丸適応症状では口渴は前者程でもなく、且
つ尿量減少もしくは増大が著明となり、手足は
冷え易く、疲労倦怠感が強い。五苓散との鑑別
は五苓散適応症には尿量減少と悪心や嘔吐が認
められるから区別できる。

茯苓飲 (金匱要略)

適応症 胃下垂症、胃アトニー症、胃神経症、胃拡張

目標 胃部がつかえて膨満感があり、胃液の分泌が過
多で悪心や食欲不振があつて尿量減少するも
の。

構成 茯苓、朮、人參、生姜、枳実、陳皮

備考

本方は通常貧血冷え症の胃拡張に繁用される。本方適応症状は半夏瀉心湯適応症状に極めて類似するが、後者より胃部乃至みぞおち周辺部のつかえが著しく、且つ腹部に動悸を自覚することとがあり、水分停滞感があっても下腹部における腹鳴はない。なお本方適応症も下痢することもあり、あるいは便秘することもある。一定しない。半夏厚朴湯との鑑別は半夏厚朴湯の項を参照すること。

本方を服用後なお食欲不振がとれない場合は小柴胡湯あるいは補中益気湯を投与すればよい。また悪心、嘔吐がひどくなりあるいは浮腫を生ずる場合は半夏瀉心湯や五苓散で治療する。

平胃散 (和劑局方)

適応症 口内炎、胃炎、胃アトニー症、胃拡張、下痢

目標 あまり衰弱しないものの消化不良を伴なう胃痛、腹痛、下痢、食欲不振あるいは食後腹鳴があり、下痢すれば却ってさっぱりするもの。

構成 厚朴、朮、陳皮、生姜、大棗、甘草

備考 本方は消化不良を伴なう胃腸疾患に広範に応用されるが、結核患者のパスなどの連用による胃

腸障碍にも卓効がある。

安中散との鑑別は安中散の項を参照のこと。腹痛を伴った水瀉性下痢には五苓散を合方する。また本方と大柴胡湯あるいは小柴胡湯との合方は口内炎、胃炎に著効を示し、特に胃炎に起因する胸痛、背痛、咳嗽、頭痛などには一度試みるべきである。

本方を服用後浮腫あるいは嘔吐を来す場合は五苓散で治療し、胃痛または更に食欲が減退するような場合は安中散、柴胡桂枝湯、小建中湯、半夏瀉心湯、補中益気湯などに転方すべきである。

本方は衰弱あるいは貧血の著しい人には投与してはならない。

防己黄耆湯 (金匱要略)

適応症 肥満症、関節炎、関節リウマチ、多汗症

目標 水ぶとりで皮膚の色が白く、疲れ易くて浮腫または汗をかきやすいもの。

構成 防己、黄耆、朮、生姜、大棗、甘草

備考 本方は冷え症貧血気味で筋肉がぶよぶよした水ぶとりの人のヤセ薬として繁用される。反対に

卒中体質で脂肪ぶとりの人には防風通聖散が適する。本方適応症状の浮腫は下肢または関節部に限られる。

防風通聖散 (宣明論)

適応症

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、常習便秘、不整脈、心臓神経症、狭心症、心臓弁膜症、心臓性喘息、脂肪心、動脈硬化症、高血圧症、心筋梗塞症、腎炎、腎臓・膀胱結石、遺精、陰萎、性的ノイローゼ、肥満症、五十肩、関節炎、神経痛、癩、癰、湿疹、蕁麻疹、酒渣鼻、水虫、脱毛症、麦粒腫、角膜炎、虹彩炎、白内障、中耳炎、蓄膿症、齒槽膿漏

目標

脂肪ぶとりの体質で便秘し尿量減少するもの。

構成

当帰、川芎、芍薬、山梔子、桔梗、連翹、薄荷、荊芥、防風、麻黄、石膏、生姜、朮、滑石、黄芩、大黄、芒硝、甘草

備考

本方は所謂重役タイプに見られる肥満症の体質改善薬で、下腹部における脂肪過多を伴った適応症欄記載の各症状に応用されるが、色白で水ぶとりの体質には不適で、この場合は防己黄耆湯が適する。またみぞおち周辺部が硬く張り

便秘がひどい肥満体には本方より大柴胡湯がよく、大柴胡湯単独でも効果が少ないとか婦人で月経閉止を伴う時は更に桃核承氣湯を併用するとよい。

本方はやせて顔色が蒼白な人には投与してはならない。本方を服用後食欲が減退したり、あるいは腹痛や不快感を伴う下痢を起した場合は柴胡桂枝湯あるいは平胃散、五苓散合方で治療し、他の適当な処方例えば大柴胡湯などに転方すべきである。

補中益気湯 (弁惑論)

適応症

肺結核、肋膜炎、胃アトニー症、胃下垂症、腹膜炎、低血圧症、遺精、陰萎、貧血症、ヒステリー、不眠症、カリエス、脱肛、子宮脱、子宮内膜炎、多汗症

目標

胃腸機能減退し、疲労倦怠感、食欲不振が著しいもの。頭痛、悪寒、盗汗、弛緩性出血などを伴うこともある。

構成

柴胡、人参、生姜、大枣、甘草、陳皮、升麻、朮、当帰、黄耆

備考

本方は医王湯とも称せられ、疲労回復強壯剤と

して応用範囲は極めて広い。小柴胡湯、次に柴胡桂枝干姜湯を用いても倦怠感、食欲不振が回復しない場合に適するから、通常柴胡桂枝干姜湯を用いる状態より更に衰弱した場合によい。但し小柴胡湯で胃腸障害を起すものに柴胡桂枝干姜湯を用いずに直ちに本方を利用することもある。

本方はまた当帰芍薬散を用いたが、当帰芍薬散で胃腸障害を起し易い人に好適である。

本方を服用しても微熱、頭痛、悪寒がとれないもの、もしくは衰弱して咳嗽が続くものには人參養榮湯を試みるとよい。本方は平素強健な人の疲労回復には無効なことが多い。

麻黄湯（傷寒論）

適応症

流行性感冒、気管支炎、気管支喘息、肺炎、鼻炎、急性関節・筋肉リウマチ、乳児鼻つまり、乳児急性皮膚化膿疾患

目標

高熱、悪寒があるにもかかわらず、自然の発汗がなく、身体痛、関節痛のあるもの。劇しい咳嗽を伴なうこともある。乳児の鼻つまり、急性

構成備考

皮膚化膿疾患には高熱、悪寒がなくても使用できる。

麻黄、桂枝、甘草、杏仁

本方は高熱を伴わないがちな流行性感冒に賞用されるが、葛根湯より作用が強いから通常長期にわたり投与してはならない。但しあまり虚弱でない乳児の鼻つまりで哺乳困難な時や、急性皮膚化膿疾患には〇・五グラムを温湯五〇〇に溶かし、少量ずつ与えるとよい。

本方は盗汗を含む自然発汗がある症状には使用してはならない。このような症状の感冒には柴胡桂枝湯、柴胡桂枝干姜湯などがよい。本方を服用後極端に発汗するときは、柴胡桂枝湯を与えると発汗状態を緩和できる。また食欲が減退したり、のぼせ、不眠などを訴える時は直ちに服用を中止し、柴胡桂枝湯、小柴胡湯、柴胡桂枝干姜湯、香蘇散などに転方すべきである。

本方はまた感冒その他の原因でのぼせて鼻血が出る場合にも用いられ、更に桂枝湯と等量混合して桂麻各半湯として熱感があって痒みのひどい蕁麻疹に応用される。しかし本方を慢性疾患に用いる場合は虚弱な人には禁忌である。

麻杏甘石湯 (傷寒論)

適應症 気管支炎、百日咳、気管支喘息、小児喘息、肺炎

目標 咳嗽劇しく、発作時に頭部に発汗して喘鳴を伴ない、咽喉がかわくもの。

構成 麻黄、杏仁、甘草、石膏

備考 本方は気管支喘息にもっとも賞用されるもので、特に小児喘息には特効があるが、作用が強力であるから通常頓服的に使用し、長期にわたって服用させてはならない。もし長期運用させる必要がある時は神秘湯を用いる。発作が劇しく、苦悶を呈する時は本方を少量ずつ断続的に服用させるとよい。

本方は虚弱体質、特に虚弱な老人には禁忌であるが、乳児および小児には特別に虚弱でない限り投与してもよい。

自律神経異常、内分泌異常などに起因する喘息には本方は無効で、半夏厚朴湯と柴胡剤との合方を考慮すべきである。また口渴が少なく、胃部に水分停滞感があつて咳や喀痰の多い喘息には小青竜湯や平胃散が適する。

本方を服用後著しく食欲が減退したり、あるいは却って苦悶を増す場合は直ちに中止し、平胃散、小柴胡湯、柴胡桂枝湯などで、また口渴を増したり、あるいは浮腫を生ずる場合は五苓散で治療すればよい。

麻杏薏甘湯 (金匱要略)

適應症 関節・筋肉リウマチ、いば、水虫、妊娠腎、慢性腎炎

目標 亜急性または慢性に関節、筋肉が痛むもの。

構成 麻黄、杏仁、薏苡仁、甘草

備考 本方は夏期でも日没その他の原因で、身体が冷えると痛むようになりユウマチに卓効があるが、通常急性症状には適せず、急性には葛根湯、麻黄湯、越婢加朮湯などを考慮すべきである。患部に麻痺感があり、四肢の屈伸が不自由な場合は本方より桂枝加朮附湯が適当である。また色白の水ぶとりの人で、関節が少しはれて痛みも軽微な時は防己黄耆湯がよい。

本方はまた乾燥のいば、水虫に奏効することがあるから試みるべきである。本方を服用後浮腫を生ずる場合は五苓散で治療

するとよい。

木防己湯 (千金・外台)

適応症 心内膜炎、心臓弁膜症、心臓性喘息、慢性腎炎、ネフローゼ

目標

みぞおちがつかえて喘鳴を伴なう呼吸困難があり、あるいは浮腫があつて尿量減少し、口内または咽喉がかわくもの。

構成 木防己、石膏、人参、桂枝

備考

本方は心不全による呼吸困難が著しい時によく用いられる。衰弱が甚だしい患者には本方よりも柴胡桂枝干姜湯などを考慮すべきである。本方を服用後却つて浮腫を増す場合は五苓散、柴胡桂枝干姜湯合方を、また食欲不振あるいは衰弱を来す場合は柴胡桂枝湯あるいは柴胡桂枝干姜湯を投与すればよい。

苓桂朮甘湯 (傷寒論)

適応症

肺結核、不整脈、心臓神経症、心臓弁膜症、高血圧症、低血圧症、ノイローゼ、ヒステリー、結膜炎、フリクテン、角膜炎、涙囊炎、白内障、眼底出血、鼻炎、蓄膿症、メニエル氏症候

群

目標

立ちくらみやめまい、あるいは動悸がひどく、のぼせて頭痛がし、顔面やや紅潮したりあるいは貧血し、排尿回数多く尿量減少して口唇部がかわくもの。

構成

茯苓、桂枝、朮、甘草

備考

本方は急に立ち上った時とか、うつむいていた顔を急にあげたりした時、あるいは入浴時にふらふらとしてめまいをするような身体動揺感がひどい症状によく用いられる。自律神経不安定症で、前記のような症状がある場合に奏効するが、頭汗、胸内苦悶、食欲不振などがあれば柴胡桂枝干姜湯が、咽喉に異物感があつて気分がすぐれない場合は半夏厚朴湯が適する。

本方は頭痛薬を常用する慢性患者に劇的な効果を示し、長年常用した頭痛薬を廃棄させることが多い。桂枝茯苓丸を投与しても効果の少ない頭痛にも一度試みるべきである。また外見上卒中体質でもないのに血圧が高く尿量減少するものに本方と当帰芍薬散との合方を用いて効果がある。

また眼底出血その他の眼科疾患に応用されるこ

とも多く、耳鳴を伴った鼻つまり、蓄膿症には本方単独もしくは柴胡剤と合方して与えるによい。

本方適応症で食欲不振を伴なう場合は大柴胡湯あるいは小柴胡湯を合方する。

五苓散との鑑別は一方に著しい口渴、浮腫あるいは悪心、嘔吐、下痢などの症状（五苓散適応症）、他方に身体動揺感、心悸亢進が著明（本方適応症）であれば容易であるが、実際上きわめて困難な場合もある。このような時は本方を与えて悪心や浮腫が起れば五苓散に、逆に五苓散を与えてめまいがひどくなれば本方に転方するとよい。あるいは初めからこの両者を合方して与えることも考えられる。この合方はまた漢方治療における誤治の応急処置に広く使われる。

（註）文中三黄丸とあるのは三黄瀉心湯のことです。

古方と後世方

漢方処方の中、傷寒論、金匱要略という二つの古典に記載されているものを古方、その他の文献例えば、外台秘要方、千金方、太平惠民和劑局方などに記載されているものを後世方と呼ぶ。

傷寒論、金匱要略はいずれも後漢の張仲景（実在の人物でないとも言われている）の著わしたもので、前者は急性熱性疾患、後者は亜急性、慢性疾患に対する治療法が記述されている。

外台秘要方と千金方は唐代にまとめられたもので、前者の著者は王焘、後者のそれは孫思邈である。また和劑局方は宋代の国定処方集の一つである。精要宣明論と内傷弁惑論は所謂金元時代のもので、著者は夫々劉完素、李東垣である。

処方解説・増補 (アイウエオ順)

黄^{おう}連^{れん}湯^{とう} (傷寒論)

適応症 胃炎、胃腸カタル、胃酸過多症、口内炎、二日

酔。

目標 胃部に停滞圧重感があつて、食欲減退、腹痛、

嘔吐、悪心、口臭などを伴い便秘または下痢するもの。

構成 黄連、甘草、干姜、人参、桂枝、大棗、半夏。

備考 目標記載の症状から、通常急性の消化器疾患に
応用されるが、慢性の胃腸カタルに対しても、
利用価値の高い処方である。

本方応用の目安は、熱性病(感冒その他)に伴
う胃炎、胃腸カタルや食傷による消化不良、胃
腸カタル、または過酸症などに伴う胃部停滞
感、悪心、胃痛、腹痛が強く、舌苔や口臭があ
つて下痢や便秘をするものを対象にする。

△胃炎、胃腸カタル▽腹痛、悪心、口臭のひど
いもので、消化器管に熱があり排便時に悪臭を
放つもの。

△胃酸過多症▽安中散の過酸症は主として神経
過敏によるが、本方は食傷や消化不良のもの
で、胃部停滞感や胃痛などと併発するものを対
象にすることが多い。

△口内炎▽菌蕈蒿湯が適応する口内炎は、肝臓
機能に関連するものが多く、本方が適応する口
内炎は胃障害に併発するものに応用されてい
る。

△二日酔▽胃部の停滞感、圧重感、胃痛、悪
心、嘔吐などの症候を対象に、消化不良の傾向
があるものによい。

本方症状と類似処方鑑別のポイントは、△黄連
湯▽胃部停滞感、腹痛、口内のアレがひどく消
化不良性の急性胃腸カタル様症状のもの。△柴
胡桂枝湯▽胆のう炎、胆石、胃痙攣などで胸
部、胃部、背部の痛みが激しく悪心、嘔吐、発
熱を伴うもの。△安中散▽神経過敏症で食事前
後に胃部痛、胸ヤケがあるもの。△半夏瀉心
湯▽慢性に経過する胃腸病で、胃部のつかえ、

悪心、舌苔などがあって腹鳴し、軟便下痢の傾向があるもの。

葛根湯加辛夷川芎かつこんとうかしんいせんきゆう（本朝経験）

適応症 ちくとう症、慢性鼻炎。

目標 頭痛、頭重感があつて肩がこり鼻閉、鼻汁、膿汁などの症状があるもの。

構成 葛根、麻黄、桂枝、芍薬、生姜、大枣、甘草、辛夷、川芎。

備考 葛根湯に辛夷と川芎を加えたもので、急性や慢性の鼻疾患にはきわめて応用頻度の高い処方である。特に蓄膿症の内服薬として著効があるが、疾患の性格からかなり長期にわたり、連続服用させる必要がある。

鼻疾患の治療について本方を中心に、その応用のポイントを列記すれば次のとおりになる。

△蓄膿症V発熱、頭痛、全身倦怠感、鼻汁などの症候が発現する急性症には、本方より葛根湯の適する場合が多い。急性症状で鼻汁が粘稠（ねんちよう）あるいは膿性のものには、葛根湯に桔梗石膏を加えるとよい。

この症状で鼻閉、頭痛、頭部圧迫感が著しいものに本方葛根湯加辛夷川芎がよく適応する。副鼻腔内の炎症が慢性に経過する、いわゆる慢性ちくとう症で、記憶力、思考力、臭覚欠如、膿汁などには本方を連用させるとよい。

なお数カ年も経過した蓄膿症で、膿性粘液の分泌が多く、サルファ剤やペニシリンなどが対象になるものには本方と、伯州散の兼用療法が偉効を奏する。

亜急性で前記症状があるものには、伯州散よりも桔梗石膏を加味するほうがよい。

△慢性鼻炎V鼻汁、鼻閉を主症状とするこの疾患は、アレルギー性鼻炎と区別することが大切である。

鼻の左右が交互につまり、粘液性の分泌物と鼻閉、頭痛などには本方が過し、鼻腔内の搔痒感、クシャミ、水様性多量の鼻汁や流涙を訴えるアレルギー性のもものは鼻腔内の浮腫、多量の分泌物などがあるから、本方よりも小柴胡湯合小青竜湯を応用することが多い。

加味逍遙散（万病回春）

適應症 神経症、不眠症、更年期障害、月経不順、湿疹、胃神経症、便秘症。

目標 頭痛、頭重、のぼせ、肩こり、倦怠感などがあつて食欲が減退し、時々便秘するもの。

構成 当帰、芍薬、柴胡、朮、茯苓、生姜、甘草、薄荷、牡丹皮、山梔子。

備考 主として中年以降の、更年期様の不定愁訴を訴えるものに賞用されている。前項目標に記載のとおり、本方が適應する症状は当帰芍薬散科、桂枝茯苓丸科、小柴胡湯に部分的に類似している。即ち、特に壮実体質でないやや貧弱または中間のもので、貧血または冷え症の体質で、神経症状を伴うものに応用するが、おおむね次のような自覚的症状を訴えることが多い。

◎貧血様または貧血症であるにかかわらず、背部や上半身に熱感を自覚したり、あるいはのぼせて、ときに顔面が紅潮するもの。

◎貧血様体質で四肢倦怠感、頭痛、頭重、めまい、肩こり、不眠などを訴え取越し苦労したり興奮したりするもの。

◎当帰芍薬散科適應症状が認められるが、同方が胃にもたれて気分がすぐれないと訴えるもの。

◎前項の症状で熱状やのぼせが加わり、桂枝茯苓丸科や小柴胡湯を合方すればよいと考えられるもの。

◎神経症状が著明な貧血、冷え症体質で、のぼせたり月経周期がくるいやすいので便秘するが、桃核承気湯不適なもの。

◎以上各項の症状がある者の慢性湿疹及びヒフ搔痒症にも応用する。

本方はこのように当帰芍薬散証で神経症状の強いもの、あるいは胃症状を訴えるものに用いてよく奏効する。

甘麦大棗湯（金匱要略）

適應症

ヒステリー、神経衰弱、不眠症、小児夜泣症、胃疼癢、子宮痙攣、腹痛、精神病。

目標

漢方では本方が適應するものを悲喜証とよんでいる。わずかなことで神経興奮が著しいもの、およびそれに伴う諸症に用いる。

構成 甘草、小麦、大棗。

備考 とくに婦人や小児に好適で、神経興奮の原因がわずかなことであるにかかわらずイライラしたり、あるいは悲しみ、これが亢(こう)じて痙攣症状を呈するものに奇効を奏することが多い。就寝時に神経がたかぶり、ねつきが悪いもの。ねむりの浅いもの、あるいは長年不眠に悩まされていと訴えるもの。夜中に恐怖して泣きわめく小児夜泣き症。または小児夜驚症。テンカシやヒステリー発作あるもの。

本方と類似の症状を発現するものに、次の諸処方があるが、そのおもな鑑別法は次の通りである。

△甘麦大棗湯▽ (虚弱な小児や婦人) 神経過敏で厭世的傾向があったり、または他愛なく喜ぶもの。△桂枝加竜骨牡蠣湯▽ (虚弱な人の神経症) 神経衰弱気味で心悸亢進や胸腹部に動悸を自覚するものの神経症、性的ノイローゼに用いることが多い。△小建中湯▽ (腺病質、貧血症の神経症) 神経質で疲れやすく、胃腸虚弱なもの。△柴胡加竜骨牡蠣湯▽ (体力あるもので、便秘するもの) 物ごとに驚きやすく左

右季肋部や腹部が充実したり、あるいは圧迫感あるものの神経症。

九味 檳榔湯 (勿誤藥室方函)

適應症

脚気、動脈硬化や高血圧に伴う頭痛や倦怠感、心臓神経症、便秘症。

構成

檳榔子、紫蘇葉、茯苓、甘草、吳茱萸、木香、桂枝、厚朴、大黃、橘皮。

目標

疲労倦怠感があつて、心悸亢進や動悸、肩こり、息切れなどを伴い浮腫や便秘の傾向あるものに用いられる。

備考

起床時に顔やマブタがはれっぽい、重い感じがあるか、または下肢に軽度の浮腫があつて、倦怠感を自覚するものによい。この場合人によつて動悸を伴うものもあり、当帰芍薬散料の症状と類似するが、本方には身体冷感や貧血症状、貧血に伴う月経不順などがない点で鑑別できる。

本方を高血圧や動脈硬化に応用する場合は、顔色やヒフが青白いか水々しく見受けられるものを対象とし、降圧の目的でなく疲労が重なっ

て、自覚症状が増悪するものに用いられる。したがって大柴胡湯、三黄瀉心湯、桃核承氣湯、防風通聖散などが適応する。いわゆる赤ら顔の卒中休質ではない。

本方は、ビタミン剤や疲労回復剤、ドリンクなどを求める患者に与えて喜ばれる。特に夏期の疲労回復によい。

呼吸困難、動悸、息切れ、浮腫などの症状は木防已湯証と類似するが、木防已湯には喘鳴と口渴があり、本方はそれらがなく疲労倦怠感を主訴とするので区別することができる。

桂^{けい}

枝^し

湯^{とう}

(傷寒論・金匱要略)

適応症

感冒、神経痛、リウマチ、神経衰弱、頭痛。

構成

桂枝、芍薬、生姜、大枣、甘草。

目標

頭痛、発熱(微熱)して悪寒し、自然に発汗するもの。ただし、神経衰弱などの疾患には微熱がなくても応用できる。

備考

目標にしたがい、感冒の初期や軽症の感冒、または虚弱者や老人の感冒で、微熱、さむけ、頭痛がとれず、発汗剤を用いないのに自然に汗ば

むものに、よく適応する。

桂枝湯は「衆方のもと」と言われ、多くの加味、加減方がある。本方と麻黄湯を等量に合方したものを桂枝麻黄湯(桂麻各半湯)と称し、ヒフ疾患の治療に貴重なものである。すなわち皮フ炎や皮フ掻痒症、ジンマ疹などで外見の見は少ないが、掻痒感や神経症状の著しいものに偉効がある。

本方を構成する芍薬の量を、増量したものが次の桂枝加芍薬湯(次項参照)で、本方に竜骨、牡蠣を加えたものが、桂枝加竜骨牡蠣湯、また前方の桂枝加芍薬湯にアメを加えると、小建中湯になり、いずれもわずかな加味加減によって全く異なった疾患の治療に用いられ、それぞれの治療効果があることはまことに興味深い。本方を単独で応用する機会は少ないが、妊婦の微熱や産婦の産褥熱、老人の疲労回復などに用いると卓効を奏する。

桂^{けい}枝^し

加^か芍^{しゃく}薬^{やく}湯^{とう}

(傷寒論)

適応症

腸カタル、裏急後重(しぶり腹)、慢性虫垂

炎、移動性盲腸、慢性腹膜炎。

構成 桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草。

目標 腹痛がして下痢し腹部が膨満して、時には便秘したり嘔吐するもの。

備考 桂枝湯の芍薬を増量したことによって、本方は芍薬が主薬となって下腹部の痛みや、腸疾患に應用されている。

本方の腹痛は、腹直筋の拘攣痛で持続的に、あるいは間歇的にたえがたい痛みを訴える。この場合目標欄記載のとおり、腹部が膨満して抵抗物を触知したり、あるいは便意をもよおすが排便後に、出残った感じや灼熱感を伴うので、他の処方における腹痛と鑑別できる。

本方症状に最も類似するものに、葛根湯の適応する急性腸カタルがある。腹痛、下痢、残尿感を訴える葛根湯は、本方よりも発熱症状が著明なことを目安にする。

また本方が適する下痢は、五苓散や平胃散にみられる水瀉性の下痢でなく、軟便や粘液便で快通せず、あるいは便秘するが大した硬便ではない。しかし、食中毒などで排便を促進したほうがよいと考えられるものには、三黄瀉心湯が大

黄を加えて用いるとよい。

同様の症状を訴えるもので、腺病体質や貧血症の場合は、本方を用いず本方にアメを加えた小建中湯の投与を考える必要がある。

虚弱者または貧血症の急性腸カタルで、本方症状に似て熱症状が加わるものには、本方と人参湯の合方を用いるとよい。腹部にガスが充満するものや、慢性の腹膜炎で痛みや膨満感を訴えるもので、他に著明な所見のないものに本方の適応証が多い。また手術のできない慢性虫垂炎や移動性盲腸に本方を連用させて奇効を奏することが少なくない。

呉^ご菜^{しゅ}莢^{けい}湯^{とう}（傷寒論・金匱要略）

適応症 頭痛、嘔吐症、日射病、吃逆（シャックリ）、脚気。

目標 頭痛がして冷えを伴い、胃部圧重感があり、嘔吐または悪心があるもの。

構成 呉菜莢、生姜、人参、大棗。

備考 本方は主として平素胃腸が弱いもので、発作性頭痛や偏頭痛を訴えるものに用いられ、発作時

に嘔吐や悪心があつて、腹部や手足が冷えることを目安に応用すればよいが、この場合の頭痛は激しいのが特徴となる。

頭痛、嘔吐（悪心）を主症状とするものに次の処方がある。処方鑑別の目標は、次の各項を参考にすればよい。

△乳児の吐乳▽健康児の溢乳や急性腸カタル、消化不良症などで、授乳のたびに吐乳するもの、あるいは吐乳がひどく水分欠乏を来たすもの、これらのものには、五苓散適応証が多い。

△自家中毒症▽三〜四歳から十歳前後の者の嘔吐や胃腸症状には、人参湯や六君子湯の適することが多い。

△吐瀉病▽本方が適する吐瀉病は、消化不良性の汚物をはき、ひどい頭痛を訴える。五苓散の場合には吐瀉汚物のほとんどが水分で、著しい口渴を訴える。

漢方には痰飲（たんいん）の頭痛といわれる頭痛がある。それは消化管内に長年停滞した過剰水分が、病的変化をきたし頭痛を併発すると考えられ、本方のほかに半夏白朮天麻湯（別項で解説）などがあり、要するに胃腸が虚弱なもの

に多い水分代謝障害、あるいは水分の胃腸循環障害などの傾向あるもので、頭痛を訴えるものには、ぜひ試みるべき処方である。

五 積 散（和剤局方）

適応症

急性・慢性胃腸カタル、胃アトニー、胃下垂、胃痛、腹痛、坐骨神経痛、リウマチ、脚気、婦人科系機能障害、こしけ、月経痛、心臓弁膜症。

目標

貧血気味で冷えやすく、易疲労性で胃腸の弱い体質、熱感や身体痛などを訴えるもの。

構成

当帰、川芎、芍薬、桂枝、生姜、大棗、甘草、麻黄、半夏、陳皮、茯苓、朮、厚朴、枳実、桔梗、白芷。

備考

虚弱な体質の者で、寒冷や湿気に対する順応性に乏しいためにおこる諸症を目安に、広範に応用されている処方である。

たとえば氣温が急激に低下したとき、または湿度が高くなったときなどに、下腹部や腰部、下肢に冷感や疼痛を自覚する腰痛、坐骨神経痛、リウマチ、疝気など。

婦人にあつては冷えや湿気によって起こる「こしけ」や、月経不順、月経痛などに応用されている。

また氷水や果物など寒冷性の飲食物をとった後におこる胃痛、腹痛、下痢などの胃腸カタル、胃痙攣にも使う。

本方が適する者の特徴として、桃核承気湯や加味逍遙散などに見受けられる上半身の熱感、下半身の冷感があげられるが、これらの鑑別には次の事項を考慮すればよい。

△桃核承気湯▽赤ら顔の充血質で、頭痛やのぼせがあつて便秘するが、消化器症状はとくに認められない。

△加味逍遙散▽上半身の熱感、下半身の冷え、消化器症状や婦人科疾患の症候群は認められるが、腹痛、腰痛などの訴えが少なく、神経症状が著明である。

本方は自律神経系、血液循環、水分代謝、消化器系の障害に起因する諸疾患に、広範に利用されている。それは本方の構成が平胃散、一陳湯、四物湯、桂枝湯、続命湯、半夏厚朴湯などが合方されたものに似ており、貧血を補い血行

を促進して、冷えを温める作用があるからである。

柴胡清肝湯（寿世保元）

適応症

小児腺病体質、肺門淋巴腺炎、頸部淋巴腺炎、扁桃腺肥大、慢性胃腸病、慢性湿疹、神経症。

目標

虚弱体質、腺病体質、貧血症など抵抗力の減弱したものに伴う諸症に応用する。

構成

当帰、川芎、芍薬、地黄、黄連、黄芩、黄柏、山梔子、柴胡、連翹、桔梗、牛蒡子、瓜呂仁、薄荷、甘草。

備考

本方は小児の腺病体質や結核にかかりやすい虚弱な体質の改善薬として有名なもので、体格はやせ型、顔色は青白いか浅黒いものが多い。

このような体質者は、カゼを引きやすく常にかぜ気味で、気管支炎、扁桃腺炎、中耳炎などを起こしやすく肺門淋巴腺肥大や、無力性体質のものなどを対象に、本方を応用する機会が多い。また虚弱な小児の湿疹で分泌物が多く、痒みの著しいものに効果がある。

本方適応症と柴胡桂枝干姜湯とは、虚弱な体質

とそれに伴う諸症で類似するが、本方には口乾や軟便下痢、胸腹部の動悸がない点で區別すればよい。

炙^{しゃ}甘^{かん}草^{そう}湯^{とう}（傷寒論・金匱要略）

適應症 心臓弁膜症、心臓内膜炎、心臓神経症、バセドウ病、産褥熱、肺結核、血痰を伴うセキ。

ウ病、産褥熱、肺結核、血痰を伴うセキ。

目標 心悸亢進、動悸、息切れがはげしく脈が結代、または不整脈のもの。あるいは便秘したり熱感を伴うもの。

構成 炙甘草、生姜、桂枝、麻子仁、大棗、人參、地黄、麥門冬、阿膠。

備考 目標欄記載の症状を対象にするが、栄養が衰えて顔色が悪く皮ふはかさかさとして潤いがなく、疲れやすくて心臓障害があるものを目安にする。体質によって程度差はあるが、手足のほてり、口のかわきや、便秘などを伴うことが多い。

さて本方を最も繁用する疾患は、不整脈、結代でいわゆる期外収縮と呼ばれている心臓の規則正しいリズムの間に、速度の早過ぎるものやお

そい搏動がまじるもので、心筋炎や冠状動脈硬化などの器質的変化や、過労、不眠、精神的ショック、酒やタバコの過度などの機能的原因などによるもの、あるいは甲状腺機能亢進症、なかでもバセドウ氏病の心搏亢進や呼吸困難、これに伴う不眠または貧血症で、微熱や熱感を伴う動悸、息切れ、不整脈に著効がある。本方の特徴は不整脈、動悸、息切れなどの心臓症状だけでなく、貧血、疲労、栄養不良なども好転せしめる。

青年や中年の男女に多い心臓神経症で、脈の期外収縮による結代や、発作性心搏急進症による速脈を対象に貧血、易疲労性、ヒフ枯燥などを考慮して用いられる。

なお本方は柴胡桂枝干姜湯、桂枝加竜骨牡蛎湯などの症状と似ているが、これらは精神不安と胸腹部の動悸が主で、本方は脈の結代、不整脈が応用の目安となる。

（注）本方処方中、炙甘草とあるのは、甘草を火にあぶったものをさす。

梔子柏皮湯 (傷寒論)

適應症 肝炎、カタル性黄疽、ジンマ疹、皮ふ瘙痒症、

口内炎、二日酔い、外用として (打撲、捻挫、

結膜炎)

目標 肝臓部の緩和な圧迫感、軽微な黄疽症状、ある

いは皮ふの瘙痒や炎症充血があるもの。

構成 山梔子、黄柏、甘草。

備考 右記疾患に応用の目標欄記載のとおり、症状が

緩和で大黄剤が適しない虚弱者または軽症のものに用いられている。

△カタル性黄疽▽茵陳蒿湯と同様に利胆作用があつて肝臓疾患に用いられるが、皮ふ粘膜の発黄が緩和で胸部苦悶感なども著しくないもの。

△ジンマ疹、皮ふ瘙痒症▽発赤や腫脹または瘙痒を訴えるが、その他の所見が少ないもの。

△打撲、捻挫▽本方エキス散に卵白を加え攪拌したうえ、徐々に水を加え適度の泥状としたものを布地にのばし、患部に繃帯しかわくごとに更新すると、痛みや腫脹をすみやかに好転させる。

△結膜炎▽本方を稀釈した水溶液で温罨法する

と、炎症、充血などに奇効を奏することがある。

肝炎、黄疽、ジンマ疹などに使うとき茵陳蒿湯との鑑別は、本方適應症は前記のとおり全般的に緩和であるのに対し、茵陳蒿湯は著しい口渴、胸内苦悶、頭汗、発黄が著明で便秘する点で区別できる。

黄連解毒湯と処方構成や応用で類似するが、黄連解毒湯はのぼせ、充血、出血その他神経症状を伴い本方の証には、これらの点が少ないことで鑑別すればよい。

辛夷清肺湯 (外科正宗)

適應症 慢性鼻炎、肥厚性鼻炎、副鼻腔炎、鼻茸。

目標 局部に熱感や炎症症状があつて、痛みや鼻閉を伴うもの。

構成 辛夷、知母、百合、黄芩、石膏、升麻、山梔子、麦門冬、枇杷葉。

備考 本方はいわゆる「ちくのう症」の内服薬として知られているもので、葛根湯、葛根湯加辛夷川芎、伯州散などについて応用されている。

本方応用の目安は、副鼻腔炎や鼻茸などに関係する次の諸疾患を、対象にすると使いやすい。
△鼻茸▽慢性鼻炎や副鼻腔炎などの分泌物に刺激されて続発する、鼻粘膜炎症性のもので、鼻閉や臭覚障害を訴えるもの。

△副鼻腔ムコツエレ▽慢性副鼻腔炎の経過中に、排膿孔が持続的に閉塞し、洞腔に粘液性の隆起物があるもの。

△後鼻孔鼻茸▽後鼻腔に下垂し鼻閉塞を訴えるもの。

△膿胸▽胸腔に膿が貯溜し、熱状、胸痛などがあって呼気に臭気を伴うもの。

十全大補湯じゅうぜんたいほつとう（和剤局方）

適應症 衰弱（産後、手術後、大病後）など貧血症、低

血圧症、白血病、痔瘻、カリエス、胃腸病、消耗性疾患の体力増強、出血症、脱肛。

目標 貧血して皮ふおよび可視粘膜が蒼白か、栄養不良でヤせており、食欲がなく衰弱しているもの。

構成 人參、黃耆、朮、当歸、茯苓、地黄、川芎、芍

藥、桂枝、甘草。

備考

本方は四物湯と人參湯に似たものを合方したような処方方で、慢性に経過する諸種疾患の衰弱時に用いられ、消耗した体力を賦活し体力を増強せしめる。

病中病後の衰弱時に普遍的な症候として、本方が適應するものが少なくない。具体的には容貌、栄養ともに悪く、食欲不振とともにヤせて体力が低下し、皮ふにはつやがなく、気力も乏しく非常に疲労倦怠感が著しいと言う状態のものが目安となる。

本方が対象になるような衰弱時は通常消耗熱あるいは神経症状などを伴いやすいが、本方適應症状に似て前者の消耗熱を随伴するものは、人參養榮湯が適する。人參養榮湯は本方症状と熱症状のほかに発咳があるので区別できる。

また衰弱と熱の観点から、柴胡桂枝干姜湯が類似するが、柴胡桂枝干姜湯にはさらに神経症状と（不眠、動悸）消化器症状（消化不良性下痢、口渴）などが著明な点で、明確に区別できる。

したがって前者の二処方病勢が活動的であることがポイントであり、本方は病勢がやや落ち

ついた状態で体力増強が急務であるものを対象にすればよい。本方を投与後、次第に好転して治癒機転にあるもの、すなわち回復期には補中益気湯の応用を考慮すればよい。

以上の諸点から本方は病勢が激しく、著明な熱症状、下痢、神経症状などある場合は用いられないので衰弱と熱、咳には人参養榮湯を、衰弱と熱、消化器症状を伴うものには柴胡桂枝干姜湯を、回復期には補中益気湯を、衰弱して特殊な症状の少ないものには本方を考え、視診、問診などを総合判断して応用すればよい。

芍薬甘草湯（傷寒論）

適応症

胃痙攣、急迫性胃痛・腹痛、胆石症および胆嚢炎の激痛、腎臓結石・膀胱結石の痛み、四肢筋肉痛および関節痛、薬物服用後の副作用による胃腹痛。

目標

四肢筋肉や腹直筋その他筋の急迫性の痛みに、頓服的にあるいは他処方と合方し用いる。

構成

芍薬、甘草。

備考

漢方という筋の拘攣、拘急、痙急などを対象に

鎮痙鎮痛剤として繁用されているもので、平滑筋（内臓筋）や横紋筋（骨格筋）の、異常緊張に伴う急迫性の痛みを緩和させる。

したがって単に鎮痛作用だけでなく、筋または筋群の痛みを伴う発作性収縮に著効がある。なお筋の異常緊張により痛みを伴う場合、葛根湯、柴胡桂枝湯、桂枝加芍薬湯、小建中湯、桂枝加朮附湯など多くの処方に本方を構成する芍薬、甘草が配合されている。

胆嚢炎、胆石症などで胸脇部痛や胃痙攣痛がある場合、柴胡桂枝湯で痛みがとれないとき本方に加える。大柴胡湯が適応する肝臓疾患や胃腸病で、痛みを愁訴とするものに、本方を合方する。平胃散が対象になる胃炎、胃拡張などで心窩部の直腹筋が時々拘攣して、痛みを訴えるものに頓用する。神経痛、関節炎、筋肉リウマチなどで麻杏薤甘湯だけで、痛みが好転しない場合本方を加味する。猪苓湯適応証の膀胱炎、尿道炎、腎臓結石、尿道結石などに猪苓湯単味で痛みがとれないとき、本方を頓用せしめる。パーキンソン氏病で脳血管動脈硬化が認められ、桂枝加朮附湯が対象になる症状と、筋硬直と運

動障害を目安に本方を投与すると、奇効を奏することがある。また半夏厚朴湯に本方を合方して応用することもある。

急性胃腸カタルや腹部内臓の発作性痛みに、本方を頓服的に用いると速効効果がある。

海水浴や水浴中に起こりやすい下肢の痙攣に、本方を服用させると著効がある。

四 物 湯 (和劑局方)

適応症 貧血症、婦人更年期症、月経不順、月経痛、月経閉止、産前産後の諸種の障害、皮ふ病、子宮出血。

目 標 貧血、冷え症で神経症状を伴い、腹部膨満するも軟弱で便秘の傾向があるもの。

構 成 当帰、川芎、芍薬、地黄。

備 考 金匱要略に収載されている芎歸膠艾湯から阿膠、甘草、艾葉、を去ったもので貧血を補い、血行を促進して体を温める作用があつて、前記疾患に應用されている。したがつて本方が対象になるものは、視診上顔色蒼白、栄養不良で皮ふに潤いがなく内臓も虚弱で、便秘しやすく下

腹部が膨満しているが軟弱なもの、これに伴う症候群あるものに應用されている。

本方が最も繁用されるのは当帰芍薬散と同様、産前産後の予防薬として投与されているが、実際には他処方と合方して應用する機会が多い。

△温清飲▽貧血症の慢性の湿疹でかゆみのひどいもので、神経症状を伴うもの。△連珠飲▽本方と苓桂朮甘湯の合方で、貧血に伴うめまい、心悸亢進、頭痛、上半身の浮腫や、痔出血、子宮出血後の顔面浮腫や心臓衰弱に用いられる。

△加味逍遙散合四物湯▽貧血、冷え症であるにかかわらず熱感や、のぼせの傾向があつて便秘するもの。また以上の症候群があるものの、慢性に経過する湿疹、ジンマ疹でかゆみを訴え、出血するほどかきたいもの。△柴胡四物湯▽小柴胡湯と四物湯の合方で、小柴胡湯が適する慢性疾患で疲労、微熱、貧血、便秘の症候群症状があり、ヒフがカサカサして潤いのないことが目安となる。

貧血、冷え症、月経不順などの点で当帰芍薬散と類似するが、本方には当帰芍薬散に見られる利尿障害がなく、貧血、冷え症、子宮出血など

の点で芎歸膠艾湯に似ているが、本方は芎歸膠艾湯証のごとく過多出血というほどではない。本方は悪性貧血に見受けられる口唇部、眼瞼粘膜などが蒼白なものには不適で、人参湯類を考慮する。また貧血症であっても胃腸無力症で、時々下痢をするものには不適で、それには小建中湯や補中益氣湯などを考慮すればよい。

小半夏加茯苓湯（金匱要略）

適應症 妊娠悪阻、諸疾患に伴う嘔吐症、急性胃腸カタル、湿性肋膜炎、その他水毒症。

目標 胃部に水分停滞感があって、尿量減少し悪心、嘔吐するもの。

構成 半夏、生姜、茯苓。

備考 妊娠悪阻の薬方として広く知られているが、本方は上半身に停滞する水毒症状に適する。自覚的には胃部に水分停滞感があって重苦しく、排尿量が少なく吐物はほとんど水分で、めまいや心悸亢進などを伴うことが多い。本方は以上の症候群を発現するものであって、衰弱や消化器機能障害を認めるものには効果が少ない。

小半夏加茯苓湯は比較的体力のあるもので平素胃腸が丈夫なものの前記水毒症状によく適する。類方との鑑別は

△半夏瀉心湯▽嘔吐や悪心が主訴で、胃腸が弱く食欲減退や腹鳴、あるいは下痢などを伴うものによい。

△半夏厚朴湯▽嘔吐よりも悪心が著明で、神経症状を伴い胸部の異物感や恐怖感などを自覚し、胃下垂、胃アトニーの傾向があり顔色萎黄ともに不良のものに適する。

△五苓散▽嘔吐、悪心、口渴が著しく頭汗、頭重、下痢などを伴うものを自安にする。

△呉茱萸湯▽悪心、嘔吐、発作性の頭痛があるもので、発作時に四肢の冷感を自覚する頭痛に奇効がある。以上のほか大柴胡、小柴胡、柴胡桂枝湯などに嘔吐を認めるが、これらはいずれも水毒以外の誘因で、嘔吐中枢が働いていると考えられる。

清上防風湯（万病回春）

適應症 にきび、顔面湿疹、頭部フルンケル、酒渣鼻。

目標 上記疾患で患部が首から上に局限し、発赤腫

張、化膿性などのものに適する。

構成 荆芥、黄連、薄荷、山梔子、枳殼、甘草、川

芎、黄芩、連翹、白芷、桔梗、防風。

備考 十味敗毒湯とともに、湿疹やフルンケル『にき

び』などのヒフ病に繁用されているが、十味敗毒湯は全身的に、本方は首より上のものに応用

されている。黄連、山梔子、連翹、桔梗、荆芥

などが組合さっていることは、発赤、腫張などの炎症症状が著しいか、あるいは化膿の傾向があるものに應用することを意味している。したがって本方は炎症や化膿の傾向ある湿疹やにきび、またはフルンケルに著効を奏する。

十味敗毒湯はこれらの症候が緩和なもの、または慢性に経過するものに適するが、ときには桔

梗石膏を加味して若干ひどい症状に用いる場合もある。

本方の吹出ものの性格は、十味敗毒湯が適するものに比べ、隆起したポリュームのあることが特徴で、一般的に肉食を好むものを対象に應用すると、その効率が比較的に高い。

本方に似た排膿散及湯はフルンケルよりも、むしろカルブンケルで全身症状のないものに應用する。

全身症状（特に頭痛、発熱、悪寒など）のある場合は、葛根湯かまたは葛根湯加桔梗石膏として用いればよい。また桂枝茯苓丸もにきびに繁用されるが、生理不順、のぼせなどを伴うので本方との区別ができる。

大承気湯（金匱要略・傷寒論）

適應症 便秘症、高血圧症、神経症、食当たり。

目標 腹部の力があり、かたくつかえて便秘するもの、あるいは肥満体質で便秘するもの。

構成 大黄、枳実、芒硝、厚朴。

備考 元来、急性の熱発時熱が高くガン固な便秘で、腹部が緊満し「うわごと」その他の脳症を發現

する壮実な体質者に用いられてきた処方である。こんな症状は通常、食中毒や急性熱性疾患の初期によく見受けられ、比較的熱が高いか、あるいは著しい熱感があつて患者はもだえ苦しみ、ひどいものは脳症をおこし、解熱剤やかん腸薬を用いても好転しないものに、本方が

よく適応するが最近では常習便秘や急性便秘に熱に關係なく応用されている。

本方は瀉下作用が著しいので、三黄瀉心湯や桃承核氣湯を用いても効果のないガン固な便秘に用いられる。

ガンコな便秘と熱感、腹部のつかえ神経症状などで三黄瀉心湯と類似する。三黄瀉心湯は著しい末梢血管の充血を認め、胃部がかたくつかえて便秘するが、本方は下腹部が膨満して便秘するものによい。

また桃核承氣湯は下腹部所見と便秘があるが、この方は主として左下腹部に抵抗物や圧痛があつて便秘し、膨満というものでなく、そのうえ下半身の冷感やのぼせの症状を伴うので、本方との区別ができる。

胃部のつかえや便秘で大柴胡湯とその訴えが似ているが大柴胡湯は心窩部のつかえと便秘が目安でそのほかに胸脇部の圧迫感を伴う。

本方は肥満壯実体質の急性熱性病の経過中に、発熱、腹滿、譫語などの症状あるものに頓服的に用いるが、熱症状や脳症がなく腹部充満と便秘のみを訴えるものにも応用する。ただし心臓

衰弱や弱脈の傾向あるもの、あるいは腹膜炎や腹水などによるものには用いない。本方症状に似て発熱、譫語、口渴あるものに白虎加人參湯が適応し、腹滿、便秘を伴うものに本方を考慮すればよいが、いずれにしても虚弱者や衰弱者には禁忌の処方である。

腸ちよう 癰よう 湯とう (蒿蘭館方集)

適應症 虫垂炎、移動性盲腸、腹膜炎、月経痛、子宮内

膜炎、卵巣炎。

目標 盲腸部に急性または慢性の痛みがあつたり、または月経痛などを自覚するもの。

構成 薏苡仁、桃仁、牡丹皮、冬瓜子。

備考 前記のとおり盲腸部あたりに腫瘤(シコリ)

や、痛みがあつて腹部が一体に膨満しているが、大黃劑などの下剤を用いられないものを用いる。

本方を投与後、なお疼痛が好転しないものには芍藥甘草湯の合方を考慮すればよい。また腹膜炎や婦人科疾患に用いる場合、大黃牡丹皮湯に似ているが便秘の症候がなく、月経痛やコシケ

などあるものに用いる。

虫垂炎や盲腸炎に応用する処方では本方のほかに次のような処方がある。

△柴胡桂枝湯▽悪心、嘔吐、胃痛、腹痛などがあって、腹痛の部位が一定しない初期症状に用いる。

△桂枝加芍薬湯▽悪心、嘔吐がなく腹痛が下腹部に局限した、比較的軽症のものに用いる。

△大黃牡丹皮湯▽痛みやシコリが右下腹部に局限し、腹膨症状を認めない一般症状が良好なもの。

△大建中湯▽腹部が冷えて痛み、そのうえ腹部が膨満して、腸の蠕動亢進を認めるもの。

人^{じん}

参^{じん}

湯^{とう}

(傷寒論・金匱要略)

適応症

胃炎、胃アトニー症、胃下垂症、慢性胃腸カタル、小児自家中毒、貧血症、つわり。

目標

貧血冷え症で胃部の重圧感や、時に胃痛を自覚しあるいは頭重、めまい、悪心、嘔吐などを伴い軟便または下痢の傾向があるもの。

構成

人参、甘草、朮、干姜。

備考

アトニー性体質や内臓下垂の虚弱な体質に多く見られる胃腸の緊張力や蠕動運動が弱く、それがために応用の目標欄記載の症状を現わす消化器疾患に用いる。すなわち栄養や容ぼうともに不良で、自覚的には四肢の末端や腰部に冷感を覚え、たえず心窩部が重苦しくあるいは膨満感やつかえる感じがあつて、軟便か下痢気味で平素から食事が少ないと訴えるいわゆる胃アトニー症に好適の処方である。

通常こうした胃腸症状あるものには、大柴胡湯、小柴胡湯、半夏瀉心湯症に見られる舌苔を認めるが、本方にはほとんどと言ってよいくらい舌苔は見当たらない。また患者は胃部のひどいつかえを訴えるが、触診上心窩部は軟弱なものが多く、胃部拍水音を証明する。本方証の心下痞硬は、人参と干姜が対象になる自覚症状と考えられる。

人参湯に最も類似する六君子湯は症候群が全く似ているが、具体的には本方よりさらに胃部の重圧感が著明で、他覚的にも心窩部の抵抗を認めるものを対象にする。茯苓飲は人参湯や六君子湯が適応するような症候群があつて、これら

二方が適する体質よりもやや丈夫で、胃部がつかえて著明な膨満感があることが目安となる。

平胃散は茯苓飲の症状に似て、さらに丈夫な体質が応用の目標となる。

以上の四処方はいずれも胃腸病を対象にするが、体格や体質、栄養、内臓緊張力の程度の差によって選別投与し、これら条件の、そろったものからあえて序列をつけるなれば平胃散、茯苓飲、六君子湯、人参湯と言った順位になると考えられる。

半夏白朮天麻湯 (脾胃論)

適応症 胃アトニー症、胃下垂症、慢性胃腸虚弱症の頭痛、低血圧者の頭痛、胃腸虚弱な者の高血圧症。

目標 慢性に経過する胃腸無力症やアトニー体質で、頭痛、頭重、めまい、冷え、疲労、肩こりなどを訴え、ときに悪心や嘔吐を伴うもの。

構成 半夏、白朮、陳皮、茯苓、麦芽、天麻、生姜、神麴、黄耆、人参、沢瀉、黄柏。

備考 漢方で本方の対象になるものを痰飲 (タンイ

ン)の頭痛と指示している。痰飲とは一口に言

って消化管内の病的水分であるが、胃腸が虚弱で水分の胃腸循環が悪く、それがため胃腸機能をさらに悪くする悪循環の関係を生じ、腸内水分が病的変化をきたして諸種の症状を惹起している状態をさし、これに伴う発作性頭痛や常習性頭痛と呼称している。

要するに応用の目標欄記載の体質条件にあるものの頭痛や頭重が主体となるが、ひとり鎮痛作用だけでなく、胃腸薬としての治療効果も具備している。

本方が適応する頭痛の部位は、こめかみから頭頂部あたりにひどく、頭痛発作時に四肢の冷感やめまいを訴えるものに応用すると、劇的效果に驚くことが少なくない。

排膿散及湯 (吉益東洞)

適応症 瘍 (カルブンケル) 癰 (フルンケル) 面疔 (顔面フルンケル) 瘰癧、リンパ腺炎、その他化膿性癰腫症

目標 患部が発赤腫脹して疼痛を伴うか、または化膿

構成
備考

しているもの。

枳実、芍薬、桔梗、甘草、生姜、大棗。

炎症症状の激しいフルンケル、カルブンケルの内服薬として、その劇的な効果から繁用され、知名度の高い処方である。

患部が発赤腫脹して灼熱様疼痛を伴うものには、消炎鎮痛作用を発揮して散らす効果があるし、また化膿の傾向があるか、あるいは化膿を形成しているものに対しては、排膿を促進せしめる。前記外科疾患に、本方エキス散を応用する場合、主として急性症状が多いので、一日分六gを分三として三〜四日頓用せしめ、以後は三〜四gを分三して三〜四日程度投与するとよい。

本方の特徴として、消炎、鎮痛、排膿作用は時間的にも効果からも、化学薬品のそれに比べて遜色のないことはもちろん化学薬品服用後によく見受けられる患部の急性症状はとれたが、触診上患部に固まりを認めることがほとんどないことと、また服用時間も何時間おきにと言った制限を受けないなどの利点がある。

本方は以上のとおり速効効果をもっているが、

頓用または一般的な服用法によって、局部症状

が緩解または好転後に、化膿しやすい体質者には十味敗毒湯を連用せしめるとよい。また顔面中央部にできた面疔で、化膿性髄膜炎を起こすおそれあるものは、本方に依存せず専門医にまわすほうがよい。癰腫症で頭重、発熱を伴うものは本方より葛根湯に桔梗石膏を加えて用い、虚弱な癰瘡症には小柴胡湯加桔梗石膏を応用する。

麻黄附子細辛湯 (金匱要略)

適応症 感冒、気管支炎、神経痛、リウマチ、低血圧症
目標 微熱があつて頭痛や頭重を伴い、悪寒と全身倦怠感がひどく、無気力なもの。

構成 麻黄、附子、細辛。
備考 主として老人や虚弱者の感冒に應用されているが、熱症状よりも悪寒、全身倦怠感、脱力感、無気力などを対象に用いる処方である。

本方が適応するものは虚弱で生体防衛反応が乏しく、その症状も緩和であるが、気力がなく横臥していたという無気力、貧血性のもので、

したがって抵抗力の少ない老人の感冒や気管支炎に繁用されるが、平素丈夫なものであっても、筋肉労働やスポーツなど過激な運動後の、疲労困憊時の感冒、あるいは夏の寝冷えによる感冒など、ヒフ、筋肉など表在部位の抵抗力が減退し、ヒフ呼吸や体温調節が非生理的な状態のときに、かかりやすい感冒にも応用される。本方はまた虚弱者の気管支炎で、背部に水を流すような悪寒を自覚し、咳嗽とともに稀薄な水様の喀痰があつて、割合に量的な排尿あるものに鎮咳効果がある。この症状に似た苓甘姜味辛夏仁湯は、喘鳴、呼吸困難がひどく、また小青竜湯は貧血や冷えの傾向が認められない。そのほか冷え症、貧血症、虚弱者で身体冷感を自覚すると、頭が痛くなるというものに効果がある。これに関連して特定の疾患を認めないものの、低血圧症に應用されている。心身ともに疲労感がつよく、頭痛、起立性めまい、立ちくらみ、冷感などを対象に用いるが、一過性の効果と考えられるので、補中益気湯、六君子湯、十全大補湯などとの併用療法も考慮するほうがよい。低血圧症に用いる目安は苓桂

朮甘湯に類似するが、本方にはのぼせや心悸亢進がないので区別できる。

麻子仁丸 (金匱要略)

適應症 常習性便秘、便秘に伴う痔核、萎縮腎。

目標 急性の便秘や常習便秘などに、下剤として一般的に應用する。

構成 麻子仁、芍薬、枳実、厚朴、大黄、杏仁。

備考 三黄瀉心湯、大柴胡湯、桃核承氣湯などの大黄

配合剤にくらべ、下剤の作用が緩和なところから常習便秘症に最も繁用され、また老人や虚弱者あるいは病後の便秘などに利用されている。

したがって本方は排便を抑制する習慣や腹壁圧の減退、消化吸収が容易な食物摂取、運動不足などによく見受けられる緊張減退性便秘を対象に、應用すればよいと考えられる。以上の点から本方は尿量が多く、大便がかたいと訴えるものを目標に用いられる緩和な下剤である。

便秘症と下剤はひどい個人差があるうえに、習慣性になりやすくまた反対に腹痛や激しい下痢をおこしたりすることが多いが、漢方では便秘

症に瀉下効果のある大黃劑と言う考え方で用いない。特に虚弱者に大黃劑を用いても、必ずしも排便効果とつながらないことが多いので、左記を参照されたい。

△黄連解毒湯▽のぼせや頭痛の傾向がある便秘症で、間歇的に便秘するが、自然排便はそれほど硬くないもの。

△半夏瀉心湯▽胃部のつかえ、食欲減退、下痢などの胃腸症状があつて、ときどき便秘するが軟便のもの。

△小建中湯▽腺病質、虚弱症、貧血症で胃腸が弱く腹痛や便秘があつて一般下劑が適應しない小兒。

△大建中湯▽内臓下垂の傾向がある虚弱者で、腹部にガスが貯溜したり、蠕動不安を自覺して便秘するもの。

△四物湯▽貧血症で血液循環障害があつて冷えを自覺し腹部が軟弱で膨滿し、便秘するもの。

△炙甘草湯▽心臓衰弱で脈が結代し、動悸、息切れなどが激しく便秘があるもの。

抑肝散加陳皮半夏 (古今方彙)

適應症

更年期神経症、神経衰弱、ヒステリー、不眠症、疲労症、高血圧や動脈硬化による神経症、

小兒夜泣症

本方は体力や抵抗力が乏しいと見受けられる者の、精神興奮、不安感、全身倦怠感などの神経症状を目安に応用されている。

構成

当歸、釣藤、川芎、朮、茯苓、柴胡、甘草、陳皮、半夏。

備考

本方は応用の目標欄記載のごとく、いわゆる疝(かん)が高ぶる神経過敏を抑制する、漢方の代表的な精神神経安定剤と言えるもので、興奮、緊張過度、不安、恐怖などを緩和させる効果がある。

すなわち小建中湯や半夏厚朴湯などが対象になるような体質者で、神経症状が著しく腹部動悸が亢進して、胸脇部に圧迫感があり、頭重、のぼせ、めまい、肩こり、不眠、全身倦怠感、心悸亢進、不安感、恐怖感などを伴うものに、鎮静剤として著効を奏することがある。

したがって神経衰弱、ノイローゼ、ヒステリ

1、神経質など心因性精神病と言われているものに、応用される機会が多い。また更年期に初発しやすい神経症、躁鬱病などにもしばしば用いられる。類方との鑑別は

△半夏厚朴湯▽頭重、肩こり、不眠、不安感などで本方証に類似するが、本方は肝機能が悪くて腹部動悸を認めるに対し、半夏厚朴湯は消化機能が悪く、胸部や咽喉部に痞塞感を自覚する点で異なる。

△桂枝加竜骨牡蠣湯▽心悸亢進、のぼせ、頭重、不眠、腹部動悸、倦怠感などの症候群が類似するが、本方適応症状には認められない性的(陰萎、性的ノイローゼ、遺精)症状を伴うので、本方と区別ができる。

△柴胡加竜骨牡蠣湯▽桂枝加竜骨牡蠣湯に似て、さらに著しい症状を認めるとともに、体力も旺盛であるものを目安に用いられる。

六 君子湯 (和剤局方)

適応症

慢性胃腸カタル、胃下垂症、胃アトニー症、胃神経症、悪阻、虚弱児の消化不良、胃潰瘍、低

酸症。

目標 貧血、冷え症で胃部に圧重感があり、軟便気味で疲れやすいもの。

構成 人参、白朮、茯苓、半夏、陳皮、生姜、大棗、甘草。

備考

平素から胃腸が虚弱で、しかも貧血気味で手足が冷えやすく、疲れやすくて胃部がたえず重苦しく、食欲が振わない胃腸無力症のものを対象に用いられる。

したがって急性症状よりもむしろ慢性に経過する前記消化器疾患に適し、人参湯、茯苓飲などと同様に胃内停水が著明で、胃部拍水音を証明し尿量減少の傾向があつて水分の胃腸循環がよくないものに、連用させるとよい。本方を慢性胃腸カタルや胃腸無力症に用いる場合、貧血冷え症で軟便、泥状便が長びいたり、疲れやすくて食後すぐ、右を下側にして横になりたくなる傾向があるものによい。また乳児や小児の吐き下しに一般的に五苓散が適するが、吐物や便が消化不良性であったり、胃腸機能が悪いものには五苓散よりも本方がよく奏効する。

神経質な者や職業的に神経を酷使して、胃腸に

ストレスを与え胃下垂、胃アトニー、胃神経症の傾向あるものに本方が適し、特に昼夜の別なく神経を酷使し胃腸症状を訴えるドライバーに好評を得ている。

手術を要しない胃潰瘍で、出血や潜血反応を認めないものに、本方で奇効を得ることが少ない。

苓甘姜味辛夏仁湯（金匱要略）

適應症 気管支炎、気管支喘息、慢性腎炎、心臓衰弱。

目標 虚弱体質や冷え症の体質で、喘鳴、呼吸困難があつて、稀薄な量の多い喀痰を伴う、激しい咳発作に用いる。

構成 茯苓、甘草、干姜、五味子、細辛、半夏、杏仁。

備考 外見上、顔色がすぐれず顔や脛に軽度の浮腫があつたり、水っぽい肌で尿量減少、頻尿などの水毒症状と、心臓機能が悪いものの喘鳴、呼吸困難、咳、喀痰などの症候複合を目安に応用すればよい。

本方が対象になるものは、視診上貧血様に見受けられるが、水分代謝障害に伴う血行不良とそ

れに身体冷感を自覚するもので、前項六君子湯や四物湯、補中益氣湯などが適する貧血症とは、若干異質の虚弱体質といえる。

また本方は心臓疾患や胃腸疾患に伴う浮腫に用いられるが、いずれも虚弱体質で心臓衰弱の傾向を目安に投与し、体力や抵抗反応が旺盛なもので、本方類似の症候群には小青竜湯を考慮すればよい。

以上にしたがつて虚弱者の気管支炎、気管支喘息、腎炎、心臓疾患などに応用されるが、いずれもほとんど慢性に経過するものが対象になる。ただし心臓疾患には一過性と考えられ、強心作用が乏しいので本方と、他処方の方方を考慮する必要がある。類方との鑑別は

△小青竜湯 √ 発熱、悪寒、熱感などがあるか、あるいは熱性疾患の後遺症として発見するもの、または皮ふ科症状を併発するなど用いられ、本方証には以上の傾向が認められない。

△麻杏甘石湯 √ 喘息、呼吸困難、咳発作などの点で本方に類似するが、熱感、口渴、頭汗を伴う乾性の咳発作がある、体力旺盛なものに應用する。

苓姜朮甘湯 (金匱要略)

適応症 坐骨神経痛、腰痛、夜尿症、遺尿、帯下。

目標 腰部から下肢にかけて、ひどい冷感を自覚し、

腰冷痛、身体倦怠感を伴い、排尿回数、量ともに多いもの。

構成 茯苓、干姜、朮、甘草。

備考 下腹部、腰部、下肢などの冷感が著しくあたたかも水中に座っているような、腰冷感と腰冷痛を

自覚する前記疾患に用いられる。

すなわち腎臓機能が悪く水分代謝障害と、これに伴う血行障害があつて、苓姜朮味辛夏仁湯に似た感はあるが、同方の水毒症状は主として上半身で、本方が対象になる水毒症状は下半身にあつて、身体冷重感や倦怠感、腰痛と利尿障害を主訴とする点で異なる。

したがって本方を応用する疾患は坐骨神経痛や冷え症の腰痛が最も多いが、下半身の著明な冷感という病証が類似するものに、桂枝加朮附湯、八味丸、当帰芍薬散、五積散などがある。

△桂枝加朮附湯▽四肢の著しい冷感とマヒ感が対象になる。これは本方が水分代謝障害が主で

あるに對し、桂枝加朮附湯は内分泌障害と水分代謝障害の傾向があるもので、冷え、麻痺、痛みを四肢に自覚するので本方との区別ができる。

△八味丸料▽身体冷感、腰痛、利尿障害、倦怠感などで類似するが、八味丸は副腎の機能、血管運動神経、知覚神経などの異常や高血圧症状など、本方証よりも広範囲にわたる症状が現われるので、その鑑別ができる。

△当帰芍薬散料▽腰部や下肢の冷感、倦重感、利尿障害の点で本方証に似ているが、本方は排尿回数、量ともに多いのに對し、当帰芍薬散料は排尿量が比較的になく、排尿回数が多く、浮腫が現われるときには全身的に軽度に見られる。△五積散▽冷え症で疲れやすく、腰痛、坐骨神経痛で類似するが、さらに消化器症状が伴うか、あるいはその傾向があるので、本方との区別ができる。

竜胆瀉肝湯 (万病回春)

適応症

尿道炎、膀胱カタル、睦炎、帯下、陰部湿疹、バルトリン腺炎、陰部掻痒症、子宮内膜炎、寧

丸炎。

目標

膀胱や尿道、子宮などに炎症があつて、排尿時に痛みや困難があるもの。

構成

車前子、黄芩、沢瀉、木通、地黄、当帰、山梔子、甘草、竜胆。

備考

本方は膀胱や尿道部位の炎症症状を目安に、淋毒性や雑菌によるもの、あるいは化学療法剤で菌は消失したが、排尿痛、頻尿、排尿困難、膿尿、排尿前後の不快感などの自覚症状あるものに応用されている。

本方が適応するものは肝機能に若干の障害があり手足の湿潤やヒフが浅黒い傾向があつて、体力も比較的旺盛なものに適することが多い。

また本方は一〇歳以下の女兒が、淋毒患者の手指や手ぬぐいに接触したり、浴場の流し場などで感染し、外陰や腔粘膜が軟弱なためにおかされ、患部の充血や排尿痛、残尿感、「こしけ」などあるものによく用いられる。また女兒や成人の別なく、用便時やその他で雑菌による前記症状あるものにもよい。以上のことから本方は陰門、バルトリン腺、尿道、腔や子宮などが発赤、腫脹する急性や亜急性のもので尿意頻繁、

排尿時の尿道痛、腰部や下腹部の圧迫感、女子

にあつては帯下などを目標に応用すればよい。

外陰瘙痒症に本方で奇効を得ることがあるが、

蟯虫やその他の寄生虫によるものでなく、帯下

や不潔によるもの、または神経性の瘙痒で患部

に変化のないものに用いられる。本方はまた桂

枝茯苓丸や当帰芍薬散で効果のない場合の「こ

しけ」に用い、しばしば効果がある。

△猪苓湯▽膀胱や尿道など、陰部およびその周

辺の炎症で排尿痛、残尿感、頻尿の点で本方証

と似ているが、猪苓湯が適するものは炎症がさ

らにひどく、著色尿または血尿と口渴が伴うの

で、本方証と異なる。

△桂枝茯苓丸、桃核承気湯▽下腹部臓器の炎症

と利尿障害が本方と類似するが、これら両者の

処方には本方には認められない頭痛、精神不安

などの神経症状を伴うので本方とは、若干その

症候群が異なる。

桔 梗 石 膏

適応症 解熱、消炎、鎮痛、排膿、去痰の目的で他処方

に配合して用いる加味剤。

構成 桔梗、石膏。

応用法 適応症記載のとおり他処方に加えるが、その例を参考までにあげると：

△葛根湯加桔梗石膏▽葛根湯が適応する感冒で
のどが痛むもの、乳房炎やヒフ科疾患、外科疾
患（瘍疔、瘰癧）で炎症が激しく化膿の傾向あ
るもの。

△小柴胡湯加桔梗石膏▽小柴胡湯が適応する症
状の蓄膿症、慢性中耳炎、リンパ腺炎、「るい
れき」で炎症や化膿の傾向あるもの。または虚
弱者の感冒で微熱が続く、咽喉や扁桃痛がある
もの。

△麦門冬湯加桔梗石膏▽麦門冬湯が適応する気
管支炎や百日咳で、痰がのどにからみ喀出が困
難で、痰が粘く激しい咳発作、咽喉痛、血痰、
口渇などがあるもの。

△十味敗毒湯加桔梗石膏▽症状が緩和なフルン
ケル、カルブンケル、にきび、湿疹その他の皮
ふ疾患で、炎症もしくは化膿の傾向があるもの
△清上防風湯兼用桔梗石膏▽頭部または顔面フ
ルンケルや湿疹で、炎症や化膿の傾向があるも

の。

大^{だい}
黄^{おう}

適応症
応用法

消炎性下剤として他処方に加味して用いる。

一般的には便秘症に下剤として応用されている
が、漢方では単に下剤としての狭義の利用だけ
でなく、瘀血や病毒その他体内の老廢物質や疲
勞物質を除去したり、腫瘍や内臓の炎症充血を
去る。あるいは胃腸を整え消化をよくする、出
血や吐血を止めるなど消炎、解毒、健胃、瀉血
などの目的で便秘のみにとられず、広範に他
処方に加えて繁用されている。

備考

漢方で大黄が対象になるものには、体力や抵抗
反応が旺盛で、下腹部に力があって腹滿便秘す
るものとなっており、通常虚弱者や腹部に力が
ないものには用いない。用量も個人差があるの
で、著しい便秘症というので、いたずらに増量
しても、効果のないことがあるので、その体質
に合った量の発見が、効果に大きく結びつく。

薏苡仁 (はとむぎ)

適応症 利尿、消炎、排膿、鎮痛剤としてヒフ病、美容、イボ(疣贅)に応用。

備考 イボ取りの内服薬として、その顕著な効果から古来より有名で、表皮角層の肥厚の程度によって異なるが、早くて半月から一カ月くらいで消失することが少なくない。イボに用いる場合、単味でもよいし麻杏薏甘湯や加味逍遙散などに加える。伝染性の軟疣にも偉効が認められ、またヒフの栄養を改善して肌をなめらかに化粧品が非常に肌にのりやすくなる美容薬として使われる。

湿疹や「しみ」「にきび」には桃核承氣湯、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散、小柴胡湯、十味敗毒湯、加味逍遙散などに加えて繁用されている。「桔梗石膏」が対象になるものに比べ、炎症が緩和なものに適する。

どくだみ

別名 ジュウヤク、葎菜(ジュウサイ)

適応症 利尿、解毒、緩下剤として尿量減少、排尿時の

備考

痛み、腎炎、尿道炎、腰や脚の浮腫、「くさ」、胎毒、吹きでももの。

民間薬的に、フルンケル、カルブンケルの消炎、解毒に利用されているが、漢方では妊婦に当帰芍薬散を加味し、妊娠当初から出産のところまで連用せしめ、嬰兒や乳児に多い「くさ」胎毒の予防に繁用される。成人よりも小児に利用される機会が多く、急性湿疹やカルブンケルで、麻黄湯や葛根湯が適用しないものに、十味敗毒湯か小柴胡湯に加えて治療効果をあげている。この加味方は小児のアセモやアセモのよりなどにも効果がある。

中黄膏 (春林軒膏方)

適応症 フルンケル、カルブンケル、打撲、毒虫刺傷

目標 急性の発赤、腫脹、痛みがある初期症状

構成 黄柏、ウコン、密蠟、胡麻油。

備考 腫物や化膿性外科疾患の初期症状に、麻黄湯、葛根湯、排膿散及湯、桂枝茯苓丸などが対象になるものに、本方と兼用すれば消炎、鎮痛の効果があ

果がある。

「配合薬の成分と作用」の見方

- 一、ここに記載されている事項は昭和三十五年三月三十一日までに判明しているものである。
- 一、従来記載されていた作用でも、余り明確でないものはすべて省略した。
- 一、重要な薬物については、新たに応用上の目標を記載した。

配合薬の成分と作用

(アイウエオ順)

- ⑦ 阿^ア膠^{キョウ} 蛋白質、ゼラチンから成る。本蛋白質は多量のプロリン、グリシン、グルタミン酸等のアミノ酸で構成される。止血作用があると言われる。
- ① 茵^{イン}陳^{チン}蒿^{コウ} ジメチルエスクレチンおよび精油が報告さ

れ、精油の主成分はβピネン、カピリン、カピレン、カピロン等であるが、薬効との関連は未詳。

本薬の水浸液は胆汁の分泌を促進し、蠕動運動を抑制するが、その作用の一部は明らかにジメチルエスクレンに因る。本薬は経験的には黄疸に有効であることが認められている。

⑨ 茴^{クイ}香^{キョウ}

精油約5%、その主成分はアネトールで、他にdフェンコン、dピネン、ジペンテン、アニスアルデヒドおよびリノール酸、ペトロセリン酸等の脂肪油も含むが、薬効との関連は未詳。本薬は芳香性健胃、驅風、祛痰作用があると言われる。

⑤ 延^{エン}胡^ゴ索^{ソク}

本邦産はプロトピン、ブルボカプニン、dテトラヒドロパルマチン等のアルカロイドを含み、朝鮮産は1コリダリン、プロトピンを主成分とする。鎮痛、鎮痙作用があると言われる。

④ 黄^{オウ}芪^キ

βシトステロールおよび未知のアルカロイドが報告されているが、有効本体は不明。本薬

は近年血管強化、血圧降下作用も認められているが、強力な止汗作用のあることが知られており、病的多汗あるいは盗汗等を目標に用いられることが多い。

黄 芩

約一〇%のバイカリンと少量のオーゴニンの二種のフラボノイドが報告されているが、これ等の成分と薬効との関連は不明。水浸液は利尿作用があり、胆汁の分泌は促進するが、胃液の分泌は抑制すると言われる。最近粥状動脈硬化症を予防することが認められたが、漢方ではみぞおちのつかえ、咳嗽、食欲不振、嘔吐、腹痛、下痢等を目標に使用する。

黄 柏

ベルベリン約一%、パルマチン、マグノフロリン、フェロデンドリン等のアルカロイドとオウバクノン、オウバクラクトン、ジクタムノリド、リノール酸、フィトステロール等を含有する。ベルベリンの薬効については黄連の項を参照のこと。オウバクラクトンは家兎血糖量を著しく低下させることが報告されている。

桜 皮

本薬は健胃整腸剤として止瀉作用もあるが、ベルベリン等を共通成分とする黄連とはかなり作用機序は異ると考えられている。

黄 連

本薬は鎮咳作用があり、その有効成分は配糖体のサクラニンである。

ベルベリン約七%、他にパルマチン、ヤテオリジン、コプチシン、オウレニン、マグノフロリン等のアルカロイドを含有する。本薬の水浸液は健胃整腸作用があることが知られていたが、当研究所では緩下作用のあることも認めた。また最近本薬水浸液は血管壁にコレステロールが沈着するのを抑制することも明らかにされた。

本薬の主成分ベルベリンは黄色ブドウ状球菌、大腸菌、赤痢菌、腸チフス菌、サルモネラ、コレラ菌、人型結核菌に対し抗菌性を有するが、この作用の一部は少なくともベルベリンのピリドキサル麟酸との拮抗作用に因るものであることを当研究所で明らかにした。またこの機序は恐らく鎮静作用にも関係するものと思われる。ベルベリンはコリンエ

ステラーゼ活性を阻害して血圧を降下させる。ことも報告されている。

以上の知見に基づき漢方でも本薬は胃部のつかえ、下痢（異常醗酵）、便秘あるいは精神不安を目標に用いられ、また充血による止血の目的にも配合される。

黄蠟

密蠟とも言い、主成分はパルミチン酸ミリスルエステルである。硬膏および軟膏の基礎剤に用いられる。

遠志

テヌイゲニンAおよびBと呼ばれるサポニンあるいはポリガリトール、オンシチン等も含有され、祛痰作用がある。しかし漢方では本薬を強壯剤とも考えている。

① 艾葉

精油を含み、その主成分はチネオール、他にαツヨン、セスキテルペン、セスキテルペンアルコール等も含有する。更にコリン、タニンの含有も報告されているが、収斂性止血作用があると言われる。

葛根

最近ダイゼイン、ダイジンおよび未知のイソフラボン誘導体が発見されたが、ダイゼイン

はアセチルコリンに拮抗して、腸の蠕動運動を抑制し弛緩させる。従って本薬の水浸液は鎮痙作用を有するが、一方解熱作用があるとも言われる。

漢方では項や背のこりを目標に用いることが多い。

滑石

天然のタルクであり、その主成分は含水珪酸マグネシウム。消炎性利尿剤と言われる。

瓜呂根

括楼根とも書く。有効成分未詳。漢方では解熱、止渴を目的に用いられることが多い。

瓜呂仁

脂肪油約二五%含有し、その中不飽和脂肪酸のトリコサン酸がもつとも多いが、薬効本体は不明。鎮咳、祛痰作用があると言われる。

乾姜

生姜を蒸して乾燥したもの。薬効は生姜の約二倍と言われる。

甘草

主成分はグリチルリチンと呼ばれるグリチルレチン酸とグルクロン酸の結合物であるが、他にフラバノン化合物のリクイリチンおよびピオチン等も報告されている。

グリチルレチン酸はD O C Aおよびプロゲステロン増強作用が認められたが、グリチルリチンにもハイドロコチゾンの作用を増強し、あるいは糖質コルチコイド並びに鉍質コルチコイド様作用も証明された。一方リクイリチンはアセチルコリンに因る腸管興奮を抑制することが認められた。

本薬エキスにはジフテリー毒薬、破傷風毒素に対する解毒作用も認められ、四塩化エチレン、アルコールによる肝障害に有効であるが、また消化管平滑筋に対して緊張を緩和させるので胃・十二指腸潰瘍には特効がある。本薬の緩和作用はその抗アセチルコリン、抗ヒスタミン作用にあると思われる。

⊕桔梗
プラチコジンと言うサポニンを含有するが、薬効本体の一部をなすものであろう。所謂鎮咳祛痰薬であるが、漢方では排膿の目的にも用いられ、化膿性疾患に賞用される。

枳実
精油を含有し、その主成分はdリモネンである。他にナリンギン、ロイフォリンと言うフラバノン化合物も含有するが、有効本体は

未詳。芳香性健胃薬で、漢方では胸もともしくはみぞおちのつかえを目標に用いられることが多い。

杏仁
脂肪油および青酸配糖体であるアミグダリンを含有し、鎮咳祛痰、局所鎮痛作用が認められる。最近パンガミン酸が発見され、この物質は抗脂肝、細胞呼吸における酸素吸収増大、解毒作用、あるいは脳下垂体、副腎系および中枢神経系にも作用することが報告された。更に本物質は気管支喘息にも有効であると言われる。

⑨苦参
アルカロイドのマトリンを約二%含有する。この中毒作用はよく知られているが、有効薬理作用については未詳。健胃、鎮痛、利尿作用が知られている。

⑩荊芥
精油約二%、その主成分はdメントンおよび少量のdリモネンであるが、薬効との関連は不明。漢方では発汗解熱、特に解毒薬として瘡腫に応用することが多い。

桂枝
局方の桂皮である。精油約二%、その主成分

は桂皮アルデヒドであるが、桂皮酸および桂皮アルコールの酢酸エステルの存在も報告されている。

本薬は通常発汗解熱、芳香性健胃驅風薬として知られているが、桂皮アルデヒドのような芳香族アルデヒドが大脳皮質の呼吸代謝を抑制し、中枢神経系の興奮を鎮静することが最近判明した。

漢方では高熱の場合の発汗解熱、または逆に微熱自然発汗の場合の止汗の目的や頭痛、のぼせ、精神不安などを目標に用いられることが多い。

㊦香附子

附子とは全く別の植物である。精油約1%含み、主成分はチペレンおよびチペロールであり、他に脂肪油等も報告されている。

漢方では月経不順、神経症等に応用されるが、前記成分との関連は明らかでない。

梗米 有効成分および真の薬効は全く不明。漢方では滋養、止渴の目的で用いる。

厚朴

アルカロイドのマグノクラリンおよびマグノロール、他に精油約1%（主成分はβオイデ

スモール）を含有する。

本薬水浸液はクラーレ様作用を有し、蛙腹直筋のアセチルコリンによる収縮を抑制する。

この作用の一部はマグノクラリンに因るものであろうと考えられている。

漢方では胸腹部の膨満、腹痛、咳嗽などを目標に用いられることが多い。

呉茱萸

アルカロイドのエボジアミン、ルテカルピンおよび香氣成分のエボデン、結晶性成分のエボジンを含有し、その水浸液はきわめて苦い。

以上のアルカロイドに鎮痛作用、軽度の体温上昇作用が認められたが、漢方では、鎮痛、健胃の目的で特に頑固な頭痛や嘔吐を目標に使われることが多い。

牛蒡子

配精体アルクチンおよび脂肪油、ステリン等を含有するが、有効本体は不明。

漢方では化膿性腫物、皮膚病に賞用される。

胡麻

脂肪油約50%、その脂肪酸は油酸、リノール酸、パルミチン酸、ステアリン酸、アラキニン酸、リグノセリン酸等。

本薬は漢方では強壯解毒薬としているが、胡麻油は軟膏基礎剤としても用いられる。

胡麻油

胡麻の項参照のこと。

五味子

有効成分未詳であるが、強力な鎮咳作用がある。漢方では強壯薬としても考えている。

柴胡

成分として α スピナステロール、 Δ スチグマステロールおよび脂肪油、アドニトールが報告されている。脂肪油は約二%、その主成分はパルミチン酸、ステアリン酸、油酸、リノール酸、リノレン酸、リグノセリン酸等であるが、以上の成分が薬効と関連があるという根拠はない。

最近当研究所では肝臓糖代謝に關与する水溶性新成分を発見した。本成分は恐らくエネルギー代謝系全般に關係するものであろうと推定している。

本薬の水浸液はまたチフスワクチン、アルコールによる肝障害に対しても有効であることが認められている。

漢方ではみぞおちのつかえあるいは胸や脇腹の重苦しさ、食欲不振、疲労倦怠感などを目

標に応用する場合が多い。

細辛

1アサリニンおよび精油約三%を含有し、精油の主成分はメチルオイゲノールおよび少量のアサリルケトンである。

精油には緩和な解熱作用と鎮静作用が報告されている。

山梔子

単に梔子とも言う。黄色色素の α クロチンを含有するが、薬効本体かどうか不明、本薬エキスは総輸胆管結紮家兎の末梢リンパ中のビリルビン量を抑制し、黄疸に有効であることが証明された。

漢方ではまた充血あるいは炎症による精神不安、出血などを目標に使われることもある。

山茱萸

有効成分および真の薬効など全く不明。漢方では強壯、強精薬と考えている。

山椒

精油約四%、その主成分はチトロネラル、シペンテン、1- β フェランドレン、ゲラニオールおよびこれらのエステル等、他にヒペリン、更に辛味成分として α および β サンシ

ヨール、サンシヨールⅡを含有する。

以上の成分と薬効との関係は未詳であるが、本薬は芳香性健胃作用があり、また驅虫効果も報告されている。

山薬

コリン、アルギニン、粘質物が報告されているが、有効本体および作用は全く不明。漢方では強壯薬としている。

地黄

蒸して乾燥したものを熟地黄と言い、陽乾したものを乾地黄と言う。マンニットを含有するが有効成分未詳。本薬は緩下作用があるから、この配合処方の適用上参考にするべきである。

漢方では補血強壯薬として、諸種の出血に用いることがある。

紫根

紫色素のアセチルシニコニンを含む。本成分は皮膚創面の新生や肉芽発生に対して有効であると言われる。

また最近の前記成分以外に経口的避妊効果のある成分が推定されている。

紫蘇葉

単に蘇葉とも言う。精油約〇・五%、その主

芍薬

成分はペリラルアルデヒド、他にdリモネン、αピネン等。紫紅色素はチアニンおよびそのパラクマールで、その他アデニン、アルギニンも報告されている。

ペリラルアルデヒドは桂皮アルデヒドと同じく、中枢神経系の興奮を鎮静させる作用が予想される。

漢方では発汗、鎮静、鎮咳の目的で用いるが、民間薬として魚肉による蕁麻疹に特効があることが知られている。

最近ペオニフロリンという安息香酸塩と考えられる新成分が発見されたが、その作用は未定である。

しかし恐らく本物質に起因すると思われる薬理作用、即ち家兔に対する呼吸興奮、血圧下降、心動強化、および家兔生体内腸管に対する緊張上昇、振幅増大、モルモット別出腸管に対する緊張低下等が報告されている。

本薬は緩下作用があり、また時には胃腸障害を起す人もあるから、本薬配合の処方を適用する場合にこの点を考慮すること。

漢方では腹直筋の異常緊張を目標に応用することが多い。

縮砂

精油約三%、その主成分はボルネオール、酢酸ボルネオール、リナロール、ネロリドル、右旋樟脳等。芳香性健胃作用があると言われる。

朮

精油約〇・四%その主成分はアトラクチロンであるが、薬効本體か否かは不明である。一方佐渡蒼朮（古立蒼朮）の精油約五%の中主成分はアトラクチロールで、このものは二物質の混晶である。最近アトラクチロリンの存在も報告された。

漢方では利尿薬として尿量減少、尿意頻繁を目標に用いられることが多い。

生薑

辛味成分はジンゲロン、ギンゲロン、シヨウガオール等、精油約二%でジンギベレエン、ジンギベロール、メチルヘプテノン、ノニルアルデヒド、リナロール、dボルネオール等である。

所謂芳香性健胃薬であるが、鎮嘔作用も報告されている。

升麻

成分未詳。漢方では解熱、止血の目的に用いられることがある。

② 津蟹

黒焼にして排膿の目的に用いる。

③ 石膏

天然の軟石膏で主成分は含水硫酸カルシウム。他に微量の有効成分が存在するという説もあるが明らかでない。

漢方では止渴の目的に用いることが多い。

川芎

精油約二%、その主成分は川芎ラクトン、川芎酸、川芎酸エステル、セダノン酸等。

本薬の精油は血管運動および呼吸中枢を興奮させる一方大脳の興奮を抑制するので、血圧上昇、呼吸促進作用と共に鎮静作用も認められる。また末梢血管を拡張する作用もあると言われる。

蟬退

漢方では補血強壯、鎮静の目的で用いられ、また冷え症、貧血、月経不順等を目標に用いられることが多い。

④ 大黃

セミのヌケガラである。薬効、成分共全く未詳。
クリソファノール、エモジン、アロエエモジ

ン、フィズチオン、レイン等のアントラキノ
ン誘導体が遊離および配精体として含有され
るが、最近クリソファノールアンスロンも発
見された。

その他樹脂、没食子酸、タンニンも含有す
る。

本薬の瀉下成分はアントラキノ誘導体と
も、あるいは樹脂成分であるともいう説があ
り一定しない。しかし大黄タンニン、クリソ
ファノール、エモジンは明らかに家兔摘出小
腸管の振幅を増大せしめる。

また一説に前記アントラキノン体が腸管内で
腸内細菌により還元せられ、その還元型が瀉
下作用を有すると言う。最近本薬の水浸液が
粥状動脈硬化の予防に有効であることが認め
られた。

漢方では本薬を瀉下剤のみならず、解毒作用
もあると考えている。

本薬に極めて敏感な体質があり、その場合は
服用後腹痛や下痢が甚だしくなることがある
から、本薬配合処方適用に当っては用量そ
の他に注意すべきである。

大棗

有効成分未詳。漢方では牽引痛、過敏症、咳
嗽等を目標に用い、緩和強壯薬と見なしてい
る。

沢瀉

有効成分未詳。漢方では尿量減少、尿意頻
繁、口渴等を目標に使用されることが多い。

⑦知母

アスフォニンと言うサポニン約六%、その他
サルササポゲニン、マルコゲニンおよびキモ
ニンを含有するが、薬効との関連は不明。

漢方では解熱、止渴の目的で用いることが多
い。

猪苓

有効成分未詳。漢方では尿量減少、口渴を目
標に使用されることが多い。

陳皮

ヘスペリジンおよび精油を含む。精油の主成
分はdリモネンである。ヘスペリジンはビ
タミンP作用があると言われる。

所謂芳香性健胃薬であるが、漢方では鎮嘔、
鎮咳祛痰の目的にも用いられる。

⑧冬瓜子

単に瓜子とも言う。有効成分未詳。漢方では
消炎、排膿の目的で用いることが多い。

当帰

ベルガプテン、精油約〇・二%、その主成分

はnブチリデンフタリド、nバレロフェノンカルボン酸、カルバクロール、サフロール、イソサフロール、pシメン等。その他、シトステロール、ニコチン酸、ビタミンB₁₂を含有する。

本薬の精油は延髄中枢を興奮させ、大脳は鎮静する。最近ブチリデンフタリドおよび新成分リグスチリドが抗アセチルコリン作用があることが認められた。

漢方で補血強壯薬として、冷え症、貧血、月経不順等を目標に用いることが多い。

桃 仁

青酸配精体アミグダリンおよび脂肪油約五〇%が報告されている。

杏仁と含有成分が類似するが、漢方では全く異なる目的に用い、本薬は所謂古血を除く作用があるとして、月経不順、月経困難等に応用されることが多い。

だ ど み く

十薬、重薬とも言われる。精油、デカノイルアセトアルデヒド、クエルチトリン、イソクエルチトリン等を含有する。精油の主成分はメチルノニルケトン、ミルセン、ラウリンア

ルデヒド、カプリンアルデヒド、カプリン酸等。また無機成分としては塩化カリ、硫酸カリ等が報告されている。

デカノイルアセトアルデヒドは、いんきん田虫、水虫等の白癬菌の発育を阻止する。またブドウ状球菌に対する抗菌力も強力である。クエルチトリンは強力な利尿作用があり、またクエルチトリンおよびイソクエルチトリンは毛細血管強化作用もあると言われる。

本薬は民間で排膿解毒薬として化膿性疾患に用いられる。

本薬の水浸液は緩下、利尿作用があるので、通常の瀉下剤の適しない便秘症に好適である。また最近では動脈硬化症の予防にも用いられる。

グラブララクトン、アンゲリカル、チグリ酸、アンゲル酸、ベルガプテン、パルミチン酸等が報告されている。

以上の薬効は明らかではないが、漢方では発汗、驅風、鎮痛の目的で用いる。

豚 脂

パルミチン酸、ステアリン酸、油酸等から構

独 活

③ 人參

成される、軟膏基礎剤。

パナキロン、パナキシシン、パナックスサポゲノールおよび精油パナセン等が報告されているが、これ等のものが薬効と関連があるかどうかは諸種の説があつて一定しない。

本薬の水性エキスは疲労回復作用があり、エーテルエキスは大脳鎮静、延髄諸中枢の興奮作用、アルコールエキスは血糖上昇抑制作用があると報告されている。いずれにせよ本薬は人体新陳代謝機能を増進させる作用が著しい。

漢方では疲労倦怠感、食欲不振、消化不良等を目標に用いることが多い。

竹節人參と呼ばれるものはパナックスサポニン約5%含有し、前者より疲労回復作用は劣るが、解熱、祛痰作用において優る。

④ 麦門冬

少量のβシトステロールが報告されているが、有効成分は未詳。

鎮咳祛痰、強心利尿作用があると言われる。

薄荷 精油約1%、主成分はメントールで、その他メントン、イソメントン、ピネン、カンフェ

半夏

ン、 Δ^1 メンテノン、1リモーネン、 Δ^3 ヘキセノールフェニル酢酸、エチルアミルケトン、メントフラン等。
本薬は芳香性健胃驅風薬で解熱作用もあると言われる。

最近鎮嘔解毒作用のあるグルクロン酸誘導体と推定される物質と水溶性の配糖体が報告されている。

漢方ではまた胃部の水分停滞感、咳嗽、咯痰、悪心、嘔吐等を目標に用いることが多い。

反鼻

黒焼にして解毒排膿の目的に用いる。

なお反鼻そのものの成分および薬効については別掲の「反鼻(まむし末)の薬効について」を参照のこと。

茯苓

パキミン酸、エルゴステリン、多糖類、無機物として鉄、カルシウム等を含むが、薬効本体不明。

漢方では尿量減少、胃部水分停滞感、めまい、心悸亢進等を目標に用いることが多い。

附子

所謂生根には猛毒アルカロイドであるアコニチン、メサコニチンおよび毒性の少ないイグナビン等を含有するが、薬用としては必ず熱処理したものを用い、処理法が完全であればアコニチン類は分解されて、毒性は著しく減弱する。

最近前記アコニチン類以外で熱処理で分解せず、毒性も少ない強心利尿作用がある成分の存在が推定されている。

漢方では鎮痛（神経痛、リュウマチ）強心利尿の目的で、新陳代謝機能が著しく衰えたもの（極度の冷え症、麻痺感等）を目標に用いるが、本薬配合処方では充実体質で体力旺盛な時期には投与してはならない。

本薬に因る中毒症状には五苓散で治療出来ることが多い。

防己

所謂漢防己に当る。シノメニン、ジシノメニン、シナクチン、ツズラニン、アクトツミン、マグノフロリン、イソシノメニン等のアルカロイドとβシトステロール、ステグマステロール等を含有する。

芒硝

シノメニンは神経痛、リュウマチに有効であることが知られていたが、最近この物質と本薬水浸液の薬理作用が報告された。それによると家兎網状内被系機能を亢進させ、また抗アレルギー作用も認められた。更にラットの関節炎に対して明らかに治療効果がある。漢方では利尿を目的で用いることもある。

通常天然の硫酸ナトリウムであるが、曾ては硫酸マグネシウムを使用していたと言う説がある。

家兎に経口的に投与した場合、胃運動は抑制されるが、胃内容の腸への移行を促進する。本薬は瀉下作用はあるが、腸管に対する刺激作用は認められないから、虚脱感を来すことはない。

有効成分未詳。漢方では発汗解熱、解毒の目的で用いることが多い。

ペオノール、安息香酸、フィトステリン等を含有するが、薬効との関連は全く不明。

漢方では古血を除く作用があるとして、月経不順、月経困難等を目標に用いることが多い。

防風

牡丹皮

牡蠣

い。

主成分は炭酸カルシウムであるが、微量の有効成分が存在するという説もある。漢方では心悸亢進、胃酸過多を目標に用いることが多い。

④麻黄

アルカロイド約0・3%、主成分はエフェドリンで、他にdプソイドエフェドリン、dノルプソイドエフェドリン、lメチルエフェドリン、dメチルエフェドリン、dメチルプソイドエフェドリン、lノルエフェドリン等。

また水性エキス中には多量のカリウム、カルシウムが含有される。

エフェドリンはアドレナリン分解酵素を抑制し、アドレナリン作用を増強するから、交感神経系の興奮、血圧上昇、発汗、気管支筋の弛緩等の作用がある。しかし作用はアドレナリンより緩和で且つ持続性がある。

⑤水飴
主成分は麦芽糖、デキストリンである。漢方では緩和、滋養強壯の目的で用いる。

⑥木通

ヘデラゲニン、オレアノール酸、多量のカリ塩類を含む。本薬は強力な利尿作用があるが、如何なる成分によるものかは不明。

木防已

トリロビン、イソトリロビン、ホモトリロビン、トリロバミン、ノルメニサリン、マグネフロリン等のアルカロイドを含有するが、これ等の作用はよく知られていない。わが国では通常漢防已を用いているようであるが、利尿作用は本薬の方が強力である。

⑦薏苡仁

脂肪油約10%で主成分はオクタテセン酸、パルミチン酸であり、少量のリノール酸、ミリスチン酸を含む。

本薬の脂肪油は末梢血管を拡張あるいは収縮させる。また緩下作用も認められる。

本薬は古来イボ取りに効果があることが知られているが、最近消化器癌に対する治療効果が発見され、有効成分が追究されている。

⑧竜骨
磷酸カルシウムを含有することは推定されることが、有効成分未詳。

漢方では心悸亢進、異常興奮を目標に用いら

れることが多い。

良姜 リョウキョウ

精油約1%、主成分はチネオール、dピネンで、その他ガランギン、ケンフェロールを含む。芳香性健胃薬である。

①連翹 レンギョウ

オレアノール酸が報告されているが、有効成分は不明。

漢方では解毒排膿の目的で用いることが多い。

②鹿角 ロウカク

黒焼にして解毒排膿の目的に用いる。

漢方薬と民間薬

漢方薬とは葛根湯、小柴胡湯等のように、漢方の古典に記載されている所謂一定の処方形になっているものを指し、唯一の例外を除いて通常二種以上の天然薬物を調合したものである。一方民間薬とは、げんのしょうこ、どくだみ等のように記載された原典はなく、民間で経験的に利用されてきたもので、通常唯一種の天然薬物を利用する。巷間家伝薬と称するものの大部分は、各種の天然薬物を調合しているので恰も漢方処方如く見えるが、根拠となる原典の指示通りではなく、経験的に配合されたものであるから民間薬に属すべきものである。

漢方薬は一定の指示に従って投与されるから、万人共通の普遍性はないが、治療効果は極めて適確であるに反し、民間薬は前者のような制約がない代りに、確実な治療は期待し得ない。

反鼻(まむし末)の薬効について

五八霜などの別名でも知られている反鼻(まむし末)は、わが国独特の強壯解毒薬として古くから使われてきたものであります。

この成分については、最近革命的な進歩を遂げた科学の力でメスが加えられ、特に大阪大学生薬学教室の研究陣を中心に新しい事実が次々と分つて参りました。即ちビタミンB₂、ナイアシン、パントテン酸、葉酸、B₆、B₁₂、ピオチン等のビタミンB群がすべて天然型で含有され、トリプトファン、リジンをはじめ八種の必須アミノ酸のすべてと、グルタミン酸を最高に高等動物に存在する全部のアミノ酸を含み、それらの量が極めてバランスがとれているのも一大特色であります。この点に関する限りでもいま評判のローヤルゼリー等にまさるともおとらないことが考えられますが、更に期待のプテリン類似体を多量に含み、シロネズミを使った実験においても生長期に多大の効果があらると認められました。

また武庫川女子大学の富田研究室で発見されたオフィジンはカルノシンと共に神経の機能を高めることが明らかにあり、一方脂質成分の高級脂肪酸類は結核にも有効であることが証明されました。

解毒成分については未だ判っておりませんが、多量に含有するタウリンが一役買っていることは確実のようです。古来の原始的な調製法の代わりに最新式の赤外線による低温調製法を行なうことにより、ビタミンA・B₁などが分解されずに含まれるようになり、更にビタミン群の含有量を高めることが出来るようになりました。

以上のことから栄養強壯作用のほか、発育期の成長促進、病気感染に対する抵抗力の増大、病気回復期および疲労回復に有効であることが科学的に証明されたわけであります。

処方解説の索引

茵陳蒿湯……………	四四	吳茱萸湯……………	八〇	清上防風湯……………	八八	補中益氣湯……………	七〇
安中散……………	四三	五積散……………	八一	大黃牡丹皮湯……………	五八	防己黃耆湯……………	六九
越婢加朮湯……………	四四	柴陷湯……………	五〇	大建中湯……………	五八	麻黃湯……………	七一
黃連解毒湯……………	四五	柴胡加竜骨牡蠣湯……………	五〇	大承氣湯……………	八九	麻杏甘石湯……………	七二
黃連湯……………	七五	柴胡桂枝湯……………	五二	大柴胡湯……………	五九	麻杏薏甘湯……………	七二
乙字湯……………	四五	柴胡桂枝干姜湯……………	五一	猪苓湯……………	六〇	麻黃附子細辛湯……………	九三
葛根湯……………	四五	柴胡清肝湯……………	八二	腸癰湯……………	九〇	麻子仁丸……………	九四
葛根湯加辛夷川芎……………	七六	三黃瀉心湯……………	五二	桃核承氣湯……………	六一	木防己湯……………	七三
加味道遙散……………	七七	小建中湯……………	五四	当帰芍薬散……………	六二	抑肝散加陳皮半夏……………	九五
甘麦大棗湯……………	七七	小柴胡湯……………	五五	当帰四逆加呉生湯……………	六一	六君子湯……………	九六
九味檳榔湯……………	七八	小青竜湯……………	五六	人參養榮湯……………	六三	苓姜朮甘湯……………	九八
芎帰膠艾湯……………	四六	十味敗毒湯……………	五三	人參湯……………	九一	苓甘姜味辛夏仁湯……………	九七
桂枝加朮附湯……………	四七	神秘湯……………	五七	麥門冬湯……………	六四	苓桂朮甘湯……………	七三
桂枝茯苓丸料……………	四八	炙甘草湯……………	八三	八味丸……………	六五	竜胆瀉肝湯……………	九八
桂枝湯……………	七九	梔子柏皮湯……………	八四	半夏厚朴湯……………	六六	桔梗石膏……………	九九
桂枝加芍薬湯……………	七九	真武湯……………	五七	半夏瀉心湯……………	六七	大黃……………	一〇〇
桂枝加竜骨牡蠣湯……………	四七	辛夷清肺湯……………	八四	排膿散及湯……………	九二	薏苡仁……………	一〇一
香蘇散……………	四九	消風散……………	五七	半夏白朮天麻湯……………	九二	どくだみ……………	一〇一
五苓散料……………	四九	四物散……………	八七	白虎加人參湯……………	六八	伯州散……………	六四
		十全大補湯……………	八五	茯苓飲……………	六八	紫雲膏……………	五三
		芍薬甘草湯……………	八六	平胃散……………	六九	中黃膏……………	一〇一
		小半夏加茯苓湯……………	八八	防風通聖散……………	七〇		

温 經 湯 (金匱要略)

適応症 指掌角皮症、更年期神経症、月経不順、月経過多、頭痛、腰痛、帯下。そのほか乾癬、凍瘡、上顎洞化膿症、虫垂炎、子宮發育不全、不妊症、流産癖など、
目 標 (イ)①元気があまりない②貧血様③冷え症の女性
(ロ)①クチビルが乾く②手掌がほてる③下腹の膨満あるいは不快な感じがある。(全体的に下半身が冷え、上半身に熱感・ほてり感がある)

以上が主な目標であるが、ほかに①のぼせ②嘔き気③精神神経症状④せき⑤腰の冷え⑥腹痛⑦下痢⑧婦人生殖機能の低下などの副次的目標を呈する。

構 成 当帰、川芎、芍薬、桂皮、牡丹皮、麦門冬、人参、生姜、甘草、呉茱萸、半夏、阿膠

備 考 進行性指掌角皮症によく効く。大塚敬節先生は「私はこれで、どれほどこの症を治したか、ちょっと覚えなほほどである」と述べ、矢野敏夫先生も指掌角皮症には、ほとんどこれで効くと経験を語っておられる。
主婦湿疹(手の指が堅くなって、ヒビ割れし、シミたり痛かったりするもの、中性洗剤などの副作用によるものが多い)にも応用される。また、女性の一般の

湿疹にも応用されている。

不妊症に用いる。「金匱要略」には「婦人少腹寒、久シク胎ヲ受ケザルヲ主ル」とあり、近年当帰芍薬散などが応用されているが、本方の由来のほうは歴史的には古い。

本方は(古典的な意味で)虚証の瘀血剤とされており、桂枝茯苓丸と桃核承気湯に比し下腹部にしこり、圧痛抵抗がないのが特徴といわれる。

△加味逍遙散▽指掌角皮症、湿疹、更年期障害、血の道症などで同じく用いるが、温経湯の人はより元気がなく、神経症状は抑うつ型。目標(ロ)で鑑別する。

△当帰芍薬散料▽冷え症、不妊症で同じく使うが目標(ロ)の①②がない。また水毒症状の有無で鑑別する。

△芎帰膠艾湯▽子宮出血、月経過多など同じく使うが、目標(ロ)の①②で鑑別する。

△当帰四逆加呉茱萸生姜湯▽しもやけ、腰痛、冷え症で同じく使うが、当帰四逆加呉茱萸生姜湯は手足が冷えるのみではてらない。

△八味丸▽手足のほてりでは同じ、八味丸料は足のほてりが強く、口がかわく、尿不利または頻数が鑑別点。

△小建中湯▽手足のほてりでは同じ。ノドのかわき、腹痛などが鑑別点。

温 清 飲 (万病回春)

適応症 ①かゆみのひどい皮膚掻痒症、湿疹、蕁麻疹、皮膚炎など。

②にきび、しみ、黒皮症などの皮膚疾患。

③ベーチェット病(口内炎、陰部潰瘍、皮疹、などの症状のいずれかを伴うもの)

④アレルギー体質の改善。

⑤のぼせ、精神不安を伴う高血圧、肝障害、神経症

⑥各種の出血疾患……子宮出血、血尿、鼻出血、咯血。

目 標 (1)①皮膚が黒かった色、または黄かった色②皮膚が乾燥しカサカサのもの、③慢性的な皮膚・粘膜疾患

で治療困難のもの、④肝機能低下または障害あるもの、⑤アレルギー体質のもの。

(2)①の③で、①かゆみがひどい、②熱感があり、③充血、炎症、潰瘍があり、出血の傾向がみられるもの、④のぼせ、精神不安を伴う出血性の諸疾患。

(3)肋骨弓下部および心下に抵抗あり、腹直筋が緊張しているもの。

構 成 当帰、川芎、芍薬、地黄、黄連、黄芩、黄柏、山梔子。

備 考 皮膚病にもっとも繁用される処方で慢性的に経過したもの。または、体質的に本方の適応するもの、急性的に起こった皮膚病に用いる。

本方の適する皮膚病は、多くが乾燥した丘疹でかゆ

みがひどく、かき破って出血することが多い。白い粉様のものが患部近くにつく場合もある。消風散の効かないものに本方を与え、本方の効かないものは、消風散にかえるとよい。

口内炎や陰部潰瘍のような粘膜の疾患にもよく用いられ、これも体質的な特徴を見て用いる。ただし、この場合は皮膚の状態にはこだわらないでよい。

最近では、ベーチェット病のリュプシツツ型に効くことが東大物療内科で明らかにされている。

「万病回春」では、本方は血崩門(子宮出血の部)にかかげられ、婦人諸出血の薬でもある。

矢数道明先生は、本方で肝障害による皮膚掻痒症や皮膚のきたない黄かった色が良くなる、肝機能障害改善とアレルギー体質改善に有効と述べている。

△十味敗毒湯△同じく皮膚病、体質改善の処方であるが温清飲はかゆみがひどく、乾燥性、熱感がわりと強く、貧血様症状を呈するやや虚弱体質者に適応する。

△消風散△夏季に増悪、痂皮をつくり、湿性で分泌液が出て汚れた感じがするものに用いるが、温清飲は乾燥してかゆみがひどく、ほてりの強いものに用いる。

△四物湯△単純に貧血様症状の婦人または体質虚弱の傾向のもの、皮膚乾燥のものに用いる。かゆみ、充血、炎症、のぼせ、熱感、精神不安などの症状は温清飲がより顕著。

△黄連解毒湯△皮膚の乾燥、貧血様症状、体質虚弱の傾向が少なく、病歴の経過が本方に比しより短いもの。

荆芥連翹湯（一貫堂）

適応症 ①一貫堂のいわゆる解毒症体質の青年期の体質

改善

- ②蓄膿症、肥厚性鼻炎、上顎洞化膿症、鼻出血
- ③中耳炎、耳が腫れて痛むもの
- ④神経衰弱、禿髮症
- ⑤湿疹が出やすいアレルギー体質または腺病体質
- ⑥肺結核または肺浸潤などの胸部疾患の予防

目標 (1)①皮膚が浅黒い、②湿疹がでやすい、③アレルギー体質、④または腺病体質のもの。

(2)①耳や鼻、咽喉などに急性慢性の炎症・化膿症がでやすい者、②肺結核などの胸部疾患にかかりやすいもの

(3)①脈は緊、腹は腹直筋が緊張、②手足の裏に油汗の多いもの、③肝機能障害あるもの。

構成 当归、川芎、芍薬、地黄、黄連、黄芩、黄柏、山梔子、連翹、防風、薄荷、荆芥、甘草、枳実、柴胡、白芷、桔梗。

備考 元來中耳炎、蓄膿症、肥厚性鼻炎に目標を置いて用いられる処方であるが、一貫堂方では解毒症体質

の青年期の体質改善薬として用いられ、上記の疾患にとどまらず、湿疹などの皮膚病、胸部疾患、神経衰弱、禿髮症と広く病名にこだわらずに使える処方である。

解毒症体質は、瘀血症体質（通導散）、臟毒症体質（防風通聖散）に対するもので、皮膚の浅黒い腺病体質者で幼少年期は疔が強く、上気道炎、リンパ腺炎をわずらいやすく、青年期は結核性疾患、頭部炎症性、化膿性疾患をわずらいやすく、壮年以降は下半身の生殖器、肛門部、泌尿器などの炎症、化膿性疾患にかかりやすいものをいい、それぞれ柴胡清肝湯、本方および竜胆瀉肝湯を用いて治療する。

矢数格氏は、青年時代憂鬱な印象を与えるものは解毒症体質で、一般に長身で筋肉型、削瘦型で俗に言う骨っぽい体格の所有者と述べている。

△清上防風湯▽この方も頭部の炎症、化膿症に用いられるが、荆芥連翹湯に比べ体質の強壯壯実なもの、発疹や炎症に勢いがあり、充血して赤いものに用いる。

△葛根湯加辛夷川芎▽同じく蓄膿症、鼻炎に用いられるが、荆芥連翹湯はより慢性的に経過したもの、難治のものに用いるとよい。

小太郎漢方製薬株式会社

本社 / ☎531 大阪市北区中津2丁目5番23号
電話 大阪 06-371-9106
FAX 06-371-3476

研究所 / ☎569 大阪府高槻市須賀町47番3号
電話 大阪 0726-71-0305
FAX 0726-74-2618

高槻工場 / ☎569 大阪府高槻市須賀町47番3号
電話 大阪 0726-75-6247
FAX 0726-74-2618

美川工場 / 〒929-02 石川県石川郡美川町字鹿島町ろ96-1
電話 0762-78-5821
FAX 0762-78-5879

東京支店 / ☎101 東京都千代田区神田佐久間町4-1 (美倉橋ビル)
電話 東京 03-3861-0339
FAX 03-3861-6943

大阪支店 / ☎532 大阪市淀川区西中島6丁目11番25号 (第10新大阪ビル3F)
電話 大阪 06-390-5801
FAX 06-390-5808

札幌営業所 / ☎003 札幌市白石区中央一条6丁目9番15号 (イチムラビル)
電話 札幌 011-862-6522
FAX 011-862-7141

仙台営業所 / ☎983 仙台市宮城野区日の出町2丁目2番17号 (高文ビル)
電話 仙台 022-239-8231
FAX 022-239-8257

名古屋営業所 / ☎460 名古屋市中区松原1丁目15-18
電話 名古屋 052-323-6911
FAX 052-323-6918

広島営業所 / ☎730 広島市中区広瀬町4番10号 (小田ビル)
電話 広島 082-293-9870
FAX 082-291-6806

福岡営業所 / ☎812 福岡市博多区祇園町6番43号 (ギオン柴田ビル3F)
電話 福岡 092-281-1708
FAX 092-271-0725

新潟出張所 / ☎950 新潟市弁天橋通1丁目2-32
電話 新潟 025-286-5171
FAX 025-286-7766

現代漢方治療の指針

発行

大阪市北区中津2丁目5-23

小太郎漢方製薬株式会社

1980. 9. 再版増補印刷 ㊦ 500